

法務総合研究所

研 究 部 報 告

32

－ 最近の非行少年の特質に関する研究 －

2 0 0 6

法務総合研究所

は し が き

法務総合研究所研究部が最近実施した調査研究の結果を取りまとめ、ここに研究部報告32号を刊行する。

本報告においては、最近の非行少年の特質を把握するために、研究部が平成17年に実施した三つの調査研究の結果を報告する。

我が国の少年非行の現状は、少年人口の減少により少年刑法犯検挙人員そのものは必ずしも増加傾向にあるとはいえないものの、その人口比を見ると、昭和50年代後半ころに次ぐ高水準にあり、量的に見て、今後も予断を許さない状況にあると思われる。

他方、最近の少年非行に関しては、量的側面の問題以上に、非行少年の資質やその背後にある家族関係等における問題の複雑・多様化といった質的側面の変化が問題として取り上げられることが多い。一見、「普通」に近い少年がいきなり重大な非行に走るケースが目立つようになってきたことから、少年の心に何らかの変化が起こり、少年たちが質的に変わり始めているなどしばしば指摘される。

しかし、様々な個性を持ち、異なった家庭環境の下で成長してきている非行少年全体の質的变化を客観的に把握することは容易ではなく、実証的データに基づいて、これを分析・検討した研究は、これまでのところほとんど見当たらない。

法務総合研究所では、平成2年及び10年に「非行少年の生活意識と価値観」という非行少年を対象とする意識調査を実施し、非行少年の意識の経年変化等について検討している。本研究では、非行少年を対象とする意識調査に加えて、非行少年の保護者を対象とする意識調査及び少年院の法務教官を対象とする意識調査という三つの調査を実施し、その結果を検討することによって、最近の非行少年の特質を実態に即して把握しようと試みた。三つの調査を併せて実施した理由は、非行少年の質的变化を客観的に把握するためには、非行少年の主観的な意識の変化を把握するだけでなく、非行少年の保護者の意識や非行少年と行動を共にし、その改善・更生に取り組んでいる少年院教官という専門家の視点からの見方も含め、総合的に検討することが不可欠と考えたからである。

本研究の一部は、既に平成17年版犯罪白書に掲載し、同白書においては、最近の非行少年の特質として、人に対する思いやりに欠けるなどの資質面での問題性が大きくなっていること、甘えの通用する狭い人間関係の中にとどまろうとするなどの対人関係面での問題性がうかがわれること、指導力に問題のある保護者が増えてきていること等を挙げた。そして、これらを踏まえ、①人の痛みに対する共感性を育てる処遇、②集団場面を活用した処遇、③保護者の自発的対応を促す働き掛けが重要になっていることを指摘した。

現在、関係機関及び地域社会においては、青少年の非行防止等に関する様々な取組が行われている。今後において一層効果的な取組を続けていくためには、非行少年自身及び彼らを取り巻く家族、仲間集団等の特質を十分踏まえて、立ち直りのための働き掛けを行っていく必要がある。本報告書が、今後、非行防止対策、非行少年処遇等の更なる改善を図る上で、いささかでも寄与することができれば幸いである。

最後に、今回の調査を実施する上で、御理解と御協力を賜った少年院及び少年鑑別所を始めとする法務省関係機関の各位に対し、心から謝意を表する次第である。

平成18年3月

法務総合研究所所長

中 井 憲 治

要 旨 紹 介

この研究部報告には、3編の報告が掲載されているが、その利用の参考のため、各報告の要旨を紹介する。

1 「青少年の生活意識と価値観（第3報告）」

現代の非行少年がどのような生活意識や価値観を持っているかを把握するとともに、平成2年と10年に実施された同種調査との経年比較を行い、また、非行性による相違を明らかにすることを目的として、少年鑑別所内少年を対象として意識調査を行ったものである。

- (1) 家庭生活に対する満足度は、次第に上昇しており、7割以上の者が「満足」と回答していた。家族との関係について、「家族との話を楽しいと感じる」、「自分の将来について、親に話したい」とする者の比率が上昇するとともに、親に対して、「気軽に話ができる」、「悩みを打ち明けられる」などとする者の比率も上昇し、父親や母親への親和的感情が高まり、心理的距離が縮まりつつあることがうかがわれる。

他方、家庭生活に対して「不満」とする者の不満理由を見ると、最近の経済状況等の影響で、金銭面での貧富の差をより強く実感するようになり、それが家庭生活への金銭的な不満へとつながっていることがうかがわれる。

- (2) 友人関係に対する満足度も、次第に上昇してきており、今回調査では、8割近くの者が「満足」と回答していた。友人関係では、当たり障りなく楽しみを共有でき、寂しさを紛らわす相手になってくれる友人を求める傾向が徐々に強まっていることがうかがわれる。

友人関係に対する満足度では、非行性による有意差が認められた。少年鑑別所初入者と比較して再入者の方が満足度が低く、「相手にけっこう気をつかっている」、「あまり深刻な話はしない」など、友人関係に距離を置いていることがうかがわれる。

- (3) 調査結果の総合的統計分析では、非行少年の生活満足度、対人感情及び対人態度の構造及びそれらの関連について検討した。因子分析では、非行少年の対人感情の因子として、劣等感、無力感及び不信感の三つを、対人態度の因子として、自己優先的態度及び状況依存的態度という二つの因子を抽出した。

さらに、これらの因子の関係を検討したところ、生活満足度が低下すれば、劣等感や不信感等が強まり、偏った対人態度も強まる等の関連が見いだされた。

2 「非行少年の保護者の意識」

全国の少年院に収容されている少年の保護者が、養育態度、非行原因、少年院教育への期待等について、どのような認識を持っているかを調査したものである。

- (1) 子育てでは、「誰とでも仲良くできること」、「社会のルールを身につけること」など、多くのことを大切と考えてきたとほとんどの親が回答していた。ただし、子供には多くのことを期待する一方で、子供の手本となる生き方を大切と考えてきたとする親の比率はやや低かった。また、子育ての問題としては、「子供に口うるさかった」、「夫婦の子育ての方針が一致していなかった」、「子供の好きなようにさせていた」ことを挙げる親が多かった。

子供の非行の原因については、「本人の問題」とする親が最も多く、次いで、「友人の問題」、「家庭の問題」の順であった。非行原因を子供本人の自覚の問題や付き合っている友人の問題と認識す

る親が多く、それらと比較すると、家庭の問題と子供の非行を結び付けて考えようとする親はやや少なかった。

- (2) 非行少年の父親と母親との間には多くの点で認識に相違が認められた。父親の方が子育てに対する関心の乏しさが問題であったと認識している比率が高かったのに対し、母親の方は、過干渉が問題であったと認識している比率が高かった。子供の将来や親子関係についても、父親の方が今後を楽観的に見ているのに対し、母親の方は、指導の行き詰まりや親自身の変化の必要性を感じている比率が高かった。
- (3) 調査結果の総合的統計分析では、子供の非行に対する現在の認識によって、親の認識のタイプを「問題の外在化」（子供の非行への対応に行き詰まり、交友関係の悪さなど非行の原因を外部に帰属させようとの認識）、「親変化の自覚」（非行の立ち直りのためには親自身が変わることが必要との認識）、「子供信頼」（子供が必ず非行から立ち直るとの認識）の三つに分けて考えることによって、様々な特徴が浮かび上がり、それぞれの親の認識のタイプに応じた働き掛けにおける留意点について考察を行った。

3 「少年院教官から見た最近の非行少年」

最近の少年非行の質的側面を分析するため、少年院に勤務している法務教官が、最近の非行少年についてどのような認識を持っているのかを調査したものである。

- (1) 日々、非行少年と行動を共にし、その改善・更生に取り組んでいる少年院教官の60%以上が、最近、非行少年の抱える問題の中身が変化し、70%以上の少年院教官が、その変化によって非行少年の処遇が困難になっていると感じていた。

非行少年の保護者については、「子供の行動に対する責任感がない」、「子供の言いなりになっている」、「子供の行動に無関心である」と指摘する回答の比率が高く、指導力に問題のある非行少年の保護者が「増えた」と認識している少年院教官が80%を超えていた。

- (2) 非行少年のどのような問題性の変化によって、非行少年処遇の困難度が増しているのかを明らかにするため、非行少年の資質面、規範意識面、交友関係面等の問題性に関する項目の回答結果を因子分析したところ、衝動性、同調性及び対人障害性の三つの因子を抽出できた。

これらの三つの因子の中では、衝動性因子に含まれる項目の選択比率が他の因子に含まれる項目より比較的高くなっており、少年院教官は、最近の非行少年の問題性の変化として、衝動性に関連する問題性が特に大きくなっていると認識していることがうかがわれる。

- (3) 保護者の指導力に関して、具体的にどのような問題が増えているのかを明らかにするため、保護者の指導力に関する項目に対して因子分析を行ったところ、過干渉、虐待、期待過剰、無関心の四つの因子を抽出できた。最近の保護者の指導力の問題として抽出された四つの因子の中では、特に、無関心、無責任の問題が大きくなっていると少年院教官が認識していることがうかがわれる。

家族関係の問題に関する項目の回答結果に対する因子分析では、交流希薄関係、葛藤関係、引きこもり関係の三つの因子を抽出できた。これらの三つの因子の中で、少年院教官は、最近の家族関係の問題として、家族間の交流が希薄になっている点が特に大きくなっていると認識していることがうかがわれる。

研究部長

渋谷 慎 吾

最近の非行少年の特質に関する研究

青少年の生活意識と価値観（第3報告） 3

非行少年の保護者の意識 49

少年院教官から見た最近の非行少年 81

研究官	近 藤 日出夫
研究官	出 口 保 行
研究官補	小 島 まな美
研究官補	中 村 統 吾
名古屋矯正管区第三部教育課専門職（前研究官補）	小 國 万里子

青少年の生活意識と価値観 (第3報告)

目 次

第1 調査の実施概要	7
1 調査の目的	7
2 調査実施方法	7
(1) 質問項目	7
(2) 調査方法	7
3 分析対象者	8
第2 調査結果の基礎的統計分析	10
1 家庭関係	10
(1) 家庭生活に対する満足度	10
(2) 家庭生活での不満の理由	11
(3) 家族との関係	12
2 交友関係	13
(1) 友人関係に対する満足度	13
(2) 友人関係の不満の理由	14
(3) 友人との関係	16
(4) 大切な友人	17
3 周囲の人々との関係	19
(1) 経年比較	19
(2) 非行性による比較	20
4 中学生活	21
5 地域社会	22
6 人の暮らし方	23
(1) 経年比較	23
(2) 非行性による比較	24
7 社会に対する満足度	25
(1) 満足度	25
(2) 社会に対する不満の理由	26
8 態度・価値観	27
(1) 経年比較	27
(2) 非行性による比較	29
9 対人感情	30
(1) 経年比較	30
(2) 非行性による比較	31
10 同世代の者に対する見方	33
(1) 経年比較	33
(2) 非行性による比較	34
11 非行に対する意見	34

(1) 経年比較	34
(2) 非行性による比較	35
12 心のブレーキ	35
(1) 経年比較	35
(2) 非行性による比較	36
13 これからの生活で大切なこと	36
14 自分の生き方に対する満足度	37
(1) 経年比較	37
(2) 非行性による比較	37
第3 調査結果の総合的統計分析	39
1 生活満足度の因子分析	39
2 対人感情の因子分析	40
3 対人態度の因子分析	41
4 生活満足度、対人感情及び対人態度の関連について	43
(1) 仮説的な因果モデル	43
(2) 共分散構造分析による生活満足度、対人感情及び対人態度の関連の検討	43
第4 まとめ	47

第1 調査の実施概要

1 調査の目的

この調査は、非行少年の家庭・交友・社会等に対する適応感、生活意識、価値観等についての総合的、体系的な調査を全国規模で実施することにより、最近の非行少年がどのような生活意識や価値観を持っているかを把握することを目的としている。我が国において、非行少年の意識に関して、包括的、経年的に行われている研究は、数少ない¹。今回が第3回となる本調査の結果を分析し、過去における同種調査の結果との相違を明らかにすることによって、今日における少年非行の原因を探り、もって非行の防止及び非行少年の改善更生に係る諸方策を検討するための基礎資料を得ることが調査の目的である。

法務総合研究所では、平成2年に第1回調査（以下「2年調査」という。）、10年に第2回調査（以下「10年調査」という。）を実施しており、その結果は、犯罪白書^{2,3}において概要を紹介しているほか、法務総合研究所研究部報告等^{4,5,6}において詳しい報告を行っている。

なお、今回実施した第3回調査（以下「今回調査」という。）の結果の概要については、平成17年版犯罪白書に掲載した。

2 調査実施方法

(1) 質問項目

各回の調査ごとの非行少年の意識の変化が明らかになるよう、ほとんどの質問項目は、10年調査で使ったものと同一のものを用いた。ただし、最近の非行少年の特質をとらえるため、関係機関が実施した同種調査の内容等を参考として、新たな質問項目を幾つか追加する一方、削除した質問項目もある。

10年調査で使った調査票と異なる質問項目は、次のとおりである。

ア 新設した質問項目

Q9 中学生活

Q10 地域社会

イ 削除した質問項目

学歴

今度の事件を起こした頃の就業状況

同じアンケートを以前に受けたことがあるかどうかの確認

(2) 調査方法

各少年鑑別所に依頼し、個別方式又は集団一斉方式で実施して回収した。なお、調査票は無記名とした。

1 総務庁青少年対策本部「非行原因に関する総合的研究調査（第3回）」、1999

2 法務総合研究所「平成2年版犯罪白書」、1990、291-330

3 法務総合研究所「平成10年版犯罪白書」、1998、308-341

4 茅場薫ほか「非行少年の生活・価値観に関する研究（第1報告）」、法務総合研究所研究部紀要34、1991、55-111

5 坪内宏介ほか「非行少年の生活・価値観に関する研究（第2報告）」、法務総合研究所研究部紀要35、1992、187-202

6 福田美喜子ほか「非行少年の生活意識と価値観」、法務総合研究所研究部報告4、1999、85-225

3 分析対象者

平成17年2月14日から同年4月15日までの2か月間に全国の少年鑑別所に観護措置で入所した者のうち、調査が可能であった、男子2,552人(88.1%)、女子345人(11.9%)の計2,897人であり、平均年齢は16.9歳であった。

今回調査の分析対象者を男女別・年齢層別に見ると、表1-1のとおりである。

なお、ここでいう年齢層とは、「年少少年」が14～15歳、「中間少年」が16～17歳、「年長少年」が18～19歳である。

表1-1 男女別・年齢層別の分析対象者

区 分	総 数	年少少年	中間少年	年長少年
総 数	2,897 (100.0)	604 (20.8)	1,178 (40.7)	1,115 (38.5)
男 子	2,552 (100.0)	500 (19.6)	1,037 (40.6)	1,015 (39.8)
女 子	345 (100.0)	104 (30.1)	141 (40.9)	100 (29.0)

注 ()内は、総数に対する年齢層別の構成比である。

分析対象者を男女別・少年鑑別所入所歴別に見ると、表1-2のとおりである。

少年鑑別所初入所の者(以下「初入者」という。)は2,065人(71.3%)、少年鑑別所再入所の者(以下「再入者」という。)は832人(28.7%)であった。また、調査対象者2,897人のうち、少年院入院歴のない者は2,564人(88.5%)、少年院入院歴のある者は333人(11.5%)であった。

表1-2 男女別・少年鑑別所入所歴別の分析対象者

区 分	総 数	初 入 者	再 入 者
総 数	2,897 (100.0)	2,065 (71.3)	832 (28.7)
男 子	2,552 (100.0)	1,791 (70.2)	761 (29.8)
女 子	345 (100.0)	274 (79.4)	71 (20.6)

注 ()内は、総数に対する少年鑑別所入所歴別の構成比である。

分析対象者を男女別・非行名別に見ると、表1-3のとおりである。男女ともに窃盗が最も多く、次いで、傷害・暴行の順となっている。男子は女子と比較して道路交通法違反が多いのに対して、女子は男子と比較して覚せい剤取締法違反及びぐ犯が多い。

表 1－3 男女別・非行名別の分析対象者

区 分	総 数	非 行 名							
		強 盗	傷害・ 暴 行	恐 喝	窃 盗	道 路 交通法	覚せい剤 取締 法	ぐ 犯	その他
総 数	2,888	117	454	213	1,055	381	71	74	523
	(100.0)	(4.1)	(15.7)	(7.4)	(36.5)	(13.2)	(2.5)	(2.6)	(18.1)
男 子	2,545	114	407	197	976	369	25	30	427
	(100.0)	(4.5)	(16.0)	(7.7)	(38.3)	(14.5)	(1.0)	(1.2)	(16.8)
女 子	343	3	47	16	79	12	46	44	96
	(100.0)	(0.9)	(13.7)	(4.7)	(23.0)	(3.5)	(13.4)	(12.8)	(28.0)

注 ()内は、総数に対する非行名別の構成比である。

第2 調査結果の基礎的統計分析

調査結果の基礎的分析では、質問項目ごとに①経年比較、②非行性による比較を行う。経年比較では、2年調査、10年調査及び今回調査の結果を比較する。非行性による比較では、少年鑑別所の初入者を非行性が「進んでいない」、再入者を非行性が「進んでいる」とみなして、両者の結果を比較する。

経年比較及び非行性による比較ともに、主にクロス集計分析によって検討する。クロス集計分析は、変数間に統計的に有意な関係があるかどうかを見るための手法であり、ここでは、 χ^2 検定を実施し、有意性を確認する。その際、できるだけ構造を単純化し、結果を理解しやすくするために、必要に応じて質問項目のカテゴリーを統合し、無回答を除いて分析する。

1 家庭関係

(1) 家庭生活に対する満足度

あなたは、家庭生活に、どのくらい満足していますか。(Q1)

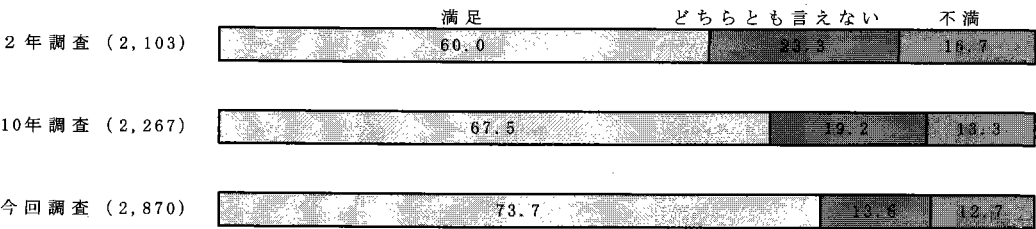
- 1 満足
- 2 やや満足
- 3 どちらともいえない
- 4 やや不満
- 5 不満

ア 経年比較

家庭生活に対してどのくらい満足しているかに関する経年比較は、図2-1-1のとおりである。

家庭生活に対する満足度を、「満足」(「満足」及び「やや満足」の合計。以下同じ。),「どちらともいえない」,「不満」(「不満」及び「やや不満」の合計。以下同じ。)の3カテゴリーに統合し、これまでの3回の調査結果の間でクロス集計を行ったところ、 χ^2 値が有意となった($\chi^2(4)=114.08^{***}$)。残差分析から「満足」の比率が次第に上昇しており、家庭生活に対する満足度が高まりつつあることがうかがわれる。

図2-1-1 家庭生活に対する満足度(経年比較)



[$\chi^2(4)=114.08^{***}$]

- 注 1 「満足」は、「満足」及び「やや満足」を合計したものであり、「不満」は、「不満」及び「やや不満」を合計したものである。
- 2 () 内は、回答者数である。

イ 非行性による比較

少年鑑別所入所歴別に見ると、家庭生活に対して「満足」と回答した者の比率は、初入者が74.3%、

再入者が72.2%で、初入者の「満足」の比率が若干高かったが、クロス集計を行い、 χ^2 値を求めたところ、有意ではなかった ($\chi^2(2)=2.88n.s.$)。

(2) 家庭生活での不満の理由

「やや不満」、「不満」とのことですが、それはどういう理由からですか。(Q2)

- 1 家庭に収入が少ない
- 2 家庭内に争いごとがある
- 3 親の愛情が足りない
- 4 親が自分を理解してくれない
- 5 病人がいる
- 6 きょうだいと気が合わない
- 7 家の周囲の環境が悪い
- 8 家が狭すぎる
- 9 ただなんとなく
- 10 その他

注 本問は、Q1で「やや不満」又は「不満」と回答した者に対してのみ質問をしている。

ア 経年比較

今回調査では、家庭で生活する上で不満としていることとして、「親が自分を理解してくれない」が43.8%と最も高く、次いで、「家庭に収入が少ない」39.2%、「家庭内に争いごとがある」38.6%の順となっていた。

家庭で生活する上で不満としている理由の上位5番目までの経年比較は、表2-1-2のとおりである。

いずれの調査でも1位は、「親が自分を理解してくれない」であった。2年調査では5位以内に入っていなかった「家庭に収入が少ない」が、10年調査では3位に、今回調査では2位となっており、金銭面での不満が上位になってきている。

表2-1-2 家庭生活での不満の理由（経年比較）

区 分	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
2年調査 (352)	親が自分を理解 してくれない	家庭内に争いご とがある	親の愛情が足り ない	ただなんとなく	家が狭すぎる
	53.7	47.2	30.4	29.5	27.3
10年調査 (301)	親が自分を理解 してくれない	家庭内に争いご とがある	家庭に収入が少 ない	親の愛情が足り ない	きょうだいと気 が合わない
	49.8	39.2	31.2	26.2	21.9
17年調査 (365)	親が自分を理解 してくれない	家庭に収入が少 ない	家庭内に争いご とがある	親の愛情が足り ない	家が狭すぎる
	43.8	39.2	38.6	26.0	21.9

注 1 数値は、項目に該当する者の比率である。

2 上限のない複数回答である。

3 ()内は、回答者数である。

イ 非行性による比較

少年鑑別所入所歴別に見ると、家庭で生活する上で不満とする項目の上位5番目までの順位は、初入者も再入者も同じで、不満理由に違いは見られなかった。

(3) 家族との関係

あなたは、家の中で、次（ア～キ）のことを感じたり、思ったりしたことがありますか。（Q3）

ア 家族との話を楽しいと感じる

イ 家では自分の部屋にひとりでいたいと思う

ウ 自分の将来について、親に話したいと思う

エ 自分が何をしても、親があまり気にしないと感じる

オ 親がきびしすぎると感じる

カ 親のいうことは、気まぐれであると感じる

キ 親が自分のいいなりになりすぎると感じる

（選択肢）

1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

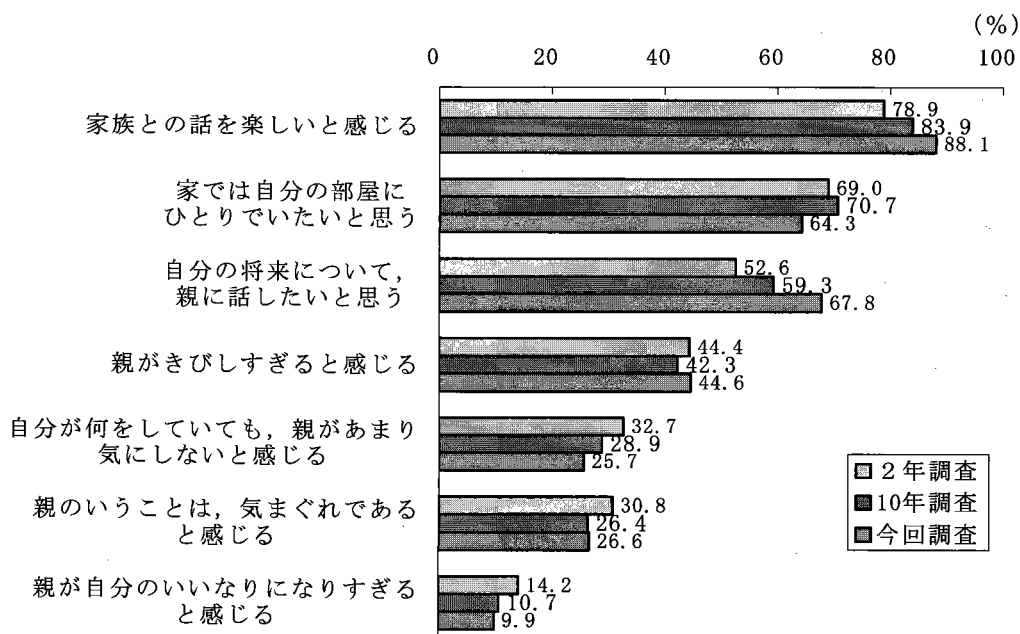
ア 経年比較

家族との関係についてどのように認識しているかに関する経年比較は、図2-1-3のとおりである。

各項目の回答を、「ある」（「よくある」及び「ときどきある」の合計。以下同じ。）、「ない」（「まったくない」及び「あまりない」の合計。以下同じ。）の2カテゴリーに統合し、これまでの3回の調査結果の間でクロス集計を行って、経年による回答に差異が見られるかどうかを検討した。

いずれの調査においても、「家族との話を楽しいと感じる」が「ある」とする者の比率が最も高く、「家では自分の部屋にひとりでいたいと思う」、「自分の将来について、親に話したいと思う」も比較的高かった。

図2-1-3 家庭との関係（経年比較）



注 「よくある」及び「ときどきある」を合計した比率である。

各項目の回答について、3回の調査結果の間でクロス集計を行ったところ、「家族との話を楽しいと感じる」($\chi^2(2)=76.18^{***}$)、「自分の将来について、親に話したいと思う」($\chi^2(2)=120.36^{***}$)の χ^2 値がそれぞれ有意となり、残差分析から「ある」の比率が次第に上昇しているところから、家族との親和的感情が高まりつつあることがうかがわれる。

他方、「家では自分の部屋にひとりでいたいと思う」($\chi^2(2)=25.70^{***}$)、「自分が何をしても、親があまり気にしないと感じる」($\chi^2(2)=28.52^{***}$)、「親の言うことは気まぐれであると感じる」($\chi^2(2)=14.04^{**}$)の χ^2 値がそれぞれ有意となり、残差分析から「ある」の比率が次第に低下しているところから、家族への否定的感情が弱まりつつあることがうかがわれる。

イ 非行性による比較

各項目の回答について、少年鑑別所入所歴別にクロス集計を行い、 χ^2 値を求めたところ、いずれの項目も有意ではなかった。

2 交友関係

(1) 友人関係に対する満足度

あなたは、友達づきあいに、どれくらい満足していますか。(Q4)

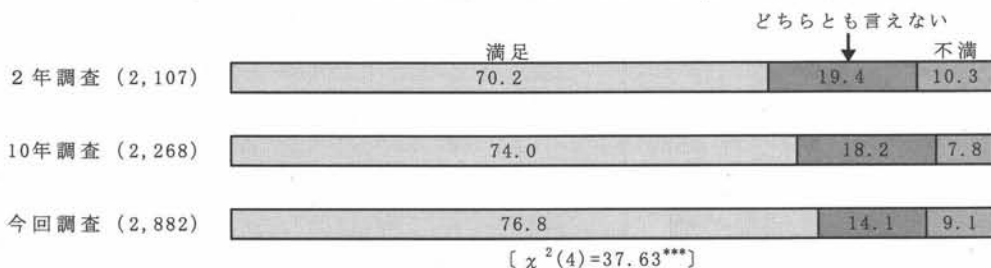
- 1 満足
- 2 やや満足
- 3 どちらとも言えない
- 4 やや不満
- 5 不満

ア 経年比較

友人関係に対してどのくらい満足しているかに関する経年比較は、図2-2-1のとおりである。

友人関係に対する満足度を、「満足」、「どちらともいえない」、「不満」の3カテゴリーに統合し、これまでの3回の調査結果の間でクロス集計を行ったところ、 χ^2 値が有意となった($\chi^2(4)=37.63^{***}$)。残差分析から「満足」の比率が次第に上昇しており、友人関係に対するの満足度が高まりつつあることがうかがわれる。

図2-2-1 友人関係に対する満足度(経年比較)



注 1 「満足」は、「満足」及び「やや満足」を合計したものであり、「不満」は、「不満」及び「やや不満」を合計したものである。

2 () 内は、回答者数である。

イ 非行性による比較

友人関係に対してどのくらい満足しているかに関する非行性による比較は、図2-2-2のとおりで

ある。

友人関係に対する満足度と少年鑑別所入所歴（初入者か再入者か）との間でクロス集計を行ったところ、 χ^2 値が有意となった（ $\chi^2(2)=41.12^{***}$ ）。残差分析から、再入者の「満足」の比率が初入者の「満足」の比率よりも低く、再入者の方が初入者と比較して友人関係においてより満足度が低いことがうかがわれる。

図 2-2-2 友人関係に対する満足度（非行性による比較）



〔 $\chi^2(2)=41.12^{***}$ 〕

注 1 「満足」は、「満足」及び「やや満足」を合計したものであり、「不満」は、「不満」及び「やや不満」を合計したものである。

2 （ ）内は、回答者数である。

（2）友人関係の不満の理由

「やや不満」、「不満」とのことですが、それはどういう理由からですか。（Q5）

- 1 気の合う友達がいらない
- 2 お互いに心を打ち明け合うことができない
- 3 自分よりもほかの人と仲良くする
- 4 仲間はずれにされる
- 5 自分のすることに口出ししてくる
- 6 グループの中のまとまりが悪い
- 7 自分のことを分かってくれない
- 8 自分のいうことが通らない
- 9 つき合っても張り合いがなく、自分が向上しない
- 10 自分に冷たい
- 11 好きでもないのにつき合わなければならない
- 12 その他

注 本問は、Q4で「やや不満」又は「不満」と回答した者に対してのみ質問をしている。

ア 経年比較

今回調査では、友達付き合いの上で不満としていることとして、「お互いに心を打ち明け合うことができない」が52.5%と最も高く、次いで、「好きでもないのにつき合わなければならない」42.6%、「気の合う友達がいらない」38.4%の順であった。

友人関係の上で不満としている理由の上位5番目までの経年比較は、表2-2-3のとおりである。

いずれの調査でも1位は、「お互いに心を打ち明け合うことができない」であった。2年調査及び10年調査では5位であった「好きでもないのにつき合わなければならない」が今回調査では2位となった。

表 2－2－3 友人関係の不満の理由（経年比較）

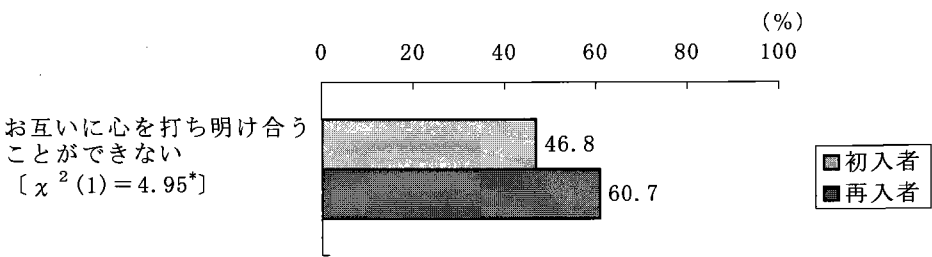
区 分	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
2 年調査 (218)	お互いに心を打ち明け合うことができない	気の合う友達がない	つき合っているも張り合いがなく、自分が向上しない	グループの中のまとまりが悪い	好きでもないのにつき合わなければならない
	50.0	49.5	43.6	38.5	36.7
10年調査 (178)	お互いに心を打ち明け合うことができない	気の合う友達がない	つき合っているも張り合いがなく、自分が向上しない	グループの中のまとまりが悪い	好きでもないのにつき合わなければならない
	61.2	60.7	53.4	47.2	44.9
17年調査 (263)	お互いに心を打ち明け合うことができない	好きでもないのにつき合わなければならない	気の合う友達がない	つき合っているも張り合いがなく、自分が向上しない	グループの中のまとまりが悪い
	52.5	42.6	38.4	35.0	31.6

注 1 数値は、項目に該当する者の比率である。
2 上限のない複数回答である。
3 ()内は、回答者数である。

イ 非行性による比較

各項目の回答について、少年鑑別所入所歴別にクロス集計を行ったところ、「お互いに心を打ち明け合うことができない」の χ^2 値が有意となった($\chi^2(1)=4.95^*$)。再入者の方が初入者よりも本音で友人と付き合うことができないことを不満と感じがちであることがうかがわれる（図 2－2－4 参照）。

図 2－2－4 友人関係の不満の理由（非行性による比較）



注 1 項目に該当する者の比率である。
2 上限のない複数回答である。

(3) 友人との関係

あなたと、友達との関係について、次の中からあてはまるものを、いくつでも選んでください。
(Q6)

- 1 悲しいことがあったら話を聞いてもらう
- 2 相手にけっこう気をつかっている
- 3 あまり深刻な相談はしない
- 4 つき合っているのは、何か得るものがあるからだ
- 5 お互いに張り合う気持ちがある
- 6 けんかをし合える
- 7 何も言わなくても、分かり合えている
- 8 お互いの性格は裏の裏まで知っている
- 9 自分のすべてをさらけ出すわけではない
- 10 お互いに悪いところは悪いと言い合える
- 11 一緒にいるときでも、別々のことをしている

ア 経年比較

今回調査では、友人との関係で該当すると選択した比率として、「悲しいことがあったら話を聞いてもらう」が74.8%と最も高く、次いで、「お互いの悪いところは悪いと言い合える」68.9%、「何も言わなくても、分かり合えている」48.9%の順であった。

友人との関係で該当すると選択した項目の上位5番目までの経年比較は、表2-2-5のとおりである。

いずれの調査でも1位は、「悲しいことがあったら話を聞いてもらう」であり、2位は、「お互いの悪

表2-2-5 友人との関係（経年比較）

区 分	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
2年調査 (2,117)	悲しいことがあったら話を聞いてもらう	お互いに悪いところは悪いと言い合える	お互いの性格は裏の裏まで知っている	何も言わなくても、分かり合えている	けんかをし合える
	69.7	57.5	46.6	40.4	33.9
10年調査 (2,274)	悲しいことがあったら話を聞いてもらう	お互いに悪いところは悪いと言い合える	お互いの性格は裏の裏まで知っている	何も言わなくても、分かり合えている	けんかをし合える
	75.9	66.4	42.9	42.2	39.4
今回調査 (2,897)	悲しいことがあったら話を聞いてもらう	お互いに悪いところは悪いと言い合える	何も言わなくても、分かり合えている	お互いの性格は裏の裏まで知っている	けんかをし合える
	74.8	68.9	48.9	48.2	48.0

注 1 数値は、項目に該当する者の比率である。
2 上限のない複数回答である。
3 ()内は、回答者数である。

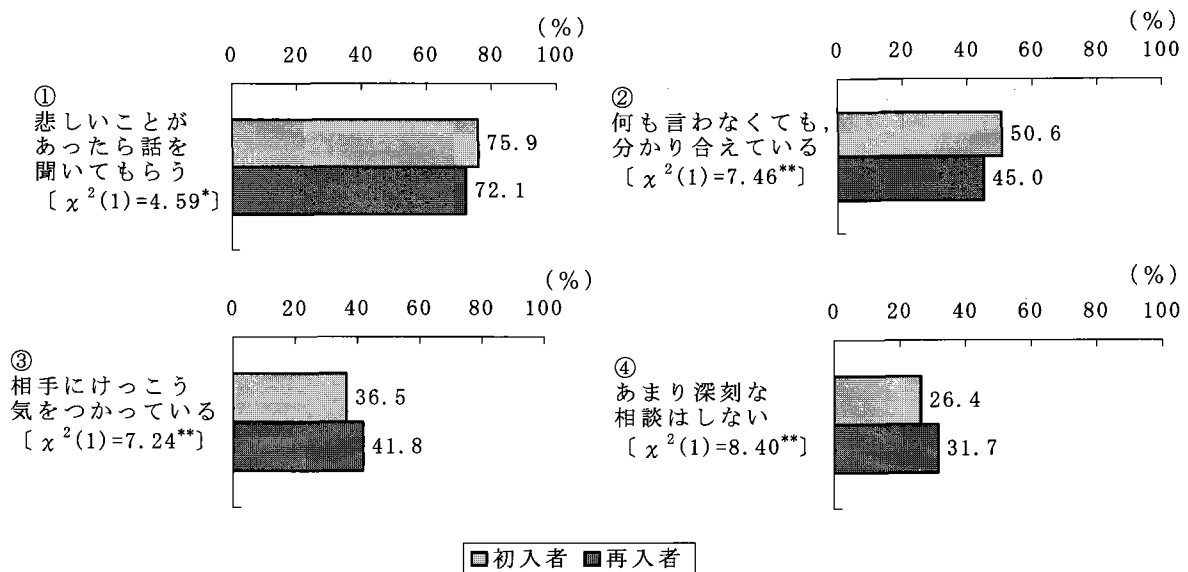
いところは悪いと言ひ合える」であった。3位から5位までに入っている項目についても各調査において同じであり、友人との関係の認知に大きな変動はないことがうかがわれる。

イ 非行性による比較

各項目の回答について、少年鑑別所入所歴別にクロス集計を行ったところ、「悲しいことがあったら話を聞いてもらう」及び「何も言わなくても、分かり合えている」の χ^2 値が有意となった(図2-2-6①,②参照)。初入者の方が再入者よりも本音で友人と付き合えていると感じていることがうかがわれる。

他方、「相手にけっこう気をつかっている」及び「あまり深刻な相談はしない」の χ^2 値も有意となった(図2-2-6③,④参照)。再入者の方が初入者よりも友人関係に距離を置いていることがうかがわれる。

図2-2-6 友人との関係(非行性による比較)



(4) 大切な友人

あなたは、どんな友達が大事だと思いますか。(Q7)

- 1 いつもそばにいて相手になってくれる人
- 2 他の人にいえないことを聞いてくれる人
- 3 競争相手となって自分を伸ばしてくれる人
- 4 いろいろな情報を教えてくれる人
- 5 困ったときに助けてくれる人
- 6 興味や趣味が似ている人

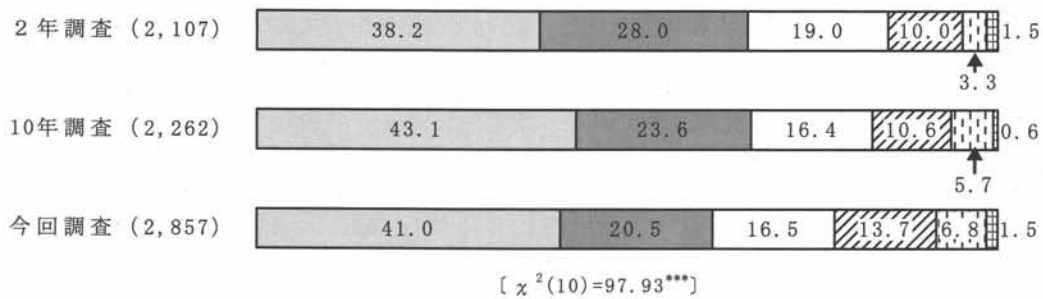
ア 経年比較

大切な友人に関する回答の経年比較は、図2-2-7のとおりである。

いずれの調査でも「困ったときに助けてくれる人」の比率が最も高く、次いで、「他の人にいえないことを聞いてくれる人」、「競争相手となって自分を伸ばしてくれる人」、「いつもそばにいて相手になってくれる人」、「興味や趣味が似ている人」の順となっている。

大切な友人に関する回答について、これまでの3回の調査結果の間でクロス集計を行ったところ、 χ^2

図 2-2-7 大切な友人（経年比較）



- | | |
|---------------------|--------------------|
| 困ったときに助けてくれる人 | 他の人にいえないことを聞いてくれる人 |
| 競争相手となって自分を伸ばしてくれる人 | いつもそばにいて相手になってくれる人 |
| 興味や趣味が似ている人 | いろいろな情報を教えてくれる人 |

注 () 内は、回答者数である。

値が有意となった($\chi^2(10)=97.93^{***}$)。残差分析の結果では、「他の人にいえないことを聞いてくれる人」の比率が低下傾向にあり、他方、「いつもそばにいて相手になってくれる人」、「興味や趣味が似ている人」の比率が上昇傾向にあることから、当たり障りなく楽しみを共有でき、寂しさを紛らわす相手になってくれる友人を求める傾向が徐々に強まっていることがうかがわれる。

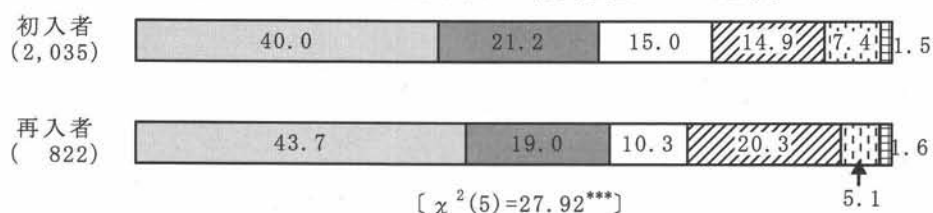
イ 非行性による比較

今回調査において、少年鑑別所入所歴別に大切な友人として回答した項目の比率を見ると、図 2-2-8 のとおりである。

クロス集計を行ったところ、 χ^2 値が有意となった($\chi^2(5)=27.92^{***}$)。残差分析では、「競争相手となって自分を伸ばしてくれる人」の比率が初入者より再入者の方が高く、「いつもそばにいて相手になってくれる人」の比率が再入者よりも初入者の方が高くなっていた。

再入者の方が大切な友人として自分を伸ばしてくれる人を初入者よりも求めているのに対し、初入者はいつも相手をしてくれる人を再入者よりも求めていることがうかがわれる。

図 2-2-8 大切な友人（非行性による比較）



- | | |
|--------------------|---------------------|
| 困ったときに助けてくれる人 | 他の人にいえないことを聞いてくれる人 |
| いつもそばにいて相手になってくれる人 | 競争相手となって自分を伸ばしてくれる人 |
| 興味や趣味が似ている人 | いろいろな情報を教えてくれる人 |

注 () 内は、回答者数である。

3 周囲の人々との関係

あなたにとって、次の質問（ア～エ）にあてはまる人はどんな人ですか。（Q8）

ア あなたが、気楽に話ができると思うのはどの人ですか

イ あなたが、悩みを打ち明けられると思うのはどの人ですか

ウ あなたが、「この人から注意されたら言うことを聞く」と思うのはどの人ですか

エ あなたが、「こんな人になりたい」と思うのはどんな人物ですか

（選択肢）

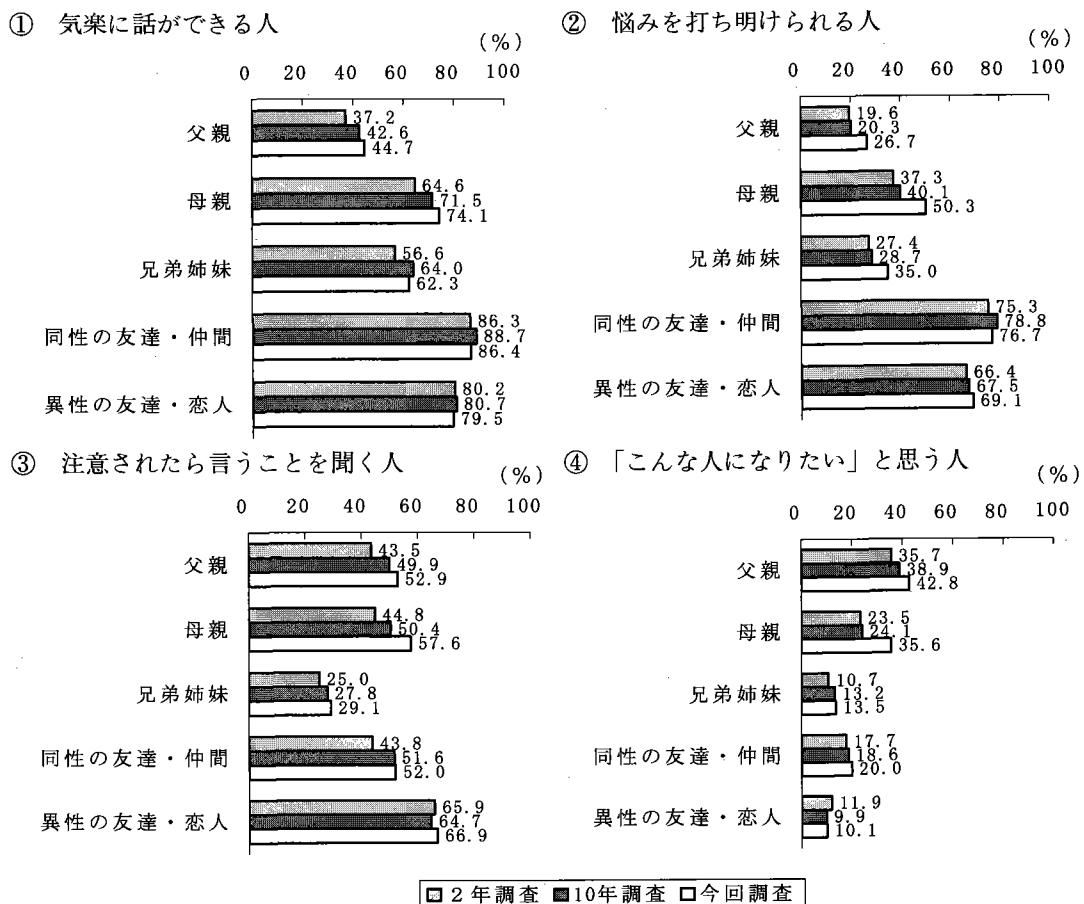
- | | | | | |
|------------|------------|--------|----------|--------|
| 1 父親 | 2 母親 | 3 兄弟姉妹 | 4 祖父母 | 5 親戚の人 |
| 6 同性の友達・仲間 | 7 異性の友達・恋人 | 8 先輩 | | |
| 9 先生 | 10 近所の人 | 11 その他 | 12 誰もいない | |

（1）経年比較

少年たちが日常的に接している家族や友達など周囲の人々をどのように評価し、どのようにかかわっているか、あるいは、どのような人物を自己の同一視の対象として見ているかなど、身近な人間関係についてのとらえ方を尋ねた。各質問に対する回答の経年比較は、図2-3-1のとおりである。

ア 「あなたが、気楽に話ができると思うのはどの人ですか」との質問に対して該当するとされた項目

図2-3-1 周囲の人々との関係（経年比較）



注 1 項目に該当する者の比率である。
2 上限のない複数回答である。

の比率は、いずれの調査でも、同性の友達・仲間が最も高く、次いで、異性の友達・恋人、母親、兄弟姉妹、父親の順であった。母親、父親が該当するとされた比率が上昇傾向にある。

イ 「あなたが、悩みを打ち明けられると思うのはどの人ですか」との質問に対して該当するとされた項目の比率は、いずれの調査でも、同性の友達・仲間が最も高く、次いで、異性の友達・恋人、母親、兄弟姉妹、父親の順であった。母親、兄弟姉妹、父親が該当するとされた比率が上昇傾向にある。

ウ 「あなたが、『この人から注意されたら言うことを聞く』と思うのはどの人ですか」との質問に対して該当するとされた項目の比率は、いずれの調査でも、異性の友達・恋人が最も高いが、比率は、ほとんど変化していない。他方、母親、父親が該当するとされた比率は上昇傾向にあり、今回調査では、母親及び父親が該当するとされた比率が同性の友達・仲間を上回った。

エ 「あなたが、『こんな人になりたい』と思うのはどんな人物ですか」との質問に対して該当するとされた項目の比率は、いずれの調査も、父親が最も高い。母親、父親が該当するとされた比率は上昇傾向にある。

周囲の人々との関係を経年比較で見ると、全般的に同性及び異性の友人との心理的距離が比較的近いまま推移しているが、最近になるほど、父親及び母親との心理的距離が縮まりつつあることがうかがわれる。

(2) 非行性による比較

ア 「あなたが、気楽に話ができると思うのはどの人ですか」との質問に対して該当するとされた項目の比率の順位を高い方から比較したところ、初入者も再入者も第1位が同性の友達・仲間、第2位が異性の友達・恋人、第3位が母親となり、同じ順位であった。

イ 「あなたが、悩みを打ち明けられると思うのはどの人ですか」との質問に対して該当するとされた項目の比率の順位を高い方から比較したところ、初入者は、第1位が同性の友達・仲間、第2位が異性の友達・恋人、第3位が母親であった。他方、再入者は、第1位が異性の友達・恋人、第2位が同性の友達・仲間、第3位が母親であった。再入者の方が初入者よりも異性の友達・恋人を相談相手とみなしやすい傾向がうかがわれる。

ウ 「あなたが、『この人から注意されたら言うことを聞く』と思うのはどの人ですか」との質問に対して該当するとされた項目の比率の順位を高い方から比較したところ、初入者は、第1位が異性の友達・恋人、第2位が母親、第3位が同性の友達・仲間であった。他方、再入者は、第1位が異性の友達・恋人、第2位が母親、第3位が父親であった。初入者の方が再入者よりも同性の仲間との結び付きが強く、その注意に従う傾向の強いことがうかがわれる。

エ 「あなたが、『こんな人になりたい』と思うのはどんな人物ですか」との質問に対して該当するとされた項目の比率の順位を高い方から比較したところ、初入者も再入者も第1位が父親、第2位が母親、第3位が先輩となり、同じ順位であった。

4 中学生活

あなたが中学生の時、次（ア～キ）のことが、どれくらいあてはまりましたか。（Q9）

ア 学校に行くのがいやだった

イ 授業中じっとすわっているのがつらかった

ウ 話のわかる先生がたくさんいた

エ 学校の先生を尊敬していた

オ 先生にペコペコする生徒をみると腹が立った

カ 学校行事をみんなでやるのがうっとうしかった

キ 休み時間はみんなと過ごすよりもひとりでいることが多かった

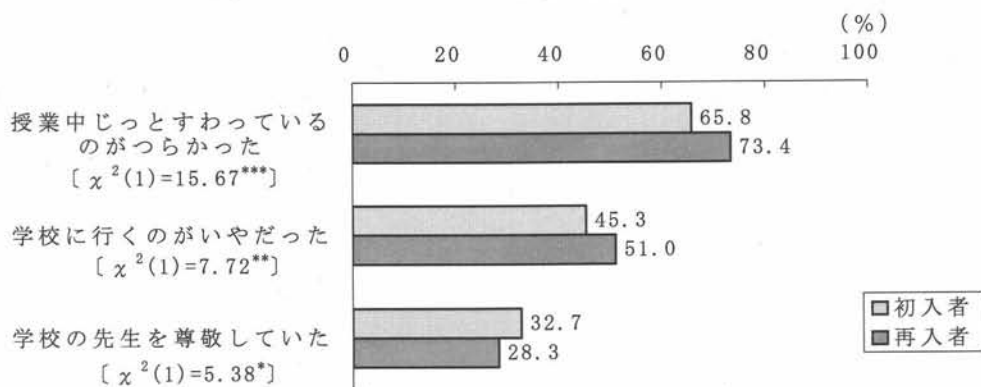
（選択肢）

- 1 とてもあてはまる 2 ややあてはまる 3 あまりあてはまらない
4 まったくあてはまらない

この質問は、今回調査で新たに追加したものであることから、非行性による比較のみを行う。

中学生活の様子について、「あてはまる」（「とてもあてはまる」及び「ややあてはまる」の合計。以下本項において同じ。）、「あてはまらない」（「まったくあてはまらない」及び「あまりあてはまらない」の合計。以下本項において同じ。）の2カテゴリーに統合し、少年鑑別所入所歴との間でクロス集計を行ったところ、 χ^2 値が有意となった項目は、図2-4-1のとおりである。

図2-4-1 中学生活（非行性による比較）



注 項目に該当する者の比率である。

「授業中じっとすわっているのがつらかった」に対して、「あてはまる」と回答した比率は、初入者が65.8%、再入者が73.4%で再入者の方が有意に高かった ($\chi^2(1)=15.67^{***}$)。「学校に行くのがいやだった」に対して、「あてはまる」と回答した比率も、初入者が45.3%、再入者が51.0%で再入者の方が有意に高かった ($\chi^2(1)=7.72^{**}$)。

他方、「学校の先生を尊敬していた」に対して、「あてはまる」と回答した比率は、初入者が32.7%、再入者が28.3%で初入者の方が有意に高かった ($\chi^2(1)=5.38^*$)。

中学生活について、再入者の方が初入者よりも、授業中にじっとしていられなかったことや登校をつらく感じていたことがうかがわれる。他方、初入者の方が再入者よりも学校の先生を尊敬する気持ちが強かったことがうかがわれる。

5 地域社会

あなたの住んでいる地域や町について、次（ア～オ）のことが、どれくらいあてはまりますか。
(Q10)

ア 近所の大人の人は、道で会ったら、気軽に私に声をかけてくれる

イ 地域の中で、アダルトビデオやエッチな雑誌を買ったり、借りるのは簡単だ

ウ 地域の中で、酒やタバコを買うのは簡単だ

エ 子供がなぐり合いのけんかをしていたら、まわりの人は注意してやめさせるだろう

オ 子供がなぐり合いのけんかをしていたら、まわりの人は学校や警察に連絡するだろう

(選択肢)

1 あてはまる 2 だいたいあてはまる 3 あてはまらない

この質問は、今回調査で新たに追加したものであることから、非行性による比較のみを行う。

地域社会に関する各項目の回答の少年鑑別所入所歴別の比率は、図2-5-1のとおりである。

各項目の回答と少年鑑別所入所歴との間でクロス集計を行ったところ、すべての項目で χ^2 値が有意となった。残差分析の結果からは、初入者の方が再入者よりも「近所の大人の人は、道で会ったら、気軽

図2-5-1 地域社会（非行性による比較）

① 近所の大人の人は、道で会ったら、気軽に私に声をかけてくれる

	あてはまる	だいたいあてはまる	あてはまらない
初入者(2,038)	35.4	38.0	26.5
再入者(826)	37.0	33.2	29.8

$$[\chi^2(2)=6.45^*]$$

② 地域の中で、アダルトビデオやエッチな雑誌を買ったり、借りるのは簡単だ

初入者(2,033)	28.1	27.7	44.2
再入者(825)	38.3	27.3	34.4

$$[\chi^2(2)=33.04^{***}]$$

③ 地域の中で、酒やタバコを買うのは簡単だ

初入者(2,038)	58.6	29.3	12.0
再入者(826)	70.5	24.3	5.2

$$[\chi^2(2)=45.68^{***}]$$

④ 子どもがなぐり合いのけんかをしていたら、まわりの人は注意をしてやめさせるだろう

初入者(2,035)	45.4	38.7	15.9
再入者(825)	50.3	30.3	19.4

$$[\chi^2(2)=18.78^{***}]$$

図 2-5-1 地域社会（非行性による比較）（続き）

⑤ 子どもがなぐり合いのけんかをしていたら、まわりの人は学校や警察に連絡するだろう

初入者(2,035)	36.4	40.4	23.2
再入者(825)	46.4	36.5	17.1

$$[\chi^2(2)=27.46^{***}]$$

注 () 内は、回答者数である。

に私に声をかけてくれる」について肯定的に回答する傾向が強いのにに対し、再入者の方が初入者よりも「地域の中で、アダルトビデオやエッチな雑誌を買ったり、借りるのは簡単だ」、「地域の中で、酒やタバコを買うのは簡単だ」について肯定的に回答する傾向が強いことがうかがわれる。また、子供の殴り合いの喧嘩については、初入者の方が再入者よりも「まわりの人が注意をしてやめさせる」と回答する傾向が強いのにに対し、再入者の方が初入者よりも「まわりの人は学校や警察に連絡するだろう」と回答する傾向が強いことがうかがわれる。

再入者の方が初入者よりも、地域社会において性的なものや違法なものへの接近が容易であると認識していること、初入者の方が再入者よりも、地域社会の人々が身近なトラブルに積極的に介入してくれると認識していることがうかがわれる。ただし、子供のトラブルに対して地域の人々が学校や警察に通報すると認識している比率は、再入者の方が高かった。これは自分たちの逸脱行動を通報されるという不信感が再入者の方が強いことを反映した結果ではないかと思われる。

6 人の暮らし方

人の暮らし方について、いろいろな考え方がありますが、次の考え方の中で、あなたはどれを選びますか。(Q11)

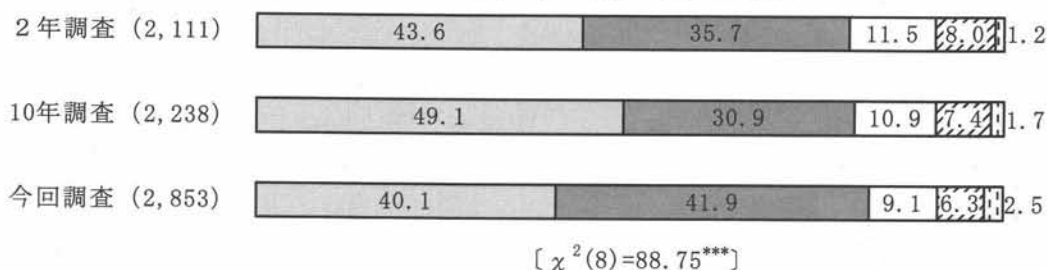
- 1 いっしょうけんめい働き、倹約して金持ちになる
- 2 まじめに勉強して名をあげる
- 3 金や名誉を考えずに、自分の趣味に合った暮らし方をする
- 4 その日その日をのんきに、くよくよしないで暮らす
- 5 世の中の正しくないことを押しのけて、どこまでも清く正しく暮らす

(1) 経年比較

人の暮らし方に関する回答の経年比較は、図 2-6-1 のとおりである。

人の暮らし方に関する回答について、これまでの3回の調査結果の間でクロス集計を行ったところ、 χ^2 値が有意となった($\chi^2(8)=88.75^{***}$)。人の暮らし方として最もよいと思うものと選択した比率は、2年調査及び10年調査では、「金や名誉を考えずに、自分の趣味に合った暮らし方をする」が最も高く、次いで、「いっしょうけんめい働き、倹約して金持ちになる」、「その日その日をのんきに、くよくよしないで暮らす」の順であった。他方、今回調査では、「いっしょうけんめい働き、倹約して金持ちになる」が41.9%と最も高く、次いで、「金や名誉を考えずに、自分の趣味に合った暮らし方をする」40.1%、「その日その日をのんきに、くよくよしないで暮らす」9.1%、「世の中の正しくないことを押しのけて、どこまでも清く正しく暮らす」6.3%、「まじめに勉強して名をあげる」2.5%の順であった。

図 2-6-1 人の暮らし方（経年比較）



- ☐ 金や名誉を考えずに、自分の趣味に合った暮らし方をする
☐ その日その日をのんきに、くよくよしないで暮らす
☐ まじめに勉強して名をあげる

- ☐ いっしょうけんめい働き、節約して金持ちになる
☒ 世の中の正しくないことを押しのけて、どこまでも清く正しく暮らす

注 () 内は、回答者数である。

残差分析では、「金や名誉を考えずに、自分の趣味に合った暮らし方をする」の比率が低下し、「いっしょうけんめい働き、節約して金持ちになる」が上昇しており、金銭面での成功を第一に考える者が増えてきていることがうかがわれる。

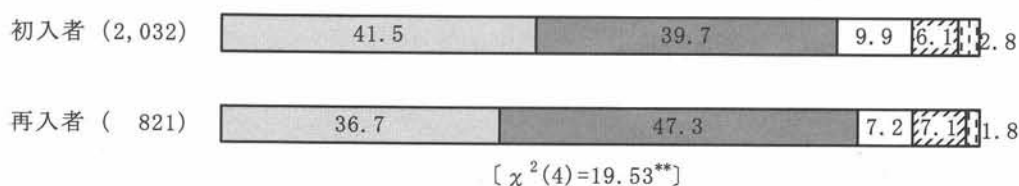
(2) 非行性による比較

人の暮らし方として最もよいと思うものと選択した各項目の比率を少年鑑別所入所歴別に見ると、図 2-6-2 のとおりである。

クロス集計を行ったところ、 χ^2 値が有意となった ($\chi^2(4)=19.53^{**}$)。残差分析によって初入者と再入者を比較すると、「いっしょうけんめい働き、節約して金持ちになる」を、再入者の47.3%が選択したのに対し、初入者は39.7%しか選択しなかった。他方、「金や名誉を考えずに、自分の趣味に合った暮らし方をする」は、初入者が41.5%選択したのに対し、再入者が36.7%で、「その日その日をのんきに、くよくよしないで暮らす」も、初入者が9.9%選択したのに対し、再入者が7.2%であった。

再入者の方が金銭面での成功を第一に考えやすい傾向が強いのに対し、初入者の方が現状維持的な志向が強いことがうかがわれる。

図 2-6-2 人の暮らし方（非行性による比較）



- ☐ 金や名誉を考えずに、自分の趣味に合った暮らし方をする
☐ その日その日をのんきに、くよくよしないで暮らす
☐ まじめに勉強して名をあげる

- ☐ いっしょうけんめい働き、節約して金持ちになる
☒ 世の中の正しくないことを押しのけて、どこまでも清く正しく暮らす

注 () 内は、回答者数である。

7 社会に対する満足度

(1) 満足度

あなたは今の社会について、どのくらい満足していますか。(Q12)

- 1 満足
- 2 やや満足
- 3 どちらとも言えない
- 4 やや不満
- 5 不満

ア 経年比較

社会に対してどのくらい満足しているかに関する経年比較は、図2-7-1のとおりである。

社会に対する満足度を、「満足」、「どちらとも言えない」、「不満」の3カテゴリーに統合し、これまでの3回の調査結果の間でクロス集計を行ったところ、 χ^2 値は有意ではなかった ($\chi^2(4)=7.17$ n.s.)。社会に対して「満足」とする者の比率は、2年調査が35.8%、10年調査が32.9%、今回調査が33.9%とほぼ横ばいである。

図2-7-1 社会に対する満足度（経年比較）

	満足	どちらとも言えない	不満
2年調査 (2,093)	35.8	42.7	21.5
10年調査 (2,251)	32.9	42.8	24.3
今回調査 (2,860)	33.9	42.2	23.8

[$\chi^2(4)=7.17$ n.s.]

注 1 「満足」は、「満足」及び「やや満足」を合計したものであり、「不満」は、「不満」及び「やや不満」を合計したものである。

2 () 内は、回答者数である。

イ 非行性による比較

社会に対して「満足」と回答した者の比率を少年鑑別所入所歴別に見ると、初入者が32.8%、再入者が36.6%であった。クロス集計を行ったところ、 χ^2 値は有意ではなかった ($\chi^2(2)=3.80$ n.s.)。再入者と初入者の間には、社会に対する満足度に差はないことがわかる。

(2) 社会に対する不満の理由

「やや不満」、「不満」とのことですが、それはどういう理由からですか。(Q13)

- 1 社会のしくみがきまりきっている
- 2 若者の意見は反映されない
- 3 正しいと思うことが通らない
- 4 国民の意見がまとまっていない
- 5 金持ちと貧乏な人との差が大きすぎる
- 6 まじめな者がむくわれない
- 7 人々の考え方や行動が乱れている
- 8 その他

注 本問は、Q12で「やや不満」又は「不満」と回答した者に対してのみ質問をしている。

ア 経年比較

社会に対する不満の理由の上位5番目までの経年比較は、表2-7-2のとおりである。2年調査及び今回調査では、「金持ちと貧乏な人との差が大きすぎる」が最も高く、次いで、「若者の意見は反映されない」であった。10年調査では、「若者の意見は反映されない」が最も高かった。今回調査では、不満の理由数を多く選択した者が増加しており、各理由の選択率が上昇しているのが特徴的である。

イ 非行性による比較

今回調査において、少年鑑別所入所歴別に社会に対する不満の理由とされた比率を比較すると、「その他」について、初入者が29.2%，再入者が40.9%であり、 χ^2 値が有意であった($\chi^2(1)=8.61^{**}$)。再入者の方が初入者よりも選択肢として明示した不満理由以外のさまざまな理由で社会に対する不満を抱いていることがうかがわれる。

表2-7-2 社会に対する不満理由（経年比較）

区 分	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
2年調査 (655)	金持ちと貧乏な 人との差が大き すぎる	若者の意見は反 映されない	社会のしくみが きまりきってい る	正しいと思うこ とが通らない	人々の考え方や 行動が乱れてい る
	46.3	40.5	33.7	33.6	31.3
10年調査 (847)	若者の意見は反 映されない	金持ちと貧乏な 人との差が大き すぎる	正しいと思うこ とが通らない	社会のしくみが きまりきってい る	人々の考え方や 行動が乱れてい る
	40.7	39.2	36.1	33.8	28.5
17年調査 (682)	金持ちと貧乏な 人との差が大き すぎる	若者の意見は反 映されない	正しいと思うこ とが通らない	人々の考え方や 行動が乱れてい る	社会のしくみが きまりきってい る
	73.5	62.5	57.3	50.4	42.4

- 注 1 数値は、項目に該当する者の比率である。
2 上限のない複数回答である。
3 ()内は、回答者数である。

8 態度・価値観

あなたは、次の意見（ア～テ）に賛成ですか。それとも反対ですか。（Q14）

ア ひとつのことに熱中するよりも、いろいろなことをやってみるべきだ

イ 年上や目上の人には従うべきだ

ウ コツコツ努力するよりは、毎日の生活を楽しくやった方がよい

エ 自分の意見とちがっていても多数の意見には従うべきだ

オ 自然を守ることも大切だが、生活を便利にする方がもっと大事だ

カ 人のことにはあまり深入りしない方がよい

キ 男は外で働き、女は家庭を守るべきだ

ク 世の中は、なるようにしかならないものだ

ケ まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人の方が好きだ

コ まわりから何か言われないように、目立たないようにする方がよい

サ 悪い者をやっつけるためならば、場合によって腕力に訴えてもよい

シ 世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい

ス 自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破るのも仕方がないことだ

セ 義理人情を大切にすべきだ

ソ 努力するよりも、要領よくふるまう方がよい

タ リーダーになって苦勞するよりは、人に従っていた方が気楽でいい

チ 将来のために現在の楽しみをがまんするのはばかげている

ツ 自分の命をどうだめにしようと私の勝手だ

テ ボランティア活動などを通じて、世の中のためになることが必要だ

（選択肢）

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

(1) 経年比較

態度・価値観に関する各項目の回答を、「賛成」（「賛成」及び「やや賛成」の合計。以下同じ。）、「どちらともいえない」、「反対」（「反対」及び「やや反対」の合計。以下同じ。）の3カテゴリーに統合し、これまでの3回の調査結果の間でクロス集計を行って、経年による回答に差異が見られるかどうかを検討した。各項目に対して「賛成」と回答した比率の経年比較及びクロス集計によって得られた χ^2 値は、表2-8-1のとおりである。

今回調査では、「ボランティア活動などを通じて、世の中のためになることが必要だ」について「賛成」とする者の比率が、80.0%と最も高く、次いで、「義理人情を大切にすべきだ」65.7%、「ひとつのことに熱中するよりも、いろいろなことをやってみるべきだ」61.4%の順であった。

各項目の回答の経年比較では、「コツコツ努力するよりは、毎日の生活を楽しくやった方がよい」（ $\chi^2(4)=14.25^{**}$ ）、「まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人の方が好きだ」（ $\chi^2(4)=281.31^{***}$ ）、「悪い者をやっつけるためならば、場合によって腕力に訴えてもよい」（ $\chi^2(4)=203.61^{***}$ ）において、「賛成」の比率が3回の調査で次第に低下を示し、 χ^2 値もそれぞれ有意であった。その場の楽しさや楽しい人との交際を求めようとする姿勢及び暴力によって問題解決を図ろうとする姿勢が弱まりつつあることがうかがわれる。

表 2 - 8 - 1 態度・価値観（経年比較）

区 分	2 年調査	10年調査	今回調査	検定結果
ア ひとつのことに熱中するよりも、いろいろなことをやってみるべきだ	65.6	60.5	61.4	$\chi^2(4)=18.17^{**}$
イ 年上や目上の人には従うべきだ	43.5	41.6	48.9	$\chi^2(4)=55.09^{***}$
ウ コツコツ努力するよりは、毎日の生活を楽しくやった方がよい	41.3	37.4	36.9	$\chi^2(4)=14.25^{**}$
エ 自分の意見とちがっていても多数の意見には従うべきだ	27.8	22.8	32.6	$\chi^2(4)=60.74^{***}$
オ 自然を守ることも大切だが、生活を便利にする方がもっと大事だ	27.5	22.0	24.8	$\chi^2(4)=33.46^{***}$
カ 人のことにはあまり深入りしない方がよい	46.5	46.3	47.8	$\chi^2(4)=15.27^{**}$
キ 男は外で働き、女は家庭を守るべきだ	66.9	52.7	55.7	$\chi^2(4)=120.19^{***}$
ク 世の中は、なるようにしかならないものだ	34.6	28.8	37.1	$\chi^2(4)=46.46^{***}$
ケ まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人の方が好きだ	79.2	71.7	58.3	$\chi^2(4)=281.31^{***}$
コ まわりから何か言われないように、目立たないようにする方がよい	19.1	17.1	20.2	$\chi^2(4)=50.72^{***}$
サ 悪い者をやっつけるためならば、場合によって腕力に訴えてもよい	60.6	45.3	44.7	$\chi^2(4)=203.61^{***}$
シ 世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい	30.5	36.6	35.3	$\chi^2(4)=24.96^{***}$
ス 自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破るのも仕方がないことだ	16.1	16.4	14.5	$\chi^2(4)=6.18^{*}$
セ 義理人情を大切にすべきだ	73.8	65.3	65.7	$\chi^2(4)=52.76^{***}$
ソ 努力するよりも、要領よくふるまう方がよい	27.1	23.3	27.4	$\chi^2(4)=15.73^{**}$
タ リーダーになって苦勞するよりは、人に従っていた方が氣楽でいい	17.7	17.3	23.8	$\chi^2(4)=75.82^{***}$
チ 将来のために現在の楽しみをがまんするのはばかげている	...	31.6	27.1	$\chi^2(2)=38.69^{***}$
ツ 自分の命をどうだめにしようと私の勝手だ	...	16.6	15.8	$\chi^2(2)=22.51^{***}$
テ ボランティア活動などを通じて、世の中のためになることが必要だ	...	74.3	80.0	$\chi^2(2)=23.94^{***}$

注 数値は、「賛成」及び「やや賛成」の比率を合計したものである。

他方、「世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい」($\chi^2(4)=24.96^{***}$)、「リーダーになって苦勞するよりは、人に従っていた方が氣楽でいい」($\chi^2(4)=75.82^{***}$)において、「賛成」の比率が3回の調査で次第に上昇傾向を示し、 χ^2 値もそれぞれ有意であった。世の中や周囲の人を

リードしていくことよりも、気楽に自分のしたいことをしようとする姿勢が強まりつつあることがうかがわれる。

その他にも経年比較において χ^2 値が有意であった項目があるが、多くが10年調査において2年調査よりも比率が低下した後、今回調査で比率が上昇したものであり、一貫した傾向はうかがわれなかった。

(2) 非行性による比較

今回調査において、態度・価値観に関する回答と少年鑑別所入所歴との間のクロス集計によって、 χ^2 値が有意となった項目は、図2-8-2のとおりである。

初入者の方が再入者よりも「賛成」とする者の比率が高かった項目は、「コツコツ努力するよりは、毎日の生活を楽しくやった方がよい」、「まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人の方が好きだ」、「世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい」、「自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破るのも仕方がないことだ」、「努力するよりも、要領よくふるまう方がよい」、「リー

図2-8-2 態度・価値観（非行性による比較）

① 初入者>再入者

ウ コツコツ努力するよりは、毎日の生活を楽しくやった方がよい

	賛成	どちらとも言えない	反対
初入者 (2,042)	39.9	32.0	28.1

	賛成	どちらとも言えない	反対
再入者 (826)	29.4	26.4	44.2

$[\chi^2(2)=70.04^{***}]$

シ 世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい

	賛成	どちらとも言えない	反対
初入者 (2,028)	36.0	31.4	32.5

	賛成	どちらとも言えない	反対
再入者 (821)	33.4	27.8	38.9

$[\chi^2(2)=10.51^{**}]$

ソ 努力するよりも、要領よくふるまう方がよい

	賛成	どちらとも言えない	反対
初入者 (2,023)	28.0	39.2	32.8

	賛成	どちらとも言えない	反対
再入者 (821)	25.9	33.3	40.8

$[\chi^2(2)=17.17^{***}]$

チ 将来のために現在の楽しみをがまんするのはばかげている

	賛成	どちらとも言えない	反対
初入者 (2,026)	29.7	31.1	39.2

	賛成	どちらとも言えない	反対
再入者 (820)	20.6	25.5	53.9

$[\chi^2(2)=53.18^{***}]$

② 再入者>初入者

キ 男は外で働き、女は家庭を守るべきだ

	賛成	どちらとも言えない	反対
初入者 (2,029)	52.7	25.4	21.8

	賛成	どちらとも言えない	反対
再入者 (821)	63.0	21.3	15.7

$[\chi^2(2)=25.99^{***}]$

ケ まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人の方が好きだ

	賛成	どちらとも言えない	反対
初入者 (2,027)	60.2	29.8	10.0

	賛成	どちらとも言えない	反対
再入者 (820)	53.4	32.4	14.1

$[\chi^2(2)=15.13^{**}]$

ス 自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破るのも仕方がないことだ

	賛成	どちらとも言えない	反対
初入者 (2,029)	14.8	26.6	58.6

	賛成	どちらとも言えない	反対
再入者 (821)	13.6	18.9	67.5

$[\chi^2(2)=22.40^{***}]$

タ リーダーになって苦労するよりは、人に従っていた方が気楽でいい

	賛成	どちらとも言えない	反対
初入者 (2,026)	24.1	29.9	46.0

	賛成	どちらとも言えない	反対
再入者 (819)	22.8	22.6	54.6

$[\chi^2(2)=20.38^{***}]$

ク 世の中は、なるようにしかならないものだ

	賛成	どちらとも言えない	反対
初入者 (2,026)	36.3	34.3	29.4

	賛成	どちらとも言えない	反対
再入者 (820)	39.1	30.9	30.0

$[\chi^2(2)=3.45^*]$

注 () 内は、回答者数である。

ダーになって苦勞するよりは、人に従っていた方が氣楽でいい」、「将来のために現在の楽しみをがまんするのはばかげている」であった。他方、再入者の方が初入者よりも「賛成」とする者の比率が高かった項目は、「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」、「世の中は、なるようにしかならないものだ」であった。

初入者の方が再入者と比較して、享樂的志向や自己優先志向が強いのに對し、再入者の方が初入者と比較して、努力放棄的な志向や傳統的な性役割観が強いことがうかがわれる。

9 対人感情

あなたは、日ごろの生活で、次（ア～シ）のような感じになることがありますか。（Q15）

ア 世の中には自分しか信じるものがないという感じ

イ 世の中は結局金だけが頼りだという感じ

ウ 心のあたたま思いが少ないという感じ

エ 自分の性格がいやになるという感じ

オ 自分は何をやってもだめな人間だという感じ

カ 自分は世の中から取り残されているという感じ

キ 自分だけが悪く思われているという感じ

ク 自分は意志が弱いという感じ

ケ 自分がものごとに打ち込んでいるという感じ

コ 自分は頼りにされているという感じ

サ 自分の努力がだんだん実ってきているという感じ

シ 世の中の人々は互いに助け合っているという感じ

（選択肢）

1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

（1）経年比較

対人感情に関する各項目の回答を、「ある」（「よくある」及び「ときどきある」の合計。以下同じ。）、「ない」（「まったくない」及び「あまりない」の合計。以下同じ。）の2カテゴリーに統合し、これまでの3回の調査結果の間でクロス集計を行って、経年による回答に差異がみられるかどうかを検討した。各項目に対して「ある」と回答した比率の経年比較及びクロス集計によって得られた χ^2 値は、表2-9-1のとおりである。

今回調査について見ると、劣等感と関係する項目では、「自分は意志が弱いという感じ」が「ある」とする者の比率は、72.6%と高く、「自分の性格がいやになるという感じ」が「ある」とする者の比率も72.5%と同様に高かった。自分の能力への自信の程度を意味する自己効力感と関連する項目では、「自分がものごとに打ち込んでいるという感じ」が「ある」とする者の比率が70.4%、「自分は頼りにされているという感じ」が「ある」とする者の比率が63.8%、「自分の努力がだんだん実ってきているという感じ」が「ある」とする者の比率が61.2%であった。不信感と関連する項目では、「世の中は結局金だけが頼りだという感じ」が「ある」とする者の比率が61.8%と比較的高かったが、「心のあたたま思いが少ないという感じ」が「ある」とする者の比率が39.6%、「世の中には自分しか信じるものがないという感じ」が「ある」とする者の比率が32.3%と比較的低かった。

表 2 - 9 - 1 対人感情（経年比較）

区 分	2 年調査	10年調査	今回調査	検定結果
ア 世の中には自分しか信じるものがないという感じ	44.0	40.4	32.3	$\chi^2(2)=77.30^{***}$
イ 世の中は結局金だけが頼りだという感じ	74.8	70.5	61.8	$\chi^2(2)=98.81^{***}$
ウ 心のあたたまる思いが少ないという感じ	55.3	45.1	39.6	$\chi^2(2)=121.83^{***}$
エ 自分の性格がいやになるという感じ	74.3	71.8	72.5	$\chi^2(2)=3.66^*$
オ 自分は何をやってもだめな人間だという感じ	57.8	51.9	53.4	$\chi^2(2)=16.79^{***}$
カ 自分は世の中から取り残されているという感じ	42.1	36.5	37.3	$\chi^2(2)=16.92^{***}$
キ 自分だけが悪く思われているという感じ	68.5	60.4	54.6	$\chi^2(2)=99.65^{***}$
ク 自分は意志が弱いという感じ	80.9	75.3	72.6	$\chi^2(2)=45.58^{***}$
ケ 自分がものごとに打ち込んでいるという感じ	60.0	65.9	70.4	$\chi^2(2)=59.54^{***}$
コ 自分は頼りにされているという感じ	61.7	60.8	63.8	$\chi^2(2)=5.00^*$
サ 自分の努力がだんだん実ってきているという感じ	53.3	59.5	61.2	$\chi^2(2)=33.06^{***}$
シ 世の中の人々は互いに助け合っているという感じ	58.0	62.0	66.3	$\chi^2(2)=35.78^{***}$

注 数値は、「よくある」及び「ときどきある」の比率を合計したものである。

各項目の回答の経年比較では、「世の中には自分しか信じるものがないという感じ」($\chi^2(2)=77.30^{***}$),「世の中は結局金だけが頼りだという感じ」($\chi^2(2)=98.81^{***}$),「心のあたたまる思いが少ないという感じ」($\chi^2(2)=121.83^{***}$),「自分だけが悪く思われている感じ」($\chi^2(2)=99.65^{***}$),「自分は意志が弱いという感じ」($\chi^2(2)=45.58^{***}$)において,「ある」の比率が3回の調査で次第に低下を示し, χ^2 値もそれぞれ有意であった。劣等感や疎外感等が弱まりつつあることがうかがわれる。

他方,「自分がものごとに打ち込んでいるという感じ」($\chi^2(2)=59.54^{***}$),「自分の努力がだんだん実ってきているという感じ」($\chi^2(2)=33.06^{***}$),「世の中の人々は互いに助け合っているという感じ」($\chi^2(2)=35.78^{***}$)において,「ある」の比率が3回の調査で次第に上昇傾向を示し, χ^2 値もそれぞれ有意であった。自己効力感が強まりつつあることがうかがわれる。

そのほかにも経年比較において χ^2 値が有意であった項目があるが,多くが10年調査において2年調査よりも比率が低下した後,今回調査で比率が上昇したものであり,一貫した傾向はうかがわれなかった。

(2) 非行性による比較

今回調査において,対人感情に関する回答と少年鑑別所入所歴との間のクロス集計によって, χ^2 値が有意となった項目は,図 2 - 9 - 2 のとおりである。

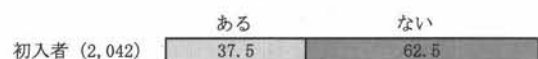
再入者の方が初入者よりも「ある」とする者の比率が高かった項目は,「世の中には自分しか信じるものがないという感じ」,「心のあたたまる思いが少ないという感じ」,「自分は世の中から取り残されてい

図 2-9-2 対人感情（非行性による比較）

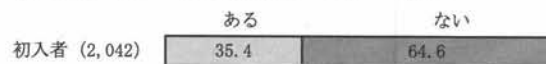
ア 世の中には自分しか信じるものがないという感じ

[$\chi^2(1)=4.50^*$]

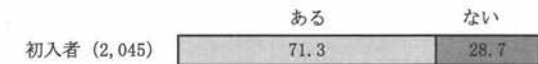
ウ 心のあたたま思いが少ないという感じ

[$\chi^2(1)=13.10^{***}$]

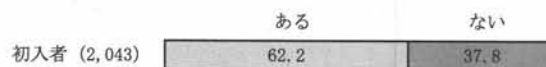
カ 自分は世の中から取り残されているという感じ

[$\chi^2(1)=10.89^{**}$]

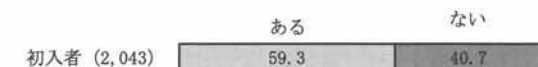
ク 自分は意志が弱いという感じ

[$\chi^2(1)=5.85^*$]

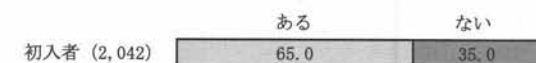
コ 自分は頼りにされているという感じ

[$\chi^2(1)=7.39^*$]

サ 自分の努力がだんだん実ってきているという感じ

[$\chi^2(1)=10.08^{**}$]

シ 世の中の人々は互いに助け合っているという感じ

[$\chi^2(1)=5.03^*$]

注 () 内は、回答者数である。

るという感じ」、「自分は意志が弱いという感じ」、「自分は頼りにされているという感じ」、「自分の努力がだんだん実ってきているという感じ」、「世の中の人々は互いに助け合っているという感じ」であり、初入者の方が再入者よりも「ある」とする者の比率が高い項目はなかった。

再入者の方が初入者と比較して、不信感、劣等感を強く抱いている反面、自分が必要とされている、努力が実っている、人は助け合っているという自己効力感も再入者の方が初入者よりも高い比率を示すという結果となっている。

10 同世代の者に対する見方

あなたは、あなたと同じくらいの年の人について、どう思いますか。(Q16)

- ア 今、この場が楽しければそれでよいと思っている人
- イ 気に入らないことがあると、カッとしたり、落ち込んだりしやすい人
- ウ いやなことがあっても、すぐ忘れようとする人
- エ ほかにの人にどう思われているか、気になる人
- オ 大切なことであっても、まじめに考えずにごまかしてしまう人
- カ 自分がよければ、少しくらい人に迷惑をかけてもかまわないと思っている人
- キ いつもだれかと一緒にいたいと思っている人
- ク 悪いことだと思っても、仲間と一緒にになるとやってしまう人
- ケ 超能力や占いなどを信じる人

(選択肢)

- 1 多い 2 やや多い 3 どちらともいえない 4 やや少ない 5 少ない

(1) 経年比較

この質問は、10年調査で新たに追加されたものであり、経年比較は、10年調査と今回調査の間で行う。同世代の者に対する見方に関する各項目の回答を、「多い」（「多い」及び「やや多い」の合計。以下同じ。）、「どちらともいえない」、「少ない」（「少ない」及び「やや少ない」の合計。以下同じ。）の3カテゴリーに統合し、「多い」と回答した比率を比較した。同世代の者に対する見方について、「多い」と回答した比率が上位5番目までの経年比較は、表2-10-1のとおりである。

いずれの調査でも1位は、「いつもだれかと一緒にいたいと思っている人」であり、次いで、「今、この場が楽しければそれでよいと思っている人」であった。10年調査で3位であった「悪いことだと思っても、仲間と一緒にになるとやってしまう人」が今回調査で4位となり、10年調査で4位であった「気に入らないことがあると、カッとしたり、落ち込んだりしやすい人」が今回調査では3位と上昇している。

同世代の者に対しては、群れたがる者やその場だけを楽しもうという者が多いという認知をしていることがうかがわれ、そうした認知に大きな変化は見られないと考えられる。

表2-10-1 同世代の者に対する見方（経年比較）

区 分	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
10年調査	いつもだれかと一緒にいたいと思っている人	今、この場が楽しければそれでよいと思っている人	悪いことだと思っても、仲間と一緒にになるとやってしまう人	気に入らないことがあると、カッとしたり、落ち込んだりしやすい人	ほかにの人にどう思われているか、気になる人
	78.8	75.3	73.1	66.1	58.2
17年調査	いつもだれかと一緒にいたいと思っている人	今、この場が楽しければそれでよいと思っている人	気に入らないことがあると、カッとしたり、落ち込んだりしやすい人	悪いことだと思っても、仲間と一緒にになるとやってしまう人	ほかにの人にどう思われているか、気になる人
	82.3	76.0	71.1	69.4	59.1

注 数値は、「多い」及び「やや多い」の比率を合計したものである。

(2) 非行性による比較

今回調査において、同世代の者に対する見方に関する回答と少年鑑別所入所歴との間のクロス集計によって、 χ^2 値が有意となった項目は、「いやなことがあっても、すぐ忘れようとする人」のみであった($\chi^2(2)=7.84^*$)。再入者の方が初入者よりも、同世代の者をいやなことから目をそらしがちであると認知しやすいことがうかがわれる。

11 非行に対する意見

非行あるいは非行少年について、お聞きします。(Q17)

ア あなたは、少年が非行に走るのには、どこに主な原因があると思いますか。

1 少年自身 2 家族(親) 3 友達・仲間 4 その他

イ あなたは、非行少年の扱いについて、次のどちらの意見に賛成ですか。

1 厳しく罰する 2 あたたく指導する

(1) 経年比較

少年が非行に走る原因についての経年比較は、図2-11-1①のとおりである。

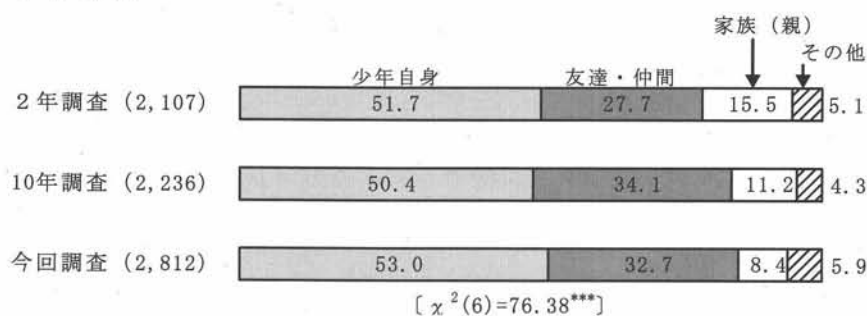
いずれの調査でも、少年が非行に走る原因と選択した比率は、「少年自身」が最も高く、次いで、「友達・仲間」、「家族(親)」、「その他」の順であった。クロス集計の結果、 χ^2 値が有意であった($\chi^2(6)=76.38^{***}$)。非行の原因として「家族(親)」とする比率が低下傾向であることがうかがわれる。

非行少年の扱いについての経年比較は、図2-11-1②のとおりである。

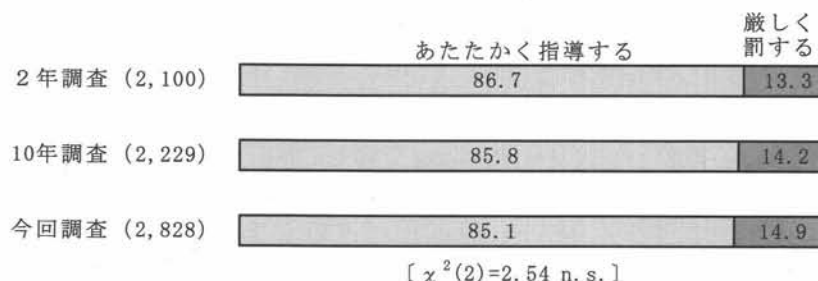
いずれの調査でも、非行少年の扱いについて賛成と選択した比率は、「あたたく指導する」がかなり高く、「厳しく罰する」は低かった。クロス集計の結果、 χ^2 値は有意ではなかった($\chi^2(2)=2.54 \text{ n.s.}$)。

図2-11-1 非行に対する意見(経年比較)

① 非行の原因



② 非行少年の扱い



注 () 内は、回答者数である。

(2) 非行性による比較

少年が非行に走る原因と選択した各項目の比率を少年鑑別所入所歴別に統計的に検定したところ、有意差は、認められなかった ($\chi^2(3)=.53$ n.s.)。

非行少年の扱いに対する回答の比率を少年鑑別所入所歴別に統計的に検定したところ、有意差は、認められなかった ($\chi^2(3)=2.85$ n.s.)。

非行に対する意見については、初入者及び再入者の間で特に認識の違いは認められなかった。

12 心のブレーキ

もし、あなたが法律で禁じられているような「悪い」ことをしようと思ったとき、あなたを思いとどまらせる心のブレーキになるのは次のどれですか。(Q18)

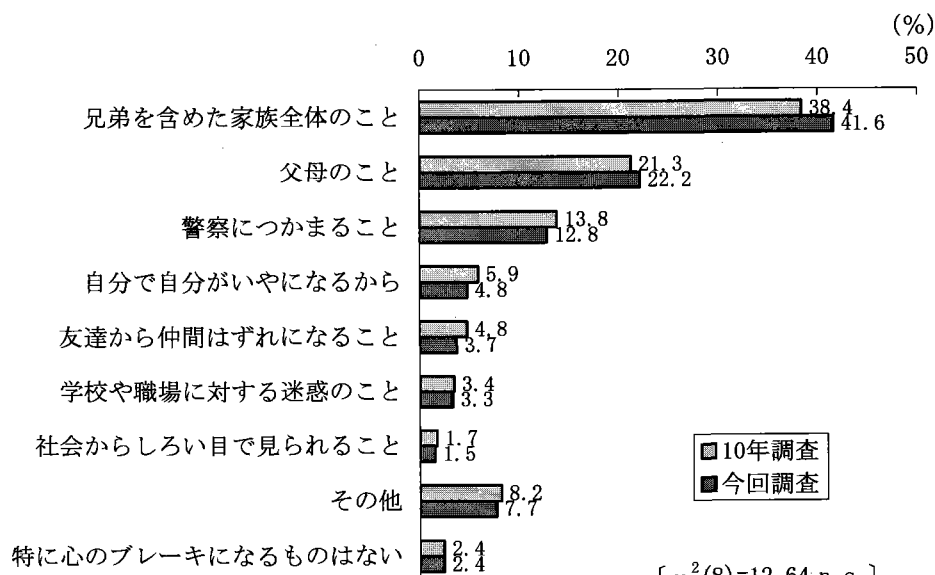
- | | |
|--------------------|------------------|
| 1 父母のこと | 2 兄弟を含めた家族全体のこと |
| 3 友達から仲間はずれになること | 4 学校や職場に対する迷惑のこと |
| 5 社会からしろい目で見られること | 6 警察につかまること |
| 7 自分で自分がいやになるから | 8 その他 |
| 9 特に心のブレーキになるものはない | |

(1) 経年比較

この質問は、10年調査で新たに追加されたものであり、10年調査と今回調査の間の経年比較は、図2-12-1でとりである。

いずれの調査でも、心のブレーキと選択した比率は、「兄弟を含めた家族全体のこと」が最も高く、次いで、「父母のこと」、「警察につかまること」の順であった。クロス集計の結果、 χ^2 値は有意ではなかった ($\chi^2(8)=12.64$ n.s.)。

図2-12-1 心のブレーキ（経年比較）



注 項目に該当する者の比率である。

(2) 非行性による比較

初入者及び再入者ともに、心のブレーキと選択した比率は、「兄弟を含めた家族全体のこと」が最も高く、次いで、「父母のこと」、「警察につかまること」の順であった。「その他」を選択した比率が、再入者が11.3%，初入者が6.3%で、再入者の方が高かった。交友関係に関する回答結果などを考慮すると、再入者の方が「その他」として恋人などを心のブレーキと考えているのではないかと思われる。

13 これからの生活で大切なこと

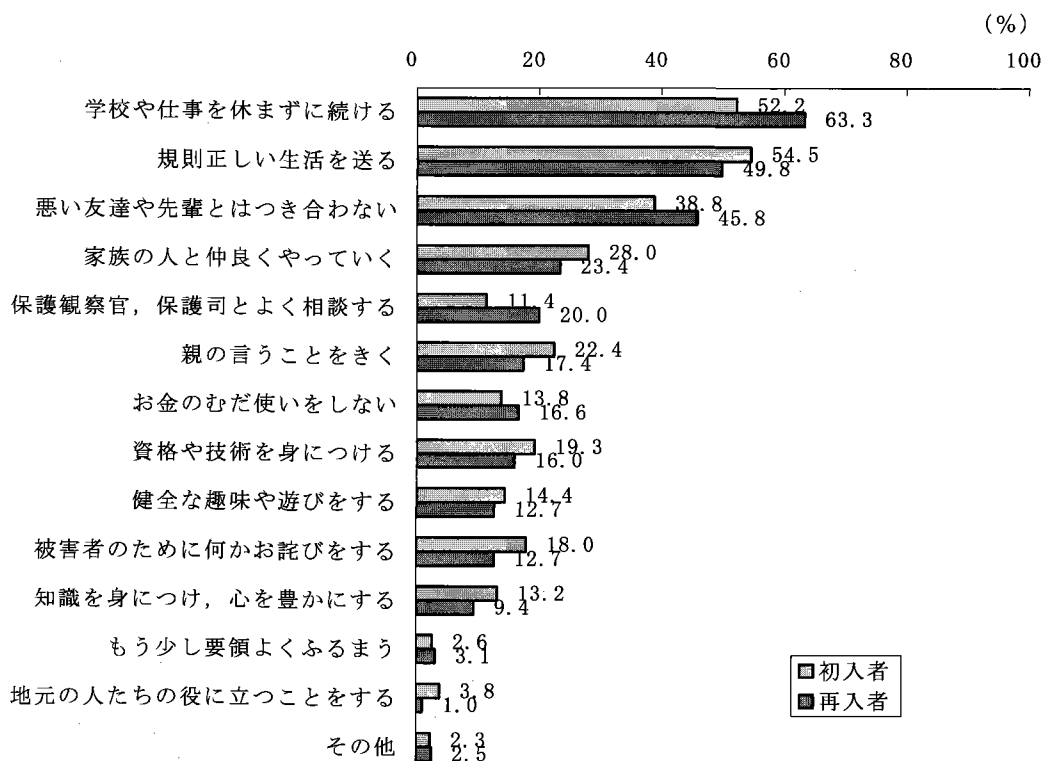
これからの生活で、あなたにとって大切と思えるもの3つを選んでください。(Q19)

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 規則正しい生活を送る | 2 お金のむだ使いをしない |
| 3 健全な趣味や遊びをする | 4 学校や仕事を休まずに続ける |
| 5 資格や技術を身につける | 6 知識を身につけ、心を豊かにする |
| 7 親の言うことをきく | 8 家族の人と仲良くやっていく |
| 9 悪い友達や先輩とはつき合わない | 10 被害者のために何かお詫びをする |
| 11 地元の人たちの役に立つことをする | 12 保護観察官、保護司とよく相談する |
| 13 もう少し要領よくふるまう | 14 その他 |

この質問は、今回調査で新たに追加したものであることから、非行性による比較のみを行う。

これからの生活で大切なことに関する各項目の回答の少年鑑別所入所歴別の比率は、図2-13-1のとおりである。

図2-13-1 これからの生活で大切なこと（非行性による比較）



注 1 項目に該当する者の比率である。

2 最大三つまでの複数回答である。

今回調査では、これからの生活で大切なことと選択した比率は、「学校や仕事を休まずに続ける」が55.4%と最も高く、次いで、「規則正しい生活を送る」53.1%、「悪い友達や先輩とは付き合わない」40.8%の順であった。

初入者と再入者を比較すると、初入者の方が「規則正しい生活を送る」、「家族の人と仲良くやっていく」、「親の言うことを聞く」などが高く、再入者の方が「学校や仕事を休まずに続ける」、「悪い友達や先輩とは付き合わない」、「保護観察官、保護司とよく相談する」が高かった。

14 自分の生き方に対する満足度

あなたは、今の自分の生き方に、どのくらい満足していますか。(Q20)

- 1 満足
- 2 やや満足
- 3 どちらとも言えない
- 4 やや不満
- 5 不満

(1) 経年比較

自分の生き方に対してどのくらい満足しているかに関する経年比較は、図2-14-1のとおりである。

自分の生き方に対する満足度を、「満足」、「どちらとも言えない」、「不満」の3カテゴリーに統合し、これまでの3回の調査結果の間でクロス集計を行ったところ、 χ^2 値は有意であった($\chi^2(4)=27.77^{***}$)。自分の生き方に対して「満足」とする者の比率は、2年調査が37.8%で、10年調査では34.9%とやや低下したが、今回調査では38.7%とやや上昇しており、一貫した傾向はうかがわれない。

図2-14-1 自分の生き方に対する満足度(経年比較)

	満足	どちらとも言えない	不満
2年調査(2,111)	37.8	31.2	31.0
10年調査(2,238)	34.9	27.3	37.8
今回調査(2,847)	38.7	27.4	33.9

[$\chi^2(4)=27.77^{***}$]

注 1 「満足」は、「満足」及び「やや満足」を合計したものであり、「不満」は、「不満」及び「やや不満」を合計したものである。

2 ()内は、回答者数である。

(2) 非行性による比較

自分の生き方に対してどのくらい満足しているかに関する少年鑑別所入所歴別の比較は、図2-14-2のとおりである。初入者の「満足」とする者の比率が40.8%、再入者の「満足」とする者の比率が33.5%であり、初入者の方が「満足」とする者の比率が高く、 χ^2 値も有意であった($\chi^2(2)=16.58^{***}$)。

図 2-14-2 自分の生き方に対する満足度（非行性による比較）

	満足	どちらとも言えない	不満
初入者（2,031）	40.8	27.3	31.9
再入者（816）	33.5	27.7	38.8

$$[\chi^2(2)=16.58^{***}]$$

注 1 「満足」は、「満足」及び「やや満足」を合計したものであり、「不満」は、「不満」及び「やや不満」を合計したものである。

2 （ ）内は、回答者数である。

第3 調査結果の総合的統計分析

調査結果の基礎的統計分析においては、質問項目ごとに単純集計、経年比較、非行性による比較を行い、非行少年の意識の特徴及びその変化を探ってきた。以下の調査結果の総合的統計分析では、非行少年の意識の実態により深く迫るため、非行少年の生活満足度、対人感情及び対人態度の構造並びにそれらの関連について、多変量解析を用いた分析を試みる。

法務総合研究所では、2年調査の結果に対して、確認的因子分析等を実施し、非行少年の対人感情として不信感、劣等感及び無力感の3因子を抽出して、その構造等について検討している⁷。今回は、非行少年の対人感情の構造だけではなく、生活満足度及び対人態度の構造についても分析を行い、それらの関連について検討する。具体的な分析目的をまとめると、次のとおりである。

- ① 生活満足度、対人感情及び対人態度の内容がどのような因子によって構成されているかを因子分析を用いて検討する。
- ② 生活満足度、対人感情及び対人態度の間にどのような関連があるかを共分散構造分析を用いて検討する。

1 生活満足度の因子分析

生活満足度に関する項目（家庭生活に対する満足度（Q1）、友人関係に対する満足度（Q4）、社会に対する満足度（Q12）、自分の生き方に対する満足度（Q20））に対する回答結果に因子分析を行い、生活満足度を構成している因子を抽出する。

生活満足度に関する項目では、5段階評定で回答することを求めている。それぞれの項目に対する回答について、「満足」を5点、「やや満足」を4点、「どちらともいえない」を3点、「やや不満」を2点、「不満」を1点として、家庭生活に対する満足度、友人関係に対する満足度、社会に対する満足度、自分の生き方に対する満足度を表すものとした。各項目の平均値及び標準偏差は、表3-1-1のとおりである。

各項目の回答の分布を見ると、家庭生活に対する満足度及び友人関係に対する満足度の回答が、「満足」の方向にやや偏っているが、分析から除くほどではないと判断し、以降の分析にも含めることとする。

表3-1-1 生活満足度に関する項目の
基礎統計量

項 目	平 均 値	標 準 偏 差
家 庭 生 活	4.04	1.15
友 人 関 係	4.14	1.04
社 会	3.13	1.06
自 分 の 生 き 方	3.05	1.25

注 無回答は除く。

今回調査の生活満足度に関する項目の回答結果に対して、最尤法を用いた因子分析を行った。各項目間の相関係数（ピアソン）は、表3-1-2のとおりである。

7 坪内宏介ほか「非行少年の生活・価値観に関する研究（第2報告）」、法務総合研究所研究部紀要35、1992、187-202

表 3－1－2 生活満足度に関する項目間の相関係数

項 目	家 庭 生 活	友 人 関 係	社 会	自分の生き方
家 庭 生 活	1.00	0.19	0.33	0.29
友 人 関 係		1.00	0.18	0.25
社 会			1.00	0.27
自 分 の 生 き 方				1.00

注 無回答は除く。

個有値の減少傾向を見ると、第1因子が1.76、第2因子が.86、第3因子が.71、第4因子が.67となったことから、1因子のみを抽出した。生活満足度の因子分析結果は、表3－1－3のとおりである。

すなわち、生活満足度は、満足しているか、満足していないかの1因子によって構成されると考えられる。

表 3－1－3 生活満足度の因子分析結果

項 目	因 子
家 庭 生 活	0.56
友 人 関 係	0.54
社 会	0.53
自 分 の 生 き 方	0.38
寄 与 率 (%)	25.82

注 無回答は除く。

2 対人感情の因子分析

今回調査の対人感情に関する項目 (Q15) に対する回答結果に因子分析を行い、対人感情を構成している因子を抽出する。

対人感情に関する質問では、計12項目について4段階評定で回答することを求めている。それぞれの項目に対する回答について、「よくある」を4点、「ときどきある」を3点、「あまりない」を2点、「まったくない」を1点としたが、坪内ら (1992) において「無力感」に含まれた項目等 (「自分の努力がだんだん実ってきている感じ」、「自分がものごとに打ち込んでいるという感じ」、「自分は頼りにされているという感じ」、「世の中の人々は互いに助け合っているという感じ」) については、因子の意味との関連から他の項目と異なり、「逆転項目」として、「よくある」を1点、「ときどきある」を2点、「あまりない」を3点、「まったくない」を4点とした。各項目ごとの平均値及び標準偏差は、表3－2－1のとおりである。

今回調査の対人感情に関する項目の回答結果に対して、最尤法・斜交プロマックス回転による因子分析をそれぞれ実施し、固有値の減少等を考慮の上、3因子を抽出した。因子分析を実施した結果は、表3－2－2のとおりである。

第1因子では、「自分は何をやってもだめな人間だという感じ」、「自分は世の中から取り残されているという感じ」、「自分の性格がいやになるという感じ」などが高い因子負荷量を示したことから、「劣等感」因子と名付けた。第2因子では、「自分の努力がだんだん実ってきているという感じ (逆転)」、「自分がものごとに打ち込んでいるという感じ (逆転)」、「自分は頼りにされているという感じ (逆転)」などが高い因子負荷量を示したことから、「無力感」因子と名付けた。第3因子では、「世の中は結局金だけが

頼りだという感じ」,「世の中には自分しか信じるものがないという感じ」,「心のあたたま思いが少ないという感じ」などが高い因子負荷量を示したことから,「不信感」因子と名付けた。

すなわち,対人感情は,「劣等感」,「無力感」及び「不信感」の3因子から構成され则认为られる。

表 3 - 2 - 1 対人感情に関する項目の基礎統計量

項	目	平均値	標準偏差
Q15-ア	自分しか信じるものがない	2.10	0.88
Q15-イ	世の中は金だけが頼り	2.66	0.95
Q15-ウ	心のあたたま思いが少ない	2.32	0.85
Q15-エ	自分の性格がいやになる	2.89	0.87
Q15-オ	自分は何をやってもだめ	2.53	0.89
Q15-カ	世の中から取り残されている	2.25	0.90
Q15-キ	自分だけが悪く思われている	2.58	0.92
Q15-ク	意志が弱い	2.95	0.95
Q15-ケ	ものごとに打ち込んでいる (逆転)	2.09	0.82
Q15-コ	頼りにされている (逆転)	2.31	0.78
Q15-サ	努力が実ってきている (逆転)	2.30	0.85
Q15-シ	人々は互いに助け合っている (逆転)	2.13	0.89

注 無回答は除く。

表 3 - 2 - 2 対人感情の因子分析結果

項 目		因 子		
		I	II	III
因子Ⅰ：劣等感				
Q15-オ	自分は何をやってもだめ	0.80	0.07	-0.07
Q15-カ	世の中から取り残されている	0.67	0.01	0.05
Q15-エ	自分の性格がいやになる	0.63	0.00	0.01
Q15-ク	意志が弱い	0.47	0.04	-0.06
Q15-キ	自分だけが悪く思われている	0.42	-0.07	0.24
因子Ⅱ：無力感				
Q15-サ	努力が実ってきている（逆転）	0.01	0.74	0.02
Q15-ケ	ものごとに打ち込んでいる（逆転）	0.01	0.57	-0.03
Q15-コ	頼りにされている（逆転）	0.14	0.52	-0.04
因子Ⅲ：不信感				
Q15-ア	自分しか信じるものがない	0.07	-0.06	0.62
Q15-イ	世の中は金だけが頼り	-0.62	0.02	0.60
Q15-ウ	心のあたたま思いが少ない	0.10	0.02	0.55
Q15-シ	人々は互いに助け合っている（逆転）	-0.15	0.32	0.32
因子間相関		I	II	III
I		1.00	0.34	0.52
II			1.00	0.34
III				1.00

注 無回答は除く。

3 対人態度の因子分析

今回調査の態度・価値観に関する質問 (Q14) のうち,対人態度に関連する項目を選んで因子分析を行

い、対人態度を構成している因子を抽出する。

態度・価値観に関する質問は、計19項目あるが、このうち対人態度に関連する10項目を選び、それぞれの項目に対する回答について、「賛成」を5点、「やや賛成」を4点、「どちらともいえない」を3点、「やや反対」を2点、「反対」を1点として、項目ごとの平均値及び標準偏差を見ると、表3-3-1のとおりである。

表3-3-1 対人態度に関する項目の基礎統計量

項 目	平 均 値	標準偏差
多数の意見には従うべき	2.91	1.18
ひょうきんにふるまう人が好き	3.71	1.09
目立たないようにする方がよい	2.58	1.15
場合によっては腕力に訴えてもよい	3.27	1.24
自分のしたいことをする方がよい	3.02	1.18
自分のやりたいことをやるにはルール破りも仕方ない	2.27	1.13
努力よりも要領よくふるまう方がよい	2.88	1.09
リーダーよりも人に従っていた方が気楽でよい	2.60	1.23
人のことは深入りしない方がよい	3.45	1.05
年上や目上の人には従うべき	3.34	1.13

注 無回答は除く。

今回調査の対人態度に関する項目の回答結果に対して、最尤法・斜交プロマックス回転による因子分析をそれぞれ行い、固有値の減少等を考慮の上、2因子を抽出した。二つの因子のどちらにも低い因子負荷量しか示さなかった2項目（「年上や目上の人には従うべきだ」、「人のことにはあまり深入りしない方がよい」）を除いて、再度、因子分析を行った結果は、表3-3-2のとおりである。

第1因子では、「自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破るのも仕方がないことだ」、「世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい」、「努力するよりも、要領よくふる

表3-3-2 対人態度の因子分析結果

項 目	因 子	
	I	II
因子I：自己優先的態度		
自分のやりたいことをやるにはルール破りも仕方ない	0.67	-0.07
自分のしたいことをする方がよい	0.58	0.03
場合によっては腕力に訴えてもよい	0.41	-0.05
努力よりも要領よくふるまう方がよい	0.39	0.20
ひょうきんにふるまう人が好き	0.37	-0.08
因子II：状況依存的態度		
目立たないようにする方がよい	-0.12	0.56
リーダーよりも人に従っていた方が気楽でよい	0.13	0.48
多数の意見には従うべき	-0.05	0.33
因子間相関	I	II
	1.00	0.19
		1.00

注 無回答は除く。

まう方がよい」などが高い因子負荷量を示したことから、「自己優先的態度」因子と名付けた。第2因子では、「まわりから何か言われないうに、目立たないようにする方がよい」、「リーダーになって苦労するよりは、人に従っていた方が気楽でいい」、「自分の意見とちがっていても多数の意見には従うべきだ」が高い因子負荷量を示したことから、「状況依存的態度」因子と名付けた。

すなわち、対人態度は、「自己優先的態度」及び「状況依存的態度」の2因子から構成され则认为られる。

4 生活満足度、対人感情及び対人態度の関連について

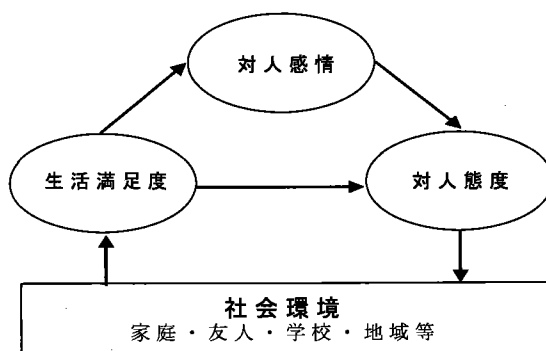
(1) 仮説的な因果モデル

生活満足度、対人感情及び対人態度の関連を包括的に検討するため、共分散構造分析を用いたモデル構成を試みる。因子分析で抽出した生活満足度、対人感情及び対人態度の各因子がどのように関連するかを探る。仮説的な因果モデルは、図3-4-1のとおりである。

この因果モデルでは、家庭や友人関係等の社会環境との交互作用によってもたらされる生活満足度の高低が対人感情に影響を与え、さらに、対人感情の変化は対人態度に影響を与えると仮定する。他方、生活満足度は対人感情に影響を与えるだけでなく、直接、対人態度の変化に影響を与えると仮定する。非行との関連で見れば、家庭や友人関係等での生活満足度の低下、すなわち不満の高まりは、負の対人感情を強め、さらに、負の対人感情の強まりは、偏った対人態度を強め、非行への接近を容易にさせることになると仮定する。他方、生活満足度の上昇は、自己満足的な傾向を強めるという意味で、偏った対人態度を強めるだろうと仮定する。

以下では、この因果モデルの構造の妥当性について検討する。

図3-4-1 仮説的な因果モデル



(2) 共分散構造分析による生活満足度、対人感情及び対人態度の関連の検討

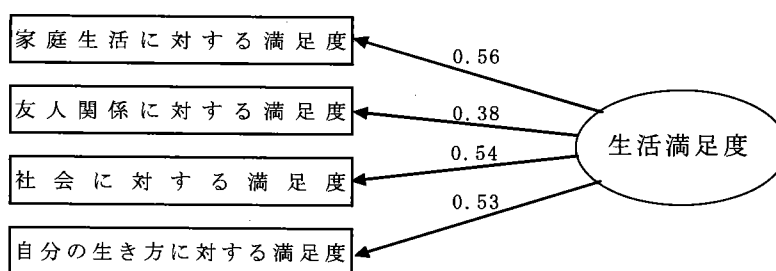
まず生活満足度、対人感情及び対人態度の潜在変数ごとに、観測変数を設定し、その適合度について検討する。共分散構造分析においては、統計パッケージソフト SPSS の Amos4.0を用いた。

生活満足度の潜在変数は、家庭生活に対する満足度、友人関係に対する満足度、社会に対する満足度及び自分の生き方に対する満足度の4項目の回答すべてを観測変数として構成した。

生活満足度のモデル図及び分析結果は、図3-4-2のとおりである。

各適合度指標の値は、適合度指標 (GFI) = .996, 修正適合度指標 (AGFI) = .980, 比較適合度指標 (CFI) = .979, 平均二乗誤差平方根 (RMSEA) = .059であり、モデルが十分にデータを説明していると判断した。各パス係数のうち、生活満足度から友人関係に対する満足度への値がやや低く、友人関係の満足度が全般的な満足度とはやや違った個別の要因によって変動しやすいのではないと思われる。

図 3-4-2 生活満足度のモデル図及び分析結果



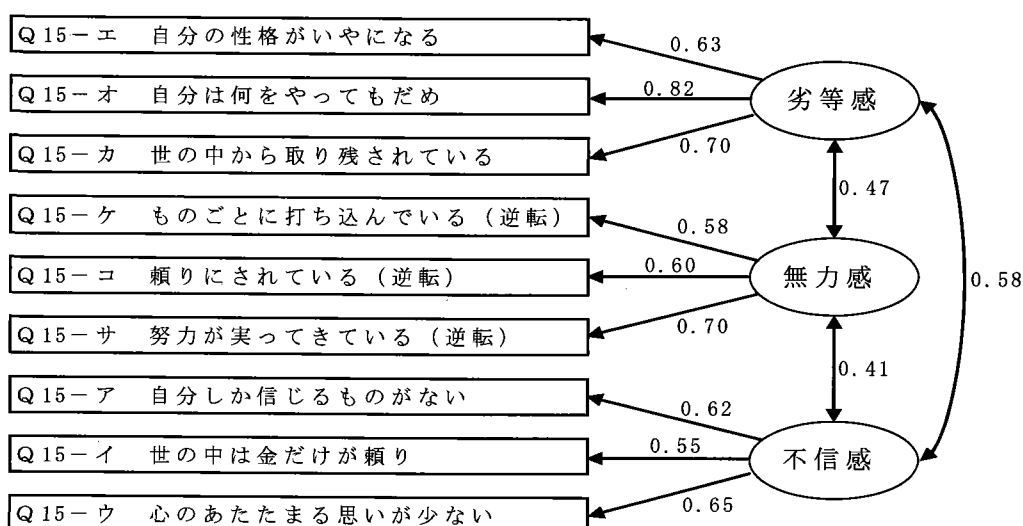
注 1 各適合度指標の値は、GFI=0.996, AGFI=0.980, CFI=0.979, RMSEA=0.059である。

2 分析数は、2,731人である。

対人感情に関するモデルの構成では、因子分析で因子負荷量が高かった項目の中から各因子3項目ずつを観測変数とした。対人感情のモデル図及び分析結果は、図 3-4-3 のとおりである。

各適合度指標の値は、GFI=.986, AGFI=.973, CFI=.970, RMSEA=.049であり、モデルが十分にデータを説明していると判断した。劣等感と不信感の相関係数が.58, 劣等感と無力感の相関係数が.47, 無力感と不信感の相関係数が.41であり、劣等感と不信感の関連と比較して、無力感と他の2つの因子との関連はやや低い。

図 3-4-3 対人感情のモデル図及び分析結果



注 1 各適合度指標の値は、GFI=0.986, AGFI=0.973, CFI=0.970, RMSEA=0.049である。

2 分析数は、2,731人である。

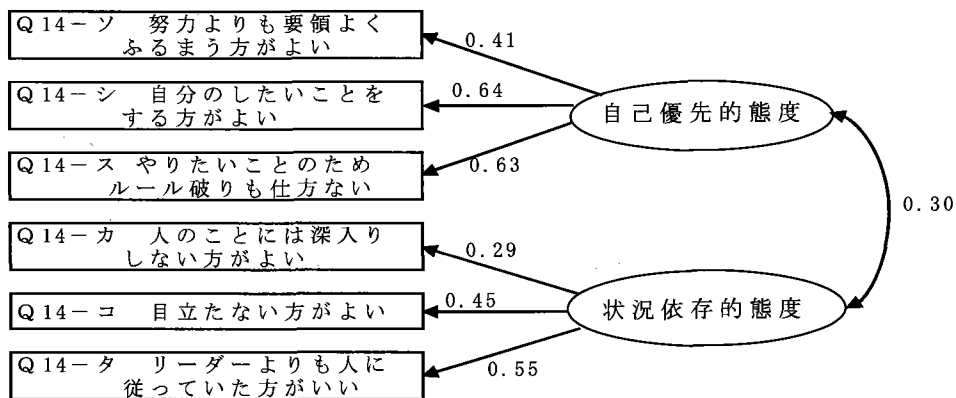
対人態度に関するモデルの構成では、因子分析で因子負荷量が高かった項目の中から各因子3項目ずつを観測変数とした。対人態度のモデル図及び分析結果は、図 3-4-4 のとおりである。

各適合度指標の値は、GFI=.982, AGFI=.952, CFI=.878, RMSEA=.083であり、モデルがデータを説明していると判断した。自己優先的態度と状況依存的態度の相関係数は、.30と正の関係であった。

生活満足度、対人感情及び対人態度の各潜在変数ごとに適合度等を検討したところ、いずれも良好な適合度を示したことから、次に、図 3-4-1 で示した仮説的な因果モデルによって、各潜在変数間の関連を検討する。生活満足度、対人感情及び対人態度の関連性に対する共分散構造分析による結果は、図 3-4-5 のとおりである。

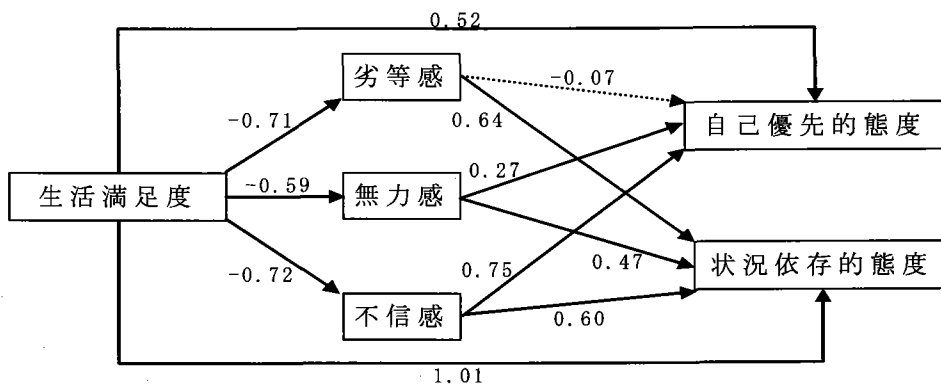
各適合度指標の値は、GFI=.953, AGFI=.936, CFI=.886, RMSEA=.053であり、モデルが十分

図 3 - 4 - 4 対人態度のモデル図及び分析結果



- 注 1 各適合度指標の値は、GFI=0.982, AGFI=0.952, CFI=0.878, RMSEA=0.083
である。
- 2 分析数は、2,731人である。

図 3 - 4 - 5 生活満足度、対人感情、対人態度の関連性



- 注 1 各適合度指標の値は、GFI=0.953, AGFI=0.936, CFI=0.886, RMSEA=0.053
である。
- 2 分析数は、2,731人である。
- 3 「劣等感」から「自己優先的態度」への破線は、パス係数が有意でないことを示す。

にデータを説明していると判断した。

生活満足度から対人感情へのパスを検討すると、生活満足度の高低は、負の対人感情である劣等感、無力感、不信感のすべてに対して、マイナスの方向で有意な影響を及ぼしている。すなわち、生活満足度が上昇すれば、負の対人感情は低下し、生活満足度が低下すれば、負の対人感情は上昇しやすいことがわかる。特に、生活満足度の高低は、劣等感及び不信感にかなり強い影響を与えやすい。生活満足度が無力感に及ぼす影響度は、劣等感及び不信感に及ぼす影響度よりは若干低い。

対人感情から対人態度へのパスを検討すると、劣等感の強まりは、状況依存的態度を強める。すなわち、劣等感が強いほど周囲に追従的な傾向が強まる。劣等感から自己優先的態度へのパスは、有意にはならず、劣等感の高低が自己優先的態度の高低に与える影響は、ほとんどどうかがわからない。

無力感の強まりは、状況依存的態度を強めやすく、同時に自己優先的態度も若干強める。すなわち、無力感が強まると、成り行き任せにしようとする状況依存的傾向が強まるが、同時に投げやりな気持ちから自己優先的態度を強めるのではないかと思われる。ただし、無力感が対人態度の形成に及ぼす影響度は、劣等感及び不信感と比較するとやや低い。

不信感の強まりは、自己優先的態度をかなり強めるが、同時に状況依存的態度も若干強める。すなわち、不信感が強いほど、周囲にかかわりなく自分の欲求を充足しようとする傾向が強まるが、同時に自

分の責任を回避するために成り行きに任せるという状況追従的傾向を強めやすいことがうかがわれる。

仮説的な因果モデルでは、生活満足度が対人感情の高低に影響を与えるだけでなく、直接的に対人態度に影響を与えると仮定している。生活満足度の変動は、状況依存的態度にかなり影響を与え、自己優先的態度にもやや影響を与えている。すなわち、生活満足度が上昇すれば、状況依存的態度をかなり強めるとともに、同時に自己優先的態度もやや強めることがうかがわれる。

以上の生活満足度、対人感情及び対人態度の関連性に対する共分散構造分析の結果をまとめると、図 3-4-1 で示した仮説的な因果モデルの妥当性が確認された。すなわち、生活満足度の高低が対人感情の悪化あるいは好転に影響を及ぼし、対人感情の悪化あるいは好転によって対人態度が影響を受ける。また、生活満足度の高低は、直接的に対人態度に有意な影響を与えている。非行との関連で見れば、生活満足度が低下すれば、対人感情が悪化し、偏った対人態度を強めやすく、それによって非行に走るリスクが高まるであろう。また、生活満足度の上昇は、偏った対人態度、特に、状況依存的態度を強める、といった因果関係が確認された。生活満足度の上昇は、対人感情の悪化あるいは好転に影響を与えて、さらに、対人態度に影響を及ぼすときは、対人感情の好転をもたらすことによって、偏った対人態度を弱める方向に影響を及ぼすが、直接、対人態度に影響を及ぼすときは、偏った対人態度を強める方向に影響を及ぼすという相反する影響の及ぼし方が観測された。対人感情の好転をもたらさずに、生活満足度だけが上昇した場合、自己満足的な気分を強め、無責任な状況依存的態度を強めやすいと考えられる。ただし、生活満足度から対人態度への標準化総合効果を見ると、自己優先的態度へ-.173、状況依存的態度へ-.158であり、生活満足度の上昇は、総合的には偏った対人態度をわずかに弱める方向に影響を及ぼしやすいことがうかがわれる。

基礎的統計分析では、非行少年の生活満足度の上昇、対人感情の好転、自己優先的態度の弱まり等が認められており、非行少年の全体的な意識としては、上記の因果モデルを当てはめれば、生活満足度の上昇が対人感情の好転をもたらす、それによって自己優先的態度の弱まりが見られるようになっていると考えることもできる。

しかし、生活満足度の上昇は、一方で、偏った対人態度を強める方向に影響を及ぼすことにも注意が必要である。基礎的統計分析では、自己優先的態度は弱まっているが、状況依存的態度は強まる傾向にあることがうかがわれ、今後、対人感情の好転を伴わずに生活満足度が上昇した場合、無責任で人任せな態度が強まるおそれがある。

さらに、生活満足度の上昇や対人感情の好転についても、その中身について、詳細に検討する必要がある。家庭生活に対する満足度は上昇していたものの、家庭生活に対する満足度の基準として、家庭において金銭的な満足が得られるかどうかなどが優先度を上げてきていることがうかがわれた。また、友人関係でも、当たり障りなくそばにいて、寂しさを紛らわしてくれる友人を求めるようになっていることがうかがわれた。満足度が上昇しているといっても、家庭や友人に求めるものが変化し、親の側の許容的な態度等の変化もあり、欲求が容易に満たされやすくなっているために満足度が上昇しているのかもしれない。あるいは、満足度が上昇しているとしても、そこに求めるもののレベルが低下しているのでは、それを楽観的に評価することはできないと思われる。

第4 まとめ

基礎的統計分析及び総合的統計分析において見てきたとおり、非行少年の家族関係、友人関係、自己意識等には、この15年間で様々な変化が認められる。ここでは、分析結果に現れた特徴的な点を取り上げ、まとめとしたい。

(1) 家庭生活に対する満足度は、次第に上昇しており、7割以上の者が「満足」と回答していた。家族との関係について、「家族との話を楽しいと感じる」、「自分の将来について、親に話したいと思う」とする者の比率が上昇しているし、親に対して、「気軽に話ができる」、「悩みを打ち明けられる」などとする者の比率も上昇しており、父親や母親への親和的感情が高まり、心理的距離が縮まりつつあることがうかがわれる。

他方、家庭生活に対して「不満」とする者は、1割程度であったが、不満とする理由で最も多かったのは、「親が自分を理解してくれない」であった。親の無理解に対する不満は、2年調査、10年調査及び今回調査のいずれでも不満理由の第1位であった。家庭生活への不満理由として特徴的なのは、2年調査では不満理由の上位5位内にも入っていなかった「家庭に収入が少ない」が、10年調査では第3位に、今回調査では第2位の不満理由となっていることである。経済的な豊かさが広がる中、最近の経済状況等の影響で、経済的に苦しい家庭環境にいる非行少年にとって、金銭面での不遇さをより強く実感するようになり、それが家庭生活への金銭的な不満へとつながっていることがうかがわれる。

(2) 友人関係に対する満足度も、次第に上昇してきており、今回調査では、8割近くの者が「満足」と回答していた。友人関係では、「悲しいことがあったら話を聞いてもらおう」、「お互いの悪いところは悪いと言い合える」、「何も言わなくても、分かり合えている」などの選択率が高く、友人に相談相手や理解者としての役割を期待していることがうかがわれる。他方、大事な友人については、「いつもそばにいて相手になってくれる人」、「興味や趣味が似ている人」を選択する比率が上昇傾向にあることから、当たり障りなく楽しみを共有でき、寂しさを紛らわす相手になってくれる友人を求める傾向が徐々に強まっていることがうかがわれる。

友人関係に対する満足度では、非行性による有意差が認められた。初入者と比較して再入者の方が満足度が低く、「相手にけっこう気をつかっている」、「あまり深刻な相談はしない」など、友人関係に距離を置いていることがうかがわれる。他方、「悩みを打ち明けられる人」については、初入者と比較して再入者の方が異性の友達・恋人を選択した比率が高く、非行性の進んだ者ほど、異性関係に親密な相手を求めようとしていることがうかがわれる。

同世代の者に対しては、「いつもだれかと一緒にいたいと思っている人」や「今、この場が楽しければそれでよいと思っている人」が多いと認知しており、そうした同世代の者に対する認知に経年での変化はほとんど認められなかった。

(3) 今回調査における社会に対する満足度は、33.9%と低く、経年比較でもほぼ横ばいで目立った変化は認められなかった。不満とする理由は、「金持ちと貧乏な人との差がありすぎる」、「若者の意見は反映されない」などであり、金銭面での格差を不満とする者が目立った。

人の暮らし方に対する質問に対しても、「金や名誉を考えずに、自分の趣味に合った暮らし方をする」の比率が低下し、「いっしょうけんめい働き、倹約して金持ちになる」が上昇しており、金銭面での成功を第一に考える者が増えてきていることがうかがわれる。そうした金銭面での成功を志向する者は、再入者の方が初入者よりも多く、非行性の進んだ者の方が金銭面での成功を第一に考えやすいのに対し、

非行性の進んでいない者は現状維持的な志向が強いことがうかがわれる。

(4) 少年が非行に走る原因と回答した比率は、「少年自身」が最も高く、次いで、「友達・仲間」、「家族（親）」、「その他」の順であった。家庭生活における満足度の上昇を背景として、非行の原因として、「家族（親）」と回答する比率が低下傾向であることがうかがわれる。

「悪い」ことをしようと思ったときの「心のブレーキ」について、「兄弟を含めた家族全体のこと」が最も回答の比率が高く、次いで、「父母のこと」、「警察につかまること」の順であった。

これらの結果からは、非行少年は、親や家族を非行の原因とはあまり考えておらず、むしろ非行に走ることを食い止める「心のブレーキ」になっていると認知していることがうかがわれる。

(5) 今回調査では、新たに中学生生活及び地域社会に関する質問を追加して実施した。

中学生生活について、非行性による相違が見られた。再入者の方が初入者よりも、授業中にじっとしていられなかった、登校をつらく感じていた者の比率が高く、他方、初入者の方が再入者よりも学校の先生を尊敬していたとする者の比率が高かった。非行性の進んでいる者の方が中学校生活当時から不適応感を強く抱きがちであったことがうかがわれる。

地域社会に対する認知については、再入者の方が初入者よりも、地域社会における性的なものや違法なものへの接近が容易であると認知しがちであり、他方、初入者の方が再入者よりも、地域社会の人々が身近なトラブルに積極的に介入してくれると認知していた。非行性の進んでいる者の方が、地域社会の規範がよりルーズであると認知しやすいのに対し、非行性の進んでいない者の方が地域社会の人々に信頼感を抱く傾向が強いことがうかがわれる。

(6) 調査結果の総合的統計分析では、非行少年の生活満足度、対人感情及び対人態度の構造について、今回調査の結果を検討した。

対人感情の因子としては、劣等感、無力感及び不信感の三つを、対人態度の因子としては、自己優先的態度及び状況依存的態度という二つの因子を導いた上で、生活満足度、対人感情及び対人態度の関連について、生活満足度が対人感情及び対人態度に影響を及ぼし、対人感情の変化が対人態度の変化に影響を及ぼすであろうという因果関係を想定し、共分散構造分析を用いて検討した。

分析の結果、生活満足度が低下すれば、対人感情が悪化し、偏った対人態度を強めやすくなること、また、生活満足度のみが上昇した場合、偏った対人態度、特に、状況依存的態度を強めやすくなるという結果が見いだされた。すなわち、家族関係や友人関係などが親和的で、全般的な生活場面での満足度が上昇すれば、対人感情が好転し、偏った対人態度も緩和すると予想されるが、対人感情の改善を伴わず、生活満足度のみが上昇した場合、無責任な状況依存的態度が強まることも予想される。

以上の点も含め、今後も非行少年の意識を経年で比較し、その変化を詳細に検討することは、非行のメカニズムを探る上でも、非行を未然に防ぐ上でも、重要な基礎資料を提供することになるものと考えられる。

非行少年の保護者の意識

目 次

第1 調査の実施概要 53

1 調査の目的 53

2 調査実施方法 53

 (1) 質問項目 53

 (2) 調査方法 53

3 分析対象者 53

第2 調査結果の基礎的統計分析 55

1 子育てについて 55

 (1) 子育てで大切と考えていたこと 55

 (2) 子育ての問題 56

2 子供の非行について 57

 (1) 非行原因の認識 57

 (2) 子供の非行に関する現在の認識 58

3 少年院の教育に対する期待・要望 59

 (1) 子供の教育に関する少年院への期待 59

 (2) 保護者に対する少年院からの働き掛けの要望 61

4 出院後の心配な事項 62

第3 調査結果の総合的統計分析 63

1 子育ての問題の因子分析 63

2 子供の非行に関する現在の認識の因子分析 64

3 子供の教育に関する少年院への期待の因子分析 65

4 保護者に対する少年院からの働き掛けの要望の因子分析 67

5 出院後の心配な事項の因子分析 68

6 共分散構造分析による保護者の意識の検討 69

 (1) モデル構成 69

 (2) 共分散構造分析による各変数間の関連 72

7 総合的共分散構造分析による検討のまとめ 76

第4 まとめ 78

第1 調査の実施概要

1 調査の目的

この調査は、全国の少年院に収容されている少年の保護者が、子供の非行についてどのように認識し、少年院に対してどのような期待をしているかなどを把握し、非行少年の保護者への働き掛けの充実に資するための基礎資料を得ることを目的としたものである。我が国において、非行少年に対する意識調査は数多く実施されているが、非行少年の保護者を対象とした意識調査は、数少ない⁸。しかし、非行の原因として、保護者の指導力や家族関係の問題が多く指摘される中、非行少年の保護者がどのように子供を育ててきたのか、子供の非行に直面してどのように対応しようとしているのかなどについて把握することは、非行対策を考える上で重要と考えた。

そこで、本調査では、非行少年の保護者に対して、子育ての問題、子供の非行に関する認識、少年院教育への期待、出院後の心配な事項等に関する認識等について尋ね、非行少年の保護者の意識の特徴や少年の処遇上の手掛りを明らかにすることを試みる。

2 調査実施方法

(1) 質問項目

調査項目は、11項目である。F1～F4は、年齢、子供との関係、子供の年齢及び子供の性別に関する質問であり、調査対象者及びその子供の属性に関わる事項である。Q1及び2は、家庭での教育及び子育てに関連する質問であり、Q3及び4は、子供の非行に関連する質問である。Q5及び6は、少年院の教育に関連する質問であり、Q7は、出院後の心配な事項に関連する質問である。Q1～4は、各項目についての回答を四つの選択肢から選択する形式であり、Q5～7は、当てはまる項目をいくつでも選択する形式である。調査票及び単純集計は、巻末の資料を参照されたい。

(2) 調査方法

各施設に調査票を配布し、平成17年2月14日から同年4月15日までの2か月間に全国の少年院に収容されている少年の保護者への調査を依頼した。調査は、入院時保護者会又は少年との面会のために少年院に初めて来院した少年の保護者（本調査を受けることを拒否する者及び心身等の状態により調査を行うことが適当でない者を除く。）に対し、集団又は個別での実施を依頼した。調査票は無記名とした。

3 分析対象者

本調査により、実際に回答が得られたのは、父親（義（養）父を含む。以下同じ。）165人、母親（義（養）母を含む。以下同じ。）321人、その他20人（祖父4人、祖母2人、おじ1人、おば3人、その他（男性）1人、その他（女性）3人、子供との関係について無回答6人）の計506人であった。以下の分析では、父母別の比較を中心に行うことから、その他の20人を除いた486人を分析対象者とした。

本調査の分析対象者を父母別・年齢層別に見ると、表1-3-1①のとおりである。父親165人（34.0%）、母親321人（66.0%）であり、父親、母親ともに40歳代が最も多かった。

また、分析対象者を子供の男女別・子供の年齢別に見ると、表1-3-1②のとおりである。男子415人（85.4%）、女子71人（14.6%）であり、男子は17～19歳が、女子は15～17歳が比較的多かった。

8 保木正和ほか「少年院在院少年の保護者の意識に関する研究」, 矯正協会付属中央研究所紀要第12号, 2002, 113-156

表 1－3－1 分析調査対象者

① 父母別・年齢層別

年齢・父母	父 親	母 親	計
総 数	165 (100.0)	321 (100.0)	486 (100.0)
39歳以下	13 (7.9)	73 (22.7)	86 (17.7)
40～49歳	94 (57.0)	206 (64.2)	300 (61.7)
50～59歳	51 (30.9)	40 (12.5)	91 (18.7)
60歳以上	7 (4.2)	2 (0.6)	9 (1.9)

② 子供の男女別・子供の年齢別

年齢・男女	男 子	女 子	計
総 数	415 (100.0)	71 (100.0)	486 (100.0)
14 歳	20 (4.8)	8 (11.3)	28 (5.8)
15 歳	41 (9.9)	15 (21.1)	56 (11.5)
16 歳	50 (12.0)	16 (22.5)	66 (13.6)
17 歳	85 (20.5)	15 (21.1)	100 (20.6)
18 歳	106 (25.5)	9 (12.7)	115 (23.7)
19 歳	96 (23.1)	8 (11.3)	104 (21.4)
20歳以上	17 (4.1)	－ －	17 (3.5)

注 1 義父（2人）及び義母（4人）は、父親及び母親とした。
2 （ ）内は、総数に対する年齢（層）別の構成比である。

第2 調査結果の基礎的統計分析

調査結果の基礎的統計分析では、調査項目ごとに父母別の回答結果を主にクロス集計分析によって比較検討する。クロス集計分析は、変数間に統計的に有意な関係があるかどうかを見るための手法であり、ここでは、 χ^2 検定を行い、有意性を確認する。その際、できるだけ構造を単純化し、結果を理解しやすくするために、必要に応じて質問項目のカテゴリーを統合し、無回答を除いて分析する。

1 子育てについて

(1) 子育てで大切と考えていたこと

お子さんが小さなころ(小学校くらいまで)、あなたがお子さんを教育する上で次のことをどのくらい大切に考えていましたか。(Q1)

- | | |
|-----------------|------------------|
| ア 自由にのびのび育つこと | イ 親の言うことを聞くこと |
| ウ 勉強ができること | エ 社会のルールを身につけること |
| オ だれとでも仲良くできること | カ 忍耐力を身につけること |
| キ 個性を伸ばすこと | ク 親が子どもの手本となること |

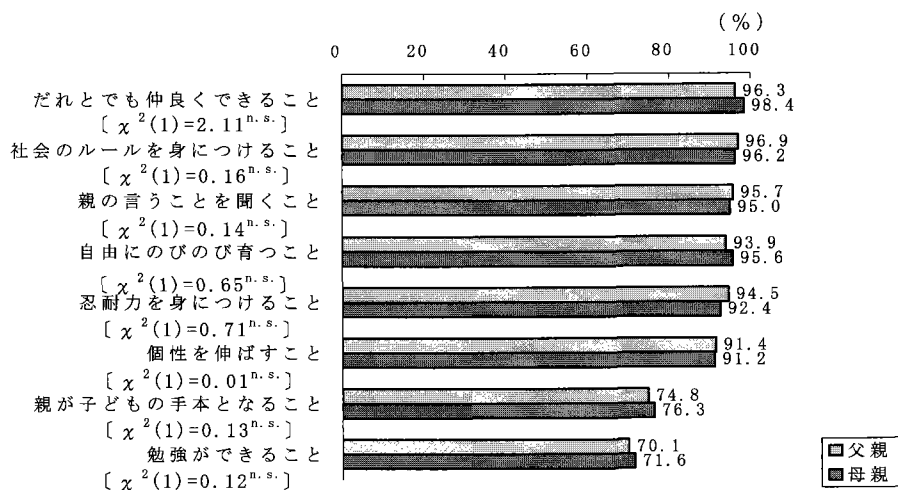
(選択肢)

- 1 とても大切に考えた 2 やや大切に考えた 3 あまり大切に考えなかった
4 まったく大切に考えなかった

子育てで大切と考えていたことについて、父母別に見ると、図2-1-1のとおりである。

「だれとでも仲良くできること」、「社会のルールを身につけること」、「親の言うことを聞くこと」、「自由にのびのびと育つこと」、「忍耐力を身につけること」及び「個性を伸ばすこと」を、「大切に考えた」(「とても大切に考えた」及び「やや大切に考えた」の合計。以下同じ。)とする比率が父母ともに90%以上とかなり高かった。他方、「親が子どもの手本となること」及び「勉強ができること」を、「大切に考

図2-1-1 子育てで大切と考えていたこと



注 1 「とても大切に考えた」及び「やや大切に考えた」を合計した比率である。
2 無回答を除く。

えた」とする比率は、父母ともに70%台でやや低かった。

各項目について父母間での考え方の違いを調べるため、選択肢を「大切に考えた」及び「大切に考えなかった」（「あまり大切に考えなかった」及び「まったく大切に考えなかった」の合計。以下同じ。）の2カテゴリーに統合し、 χ^2 検定を行った。検定の結果、有意となった項目は認められなかった。

(2) 子育ての問題

あなたの子育てについて、次のようなことがどのくらいあてはまると思いますか。(Q2)

- ア 子どもの行動に無関心だった イ 夫婦の子育ての方針が一致していなかった
ウ 子どもとの会話が少なかった エ 子どもに口うるさかった
オ 子どもの問題行動に対して「別に悪いことではない」と思っていた
カ 子どもに感情的に手をあげていた キ 子どもの好きなようにさせていた
ク 子どもに十分な愛情をかけてあげなかった

(選択肢)

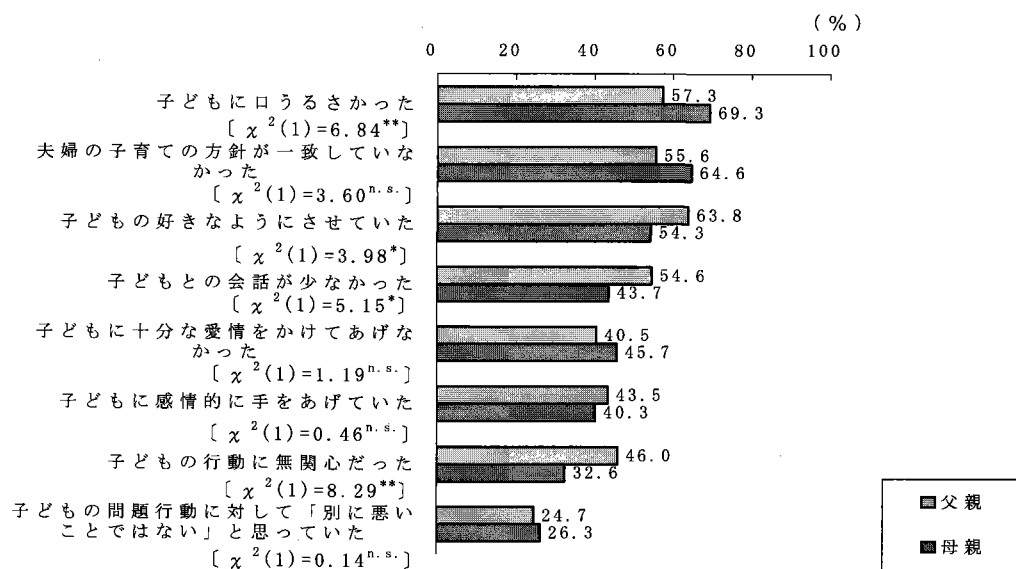
- 1 とてもそう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 まったくそう思わない

子育ての問題を、父母別に見ると、図2-1-2のとおりである。

子育てに関し、「子どもに口うるさかった」、「夫婦の子育ての方針が一致していなかった」及び「子どもの好きなようにさせていた」ことに対し、父母ともに、「そう思う」（「とてもそう思う」及び「ややそう思う」の合計。以下同じ。）とする比率が高かった。

各項目について父母間での考え方の違いを調べるため、選択肢を「そう思う」及び「そう思わない」（「あまりそう思わない」及び「まったくそう思わない」の合計。以下同じ。）の2カテゴリーに統合し、 χ^2 検定を行った。検定の結果、「子どもに口うるさかった」（ $\chi^2(1)=6.84^{**}$ ）、「子どもの好きなようにさせていた」（ $\chi^2(1)=3.98^*$ ）、「子どもとの会話が少なかった」（ $\chi^2(1)=5.15^*$ ）及び「子どもの行動に無関心だった」（ $\chi^2(1)=8.29^{**}$ ）において有意な差が認められた。

図2-1-2 子育ての問題



注 1 「とてもそう思う」及び「ややそう思う」を合計した比率である。

2 無回答を除く。

すなわち、「子どもに口うるさかった」の項目では、母親の方が「そう思う」と回答した者の比率が有意に高く、「子どもの好きなようにさせていた」、「子どもとの会話が少なかった」及び「子どもの行動に無関心だった」では、父親の方が「そう思う」と回答した者の比率が有意に高かった。これらのことから、母親の方が、過干渉的に、父親の方が、放任的に子供と接していたと認識していることがうかがわれる。

2 子供の非行について

(1) 非行原因の認識

あなたのお子さんが非行に走った原因について、次のようなことがどのくらいあてはまると思いますか。(Q3)

ア 家庭の問題

イ 友人の問題

ウ 学校の問題

エ お子さん本人の問題

(選択肢)

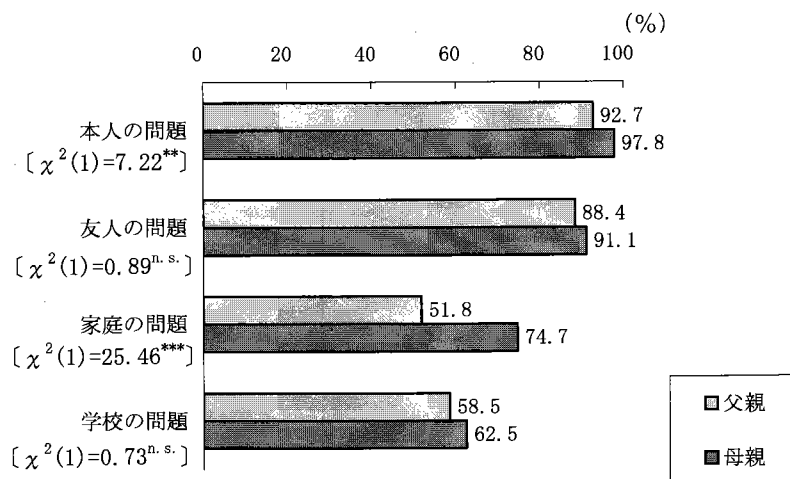
- 1 とてもあてはまる 2 ややあてはまる 3 あまりあてはまらない
4 まったくあてはまらない

非行原因の認識を、父母別に見ると、図2-2-1のとおりである。

非行原因として、「本人の問題」が、「あてはまる」（「とてもあてはまる」及び「ややあてはまる」の合計。以下同じ。）とする比率が、父親92.7%，母親97.8%と最も高く、次いで、「友人の問題」とする比率が、父親88.4%，母親91.1%であった。「家庭の問題」とする比率は、父親51.8%，母親74.7%と両者にかなり差が見られ、父親の方が母親よりも、家庭の問題を子供の非行と結び付けない傾向がうかがわれる。

すべての項目において、母親が「あてはまる」と回答した比率が高かったが、各項目について父母間

図2-2-1 非行原因の認識



注 1 「とてもあてはまる」及び「ややあてはまる」を合計した比率である。
2 無回答を除く。

での考え方の違いを調べるため、選択肢を「あてはまる」及び「あてはまらない」（「あまりあてはまらない」及び「まったくあてはまらない」の合計。以下同じ。）の2カテゴリーに統合し、 χ^2 検定を行った。検定の結果、「本人の問題」（ $\chi^2(1)=7.22^{**}$ ）及び「家庭の問題」（ $\chi^2(1)=25.46^{***}$ ）において有意な差が認められた。

すなわち、「本人の問題」及び「家庭の問題」ともに、母親の方が「あてはまる」と回答した者の比率が有意に高く、母親の方が父親よりも、子供が非行に走った原因を、「本人の問題」及び「家族の問題」ととらえやすいことがうかがわれる。

(2) 子供の非行に関する現在の認識

あなたのお子さんの非行について、次のことがあなたの現在のお考えにどのくらいあてはまると思われますか。（Q4）

- ア 親が変われば子どもも変わってくる
- イ 親子の関係がよい方向に向かっている
- ウ うちの子どもは付き合う相手を間違えやすい
- エ 子どもの非行によって親が気づかされたことがある
- オ 親が思っている以上に子どもは真剣に考えている
- カ いろいろと手をつくしたが、うまくいかないことが多い
- キ これまでの親の生き方を変えていくことが必要と感じている
- ク 子どもの立ち直りの意欲を感じる
- ケ 子どものことで苦勞することが多い

（選択肢）

- 1 とてもあてはまる 2 ややあてはまる 3 あまりあてはまらない
- 4 まったくあてはまらない

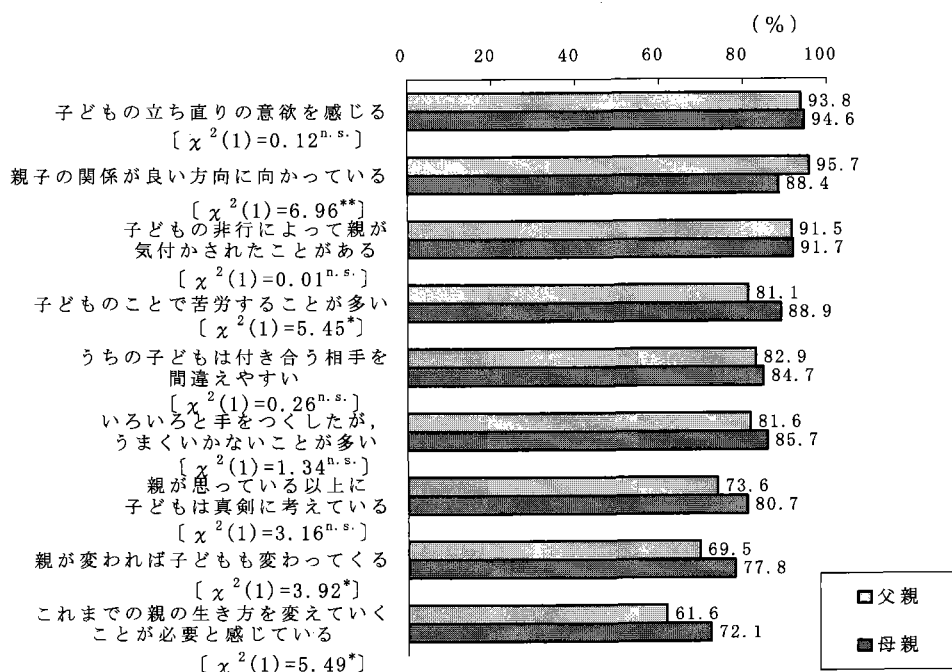
子供の非行に関する現在の認識を、父母別に見ると、図2-2-2のとおりである。

「子どもの立ち直りの意欲を感じる」、「親子の関係がよい方向に向かっている」など、現在の子供の状態を肯定的に見る比率が高かった。

各項目について父母間での考え方の違いを調べるため、選択肢を「あてはまる」及び「あてはまらない」の2カテゴリーに統合し、 χ^2 検定を行った。検定の結果、「親子の関係がよい方向に向かっている」（ $\chi^2(1)=6.96^{**}$ ）、「子どものことで苦勞することが多い」（ $\chi^2(1)=5.45^*$ ）、「親が変われば子どもも変わってくる」（ $\chi^2(1)=3.92^*$ ）、「これまでの親の生き方を変えていくことが必要と感じている」（ $\chi^2(1)=5.49^*$ ）において有意な差が認められた。

すなわち、「子どものことで苦勞することが多い」、「親が変われば子どもも変わってくる」及び「これまでの親の生き方を変えていくことが必要と感じている」では、母親の方が「あてはまる」と回答した者の比率が有意に高く、「親子の関係がよい方向に向かっている」では、父親の方が「あてはまる」と回答した者の比率が有意に高かった。これらのことから、父親の方が、現在の状況を楽観的に見やすく、母親の方が、子供の非行に対し、行き詰まりを感じるとともに、親自身の変化の必要性を強く意識しやすいことがうかがわれる。

図 2-2-2 子供の非行に関する現在の認識



注 1 「とても当てはまる」及び「やや当てはまる」を合計した比率である。

2 無回答を除く。

3 少年院の教育に対する期待・要望

(1) 子供の教育に関する少年院への期待

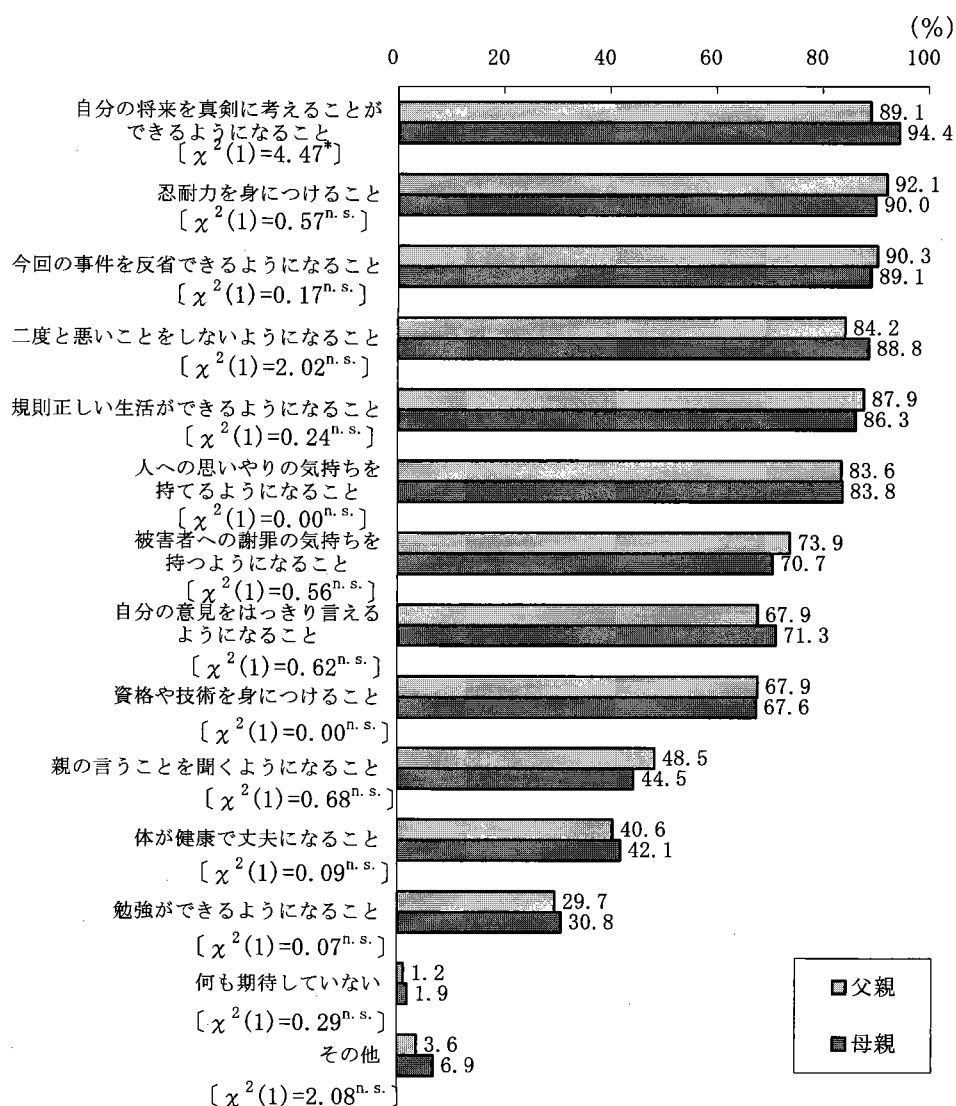
あなたは、お子さんに対する少年院の教育に何を期待していますか。次の中であてはまるものをいくつか選んでください。(Q5)

- 1 今回の事件を反省できるようになること
- 2 規則正しい生活ができるようになること
- 3 資格や技術を身につけること
- 4 自分の将来を真剣に考えることができるようになること
- 5 二度と悪いことをしないようになること
- 6 人への思いやりの気持ちを持てるようになること
- 7 自分の意見をはっきり言えるようになること
- 8 体が健康で丈夫になること
- 9 被害者への謝罪の気持ちを持つようになること
- 10 勉強ができるようになること
- 11 親の言うことを聞くようになること
- 12 忍耐力を身につけること
- 13 その他
- 14 何も期待していない

子供の教育に関する少年院への期待を、父母別に見ると、図 2-3-1 のとおりである。

「自分の将来を真剣に考えることができるようになること」、「忍耐力を身につけること」及び「今回の

図 2-3-1 子供の教育に関する少年院への期待



注 上限のない複数回答である。

事件を反省できるようになること」を、父母ともに、あてはまると選択した者の比率が高かった。

各項目について父母間での考え方の違いを調べるため、項目ごとに、「あてはまると選択した者」及び「あてはまると選択しなかった者」の2カテゴリーに分け、 χ^2 検定を行った。検定の結果、「自分の将来を真剣に考えることができるようになること」($\chi^2(1)=4.47^*$)においてのみ有意な差が認められた。

すなわち、子供の教育に関する少年院への期待に父母間に大きな差はないものの、母親の方が父親よりも、子供が自分の将来を真剣に考えることができるようになることを少年院に強く期待しやすいことがうかがわれる。

(2) 保護者に対する少年院からの働き掛けの要望

あなたご自身は、少年院にどのようなことをしてほしいですか。次の中であてはまるものをいくつかでも選んでください。(Q6)

- 1 どのような教育をしているのか、教育活動を見せてほしい
- 2 できれば教育プログラムや行事などに子どもと一緒に参加させてほしい
- 3 職員から子どもの生活の様子について教えてもらいたい
- 4 被害者の方にどう謝罪すればよいのか相談に乗ってもらいたい
- 5 子どもとの接し方について助言してもらいたい
- 6 家族のことについて相談に乗ってもらいたい
- 7 保護観察のことについて教えてもらいたい
- 8 職員にいろいろと話を聞いてもらいたい
- 9 その他
- 10 特になし

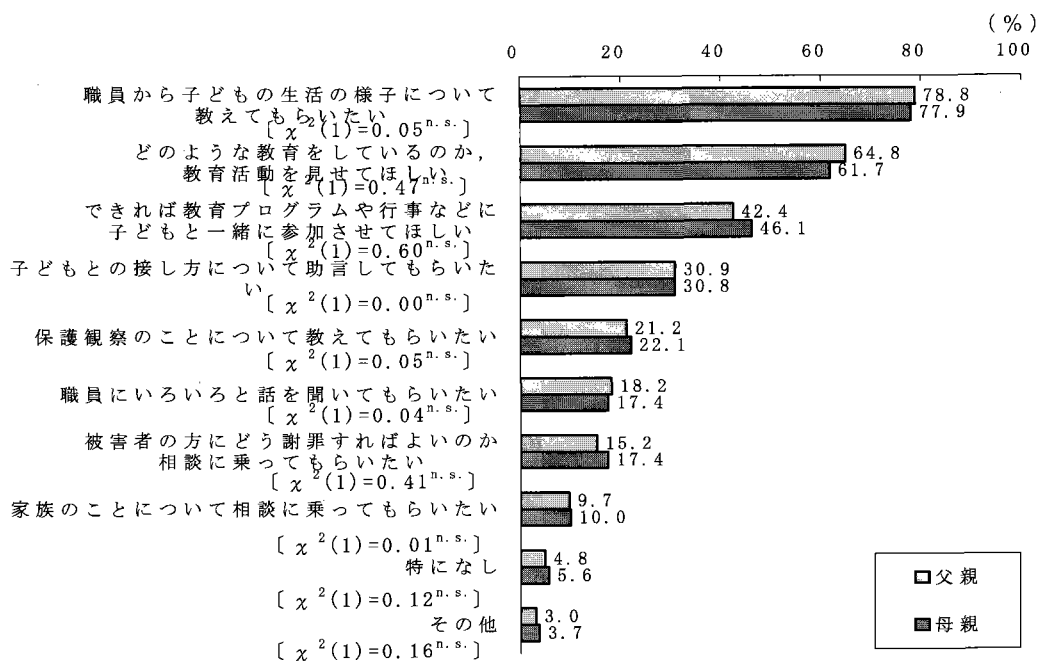
保護者に対する少年院からの働き掛けの要望を、父母別に見ると、図2-3-2のとおりである。

「職員から子どもの生活の様子について教えてもらいたい」、「どのような教育をしているのか、教育活動を見せてほしい」及び「できれば教育プログラムや行事などに子どもと一緒に参加させてほしい」を、父母ともに、あてはまると選択した者の比率が高かった。このことから、父母ともに、子供の様子や少年院の教育内容について理解したいと考えていることがうかがわれる。

各項目について父母間での考え方の違いを調べるため、項目ごとに、「あてはまると選択した者」及び「あてはまると選択しなかった者」の2カテゴリーに分け、 χ^2 検定を行った。検定の結果、有意となった項目は認められなかった。

すなわち、父母間で、保護者に対する少年院からの働き掛けの要望に差はないことがうかがわれる。

図2-3-2 保護者に対する少年院からの働き掛けの要望



注 上限のない複数回答である。

4 出院後の心配な事項

あなたは、お子さんの今後についてどのようなことを心配していますか。次の中であてはまるものをいくつでも選んでください。(Q7)

- | | |
|----------------------------|---------------------|
| 1 地元の人が子どもをどう見るか | 2 学校に通えるか |
| 3 仕事が見つかるか | 4 家族とうまく生活していけるか |
| 5 以前の悪い仲間が誘いに来ないか | 6 遊び中心の生活に戻ってしまわないか |
| 7 被害者の家族にどのように謝罪すればよいか | |
| 8 保護観察官や保護司に子どもを分かってもらえるか | |
| 9 少年院に入ったことで悪く言われないか | |
| 10 警察に捕まるようなことをしてしまうのではないか | |
| 11 まじめな友だちと付き合ってくれるか | 12 その他 |

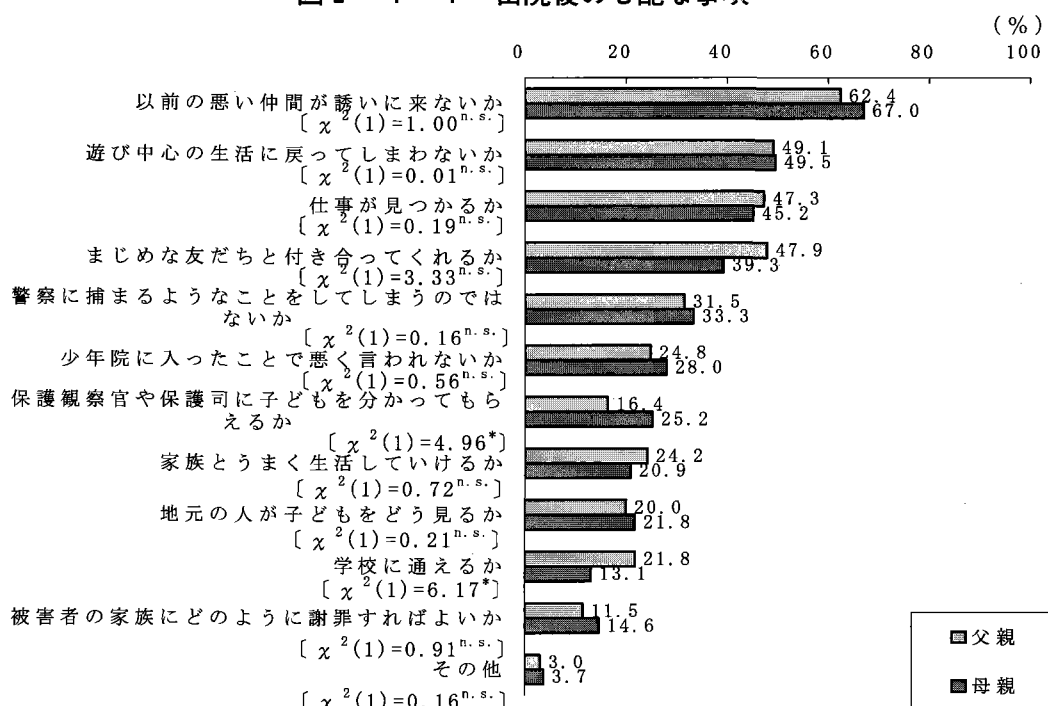
出院後の心配な事項を、父母別に見ると、図2-4-1のとおりである。

心配事項に関し、「以前の悪い仲間が誘いに来ないか」、「遊び中心の生活に戻ってしまわないか」及び「仕事が見つかるか」を、父母ともに、あてはまると選択した者の比率が高かった。

各項目について父母間での考え方の違いを調べるため、項目ごとに、「あてはまると選択した者」及び「あてはまると選択しなかった者」の2カテゴリーに分け、 χ^2 検定を行った。検定の結果、「保護観察官や保護司に子どもをわかてもらえるか」($\chi^2(1)=4.96^*$)及び「学校に通えるか」($\chi^2(1)=6.17^*$)においてのみ有意な差が認められた。

すなわち、「保護観察官や保護司に子どもを分かってもらえるか」では、母親の方があてはまると選択した者の比率が有意に高く、「学校に通えるか」では、父親の方があてはまると選択した者の比率が有意に高かった。これらのことから、母親の方が、出院後の指導者に子供を理解してもらえるかを心配しやすく、父親の方が、出院後も学歴の取得に関心を持ち、その点に不安を抱きやすいことがうかがわれる。

図2-4-1 出院後の心配な事項



第3 調査結果の総合的統計分析

調査結果の基礎的統計分析においては、質問項目ごとに父母ごとの回答比率を比較し、さらに、 χ^2 検定を行い、父母間での意識の違いを探ってきた。以下の総合的統計分析では、非行少年の保護者の意識の実態により深く迫るため、子育ての問題の認識、子供の非行に関する現在の認識、出院後の心配な事項等について、多変量解析を用いた分析を試みる。

具体的な分析目的をまとめると、次のとおりである。

- ① 因子分析によって、子育ての問題の認識、子供の非行に関する現在の認識、子供の教育に関する少年院への期待等の構造がどのようなものであるのかを検討する。
- ② 子供の非行に関する現在の認識と子育ての問題の認識との間にどのような関連があるのか、出院後についてどのような心配事がある者ほど、どのようなことを少年院の教育に期待しているかなどについて、共分散構造分析を用いて検討する。

1 子育ての問題の因子分析

子育ての問題に関する質問(Q2)に対する回答結果に因子分析を行い、子育ての問題を構成している因子を抽出する。

子育ての問題に関する質問では、計8項目について4段階評定で回答することを求めている。それぞれの項目に対する回答について、「そう思う」を4点、「ややそう思う」を3点、「あまりそう思わない」を2点、「まったくそう思わない」を1点とした。各項目の平均値及び標準偏差は、表3-1-1のとおりである。

表3-1-1 子育ての問題に関する基礎統計量

項	目	平均値	標準偏差
Q2-ア	子どもの行動に無関心だった	2.16	0.91
Q2-イ	夫婦の子育ての方針が一致していなかった	2.67	0.92
Q2-ウ	子どもとの会話が少なかった	2.40	0.98
Q2-エ	子どもに口うるさかった	2.84	0.85
Q2-オ	子どもの問題行動に対して「別に悪いことではない」と思っていた	1.79	1.13
Q2-カ	子どもに感情的に手をあげていた	2.23	0.97
Q2-キ	子どもの好きなようにさせていた	2.65	0.77
Q2-ク	子どもに十分な愛情をかけてあげなかった	2.22	0.95

注 無回答は除く。

子育ての問題に関する項目の回答結果に、最尤法・斜交プロマックス回転による因子分析を行い、固有値の減少等を考慮の上、2因子を抽出した。子育ての問題の因子分析結果は、表3-1-2のとおりである。

第1因子では、「子どもの行動に無関心だった」、「子どもとの会話が少なかった」、「子どもに十分な愛情をかけてあげなかった」などが高い因子負荷量を示したことから、「無関心的対応」因子と名づけた。第2因子では、「子どもに口うるさかった」、「子どもに感情的に手をあげていた」などが高い因子負荷量を示したことから、「感情的対応」因子と名づけた。

表 3－1－2 子育ての問題の因子分析結果

項 目	因 子	
	I	II
因子 I：無関心的対応		
Q 2－ア 子どもの行動に無関心だった	0.76	－0.11
Q 2－ウ 子どもとの会話が少なかった	0.56	0.20
Q 2－ク 子どもに十分な愛情をかけてあげなかった	0.50	0.22
Q 2－キ 子どもの好きなようにさせていた	0.48	－0.18
Q 2－イ 夫婦の子育ての方針が一致していなかった	0.32	0.18
Q 2－オ 子どもの問題行動に対して「別に悪いことではない」 とっていた	0.26	－0.10
因子 II：感情的対応		
Q 2－エ 子どもに口うるさかった	－0.19	0.77
Q 2－カ 子どもに感情的に手をあげていた	0.03	0.60
因子間相関		
I	1.00	0.29
II		1.00

注 無回答は除く。

すなわち、非行少年の保護者の子育ての問題認識は、「無関心的対応」及び「感情的対応」の 2 因子から構成されると考えられる。

2 子供の非行に関する現在の認識の因子分析

子供の非行に関する現在の認識についての質問 (Q 4) の回答結果に因子分析を行い、子供の非行に関する現在の認識を構成している因子を抽出する。

子供の非行に関する現在の認識に関する質問では、計 9 項目について 4 段階評定で回答することを求めている。それぞれの項目に対する回答について、「とてもあてはまる」を 4 点、「ややあてはまる」を 3 点、「あまりあてはまらない」を 2 点、「まったくあてはまらない」を 1 点とした。各項目の平均値及び標準偏差は、表 3－2－1 のとおりである。

子供の非行に関する現在の認識に関する項目の回答結果に、最尤法・斜交プロマックス回転による因

表 3－2－1 子供の非行に関する現在の認識に関する基礎統計量

項 目	平 均 値	標準偏差
Q 4－ア 親が変われば子どもも変わってくる	3.07	0.87
Q 4－イ 親子の関係が良い方向に向かっている	3.35	0.69
Q 4－ウ うちの子どもは付き合う相手を間違えやすい	3.20	0.80
Q 4－エ 子どもの非行によって親が気づかされたことがある	3.36	0.66
Q 4－オ 親が思っている以上に子どもは真剣に考えている	3.10	0.79
Q 4－カ いろいろと手をつくしたが、うまくいかないことが多い	3.13	0.76
Q 4－キ これまでの親の生き方を変えていくことが必要と感じている	2.89	0.91
Q 4－ク 子どもの立ち直りの意欲を感じる	3.55	0.63
Q 4－ケ 子どものことで苦労することが多い	3.23	0.75

注 無回答は除く。

子分析を行い、固有値の減少等を考慮の上、3因子を抽出した。子供の非行に関する現在の認識の因子分析結果は、表3-2-2のとおりである。

表3-2-2 子供の非行に関する現在の認識の因子分析結果

項 目	因 子		
	I	II	III
因子I：子供信頼			
Q4-ク 子どもの立ち直りの意欲を感じる	0.77	-0.04	0.03
Q4-イ 親子の関係が良い方向に向かっている	0.71	-0.08	0.01
Q4-オ 親が思っている以上に子どもは真剣に考えている	0.53	0.24	0.00
因子II：親変化の自覚			
Q4-ア 親が変われば子どもも変わってくる	-0.04	0.75	-0.10
Q4-キ これまでの親の生き方を変えていくことが必要と感じている	0.07	0.65	0.12
Q4-エ 子どもの非行によって親が気づかされたことがある	-0.04	0.57	-0.07
因子III：問題の外在化			
Q4-カ いろいろと手をつくしたが、うまくいかないことが多い	-0.02	0.06	0.73
Q4-ケ 子どものことで苦労することが多い	-0.18	0.01	0.55
Q4-ウ うちの子どもは付き合う相手を間違えやすい	0.15	-0.12	0.52
因子間相関	I	II	III
I	1.00	0.21	-0.39
II		1.00	0.20
III			1.00

注 無回答は除く。

第1因子では、「子どもの立ち直りの意欲を感じる」、「親子の関係が良い方向に向かっている」、「親が思っている以上に子どもは真剣に考えている」などが高い因子負荷量を示したことから、「子供信頼」因子と名づけた。第2因子では、「親が変われば子どもも変わってくる」、「これまでの親の生き方を変えていくことが必要と感じる」、「子どもの非行によって親が気づかされたことがある」などが高い因子負荷量を示したことから、「親変化の自覚」因子と名づけた。第3因子では、「いろいろと手をつくしたが、うまくいかないことが多い」、「子どものことで苦労することが多い」、「うちの子どもは付き合う相手を間違えやすい」などが高い因子負荷量を示したことから、「問題の外在化」因子と名づけた。

すなわち、非行少年の保護者の子供の非行に関する現在の認識は、「子供信頼」、「親変化の自覚」及び「問題の外在化」の3因子から構成され则认为られる。

3 子供の教育に関する少年院への期待の因子分析

子供の教育に関する少年院への期待についての項目(Q5)の回答結果に因子分析を加え、子供の教育に関する少年院への期待を構成している因子を抽出する。

子供の教育に関する少年院への期待に関する項目では、計14項目について、あてはまるものを幾つでも選ぶ方式で回答を求めているが、あてはまると選択した比率が低かった「その他」及び「何も期待していない」を除いた計12項目について分析を行っている。それぞれの項目に対する回答について、選択した者を1点、選択しなかった者を0点とした。各項目の平均値及び標準偏差は、表3-3-1のとおりである。

子供の教育に関する少年院への期待に関する項目の回答結果に、最尤法・斜交プロマックス回転による因子分析を行い、固有値の減少等を考慮の上、3因子を抽出した。子供の教育に関する少年院への期待の因子分析結果は、表3-3-2のとおりである。

表 3 - 3 - 1 子供の教育に関する少年院への期待に関する基礎統計量

項 目	平 均 値	標準偏差
Q 5 - 1 今回の事件を反省できるようになること	0.90	0.31
Q 5 - 2 規則正しい生活ができるようになること	0.87	0.34
Q 5 - 3 資格や技術を身につけること	0.68	0.47
Q 5 - 4 自分の将来を真剣に考えることができるようになること	0.93	0.26
Q 5 - 5 二度と悪いことをしないようになること	0.87	0.33
Q 5 - 6 人への思いやりの気持ちを持てるようになること	0.84	0.37
Q 5 - 7 自分の意見をはっきり言えるようになること	0.70	0.46
Q 5 - 8 体が健康で丈夫になること	0.42	0.49
Q 5 - 9 被害者への謝罪の気持ちを持つようになること	0.72	0.45
Q 5 - 10 勉強ができるようになること	0.30	0.46
Q 5 - 11 親の言うことを聞くようになること	0.46	0.50
Q 5 - 12 忍耐力を身につけること	0.91	0.29

注 「何も期待していない」及び「その他」は除く。

表 3 - 3 - 2 子供の教育に関する少年院への期待の因子分析結果

項 目	因 子		
	I	II	III
因子 I：一般的成長			
Q 5 - 10 勉強ができるようになること	0.83	-0.10	-0.05
Q 5 - 8 体が健康で丈夫になること	0.65	0.05	0.00
Q 5 - 11 親の言うことを聞くようになること	0.62	0.03	0.01
Q 5 - 3 資格や技術を身につけること	0.33	0.11	0.09
Q 5 - 7 自分の意見をはっきり言えるようになること	0.26	0.21	0.06
因子 II：生活態度改善			
Q 5 - 2 規則正しい生活ができるようになること	0.06	0.78	-0.14
Q 5 - 4 自分の将来を真剣に考えることができるようになること	-0.04	0.54	0.05
Q 5 - 12 忍耐力を身につけること	-0.04	0.45	0.16
因子 III：非行反省			
Q 5 - 9 被害者への謝罪の気持ちを持つようになること	0.05	-0.12	0.67
Q 5 - 1 今回の事件を反省できるようになること	-0.07	0.05	0.59
Q 5 - 5 二度と悪いことをしないようになること	0.05	0.06	0.52
Q 5 - 6 人への思いやりの気持ちを持てるようになること	0.05	0.23	0.32
因子間相関	I	II	III
I	1.00	0.48	0.54
II		1.00	0.61
III			1.00

注 「何も期待していない」及び「その他」は除く。

第 1 因子では、「勉強ができるようになること」、「体が健康で丈夫になること」、「親の言うことを聞くようになること」などが高い因子負荷量を示したことから、「一般的成長」因子と名づけた。第 2 因子では、「規則正しい生活ができるようになること」、「自分の将来を真剣に考えることができるようになること」、「忍耐力を身につけること」などが高い因子負荷量を示したことから、「生活態度改善」因子と名づけた。第 3 因子では、「被害者への謝罪の気持ちを持つようになること」、「今回の事件を反省できるよう

になること」、「二度と悪いことをしないようになること」などが高い因子負荷量を示したことから、「非行反省」因子と名づけた。

すなわち、非行少年の保護者の子供の教育に関する少年院への期待は、「一般的成長」、「生活態度改善」及び「非行反省」の3因子から構成され则认为られる。

4 保護者に対する少年院からの働き掛けの要望の因子分析

保護者に対する少年院からの働き掛けの要望に関する項目(Q6)の回答結果に因子分析を行い、保護者に対する少年院からの働き掛けの要望を構成している因子を抽出する。

保護者に対する少年院から働き掛けの要望に関する項目では、計10項目について、あてはまるものを幾つでも選ぶ方式で回答を求めているが、あてはまると選択した比率が低かった「その他」及び「特になし」を除いた計8項目に対し分析を行った。それぞれの項目に対する回答について、選択した者を1点、選択しなかった者を0点とした。各項目の平均値及び標準偏差は、表3-4-1のとおりである。

表3-4-1 保護者に対する少年院からの働き掛けの要望に関する基礎統計量

項 目	平均値	標準偏差
Q6-1 どのような教育をしているのか、教育活動を見せてほしい	0.63	0.48
Q6-2 できれば教育プログラムや行事などに子どもと一緒に参加させてほしい	0.45	0.50
Q6-3 職員から子どもの生活の様子について教えてもらいたい	0.78	0.41
Q6-4 被害者の方はどう謝罪すればよいのか相談に乗ってもらいたい	0.17	0.37
Q6-5 子どもとの接し方について助言してもらいたい	0.31	0.46
Q6-6 家族のことについて相談に乗ってもらいたい	0.10	0.30
Q6-7 保護観察のことについて教えてもらいたい	0.22	0.41
Q6-8 職員にいろいろと話を聞いてもらいたい	0.18	0.38

注 「特になし」及び「その他」を除く。

保護者に対する少年院からの働き掛けの要望に関する項目の回答結果に、最尤法・斜交プロマックス回転による因子分析を行い、固有値の減少等を考慮の上、3因子を抽出した。保護者に対する少年院からの働き掛けの要望の因子分析結果は、表3-4-2のとおりである。

第1因子では、「家族のことについて相談に乗ってもらいたい」、「職員にいろいろと話を聞いてもらいたい」、「保護観察のことについて教えてもらいたい」などが高い因子負荷量を示したことから、「親中心の相談要望」因子と名づけた。第2因子では、「どのような教育をしているのか、教育活動を見せてほしい」、「できれば教育プログラムや行事などに子どもと一緒に参加させてほしい」などが高い因子負荷量を示したことから、「教育への参加・見学要望」因子と名づけた。第3因子では、「職員から子どもの生活の様子について教えてもらいたい」、「子どもとの接し方について助言してもらいたい」などが高い因子負荷量を示したことから、「子供中心の相談要望」因子と名づけた。

すなわち、保護者に対する少年院からの働き掛けの要望は、「親中心の相談要望」、「教育への参加・見学要望」及び「子供中心の相談要望」の3因子から構成され则认为られる。

表 3－4－2 保護者に対する少年院からの働き掛けの要望の因子分析結果

項 目	因 子		
	I	II	III
因子Ⅰ：親中心の相談要望			
Q 6－6 家族のことについて相談に乗ってもらいたい	0.59	－0.03	0.02
Q 6－8 職員にいろいろと話を聞いてもらいたい	0.55	0.04	0.01
Q 6－7 保護観察のことについて教えてもらいたい	0.51	0.00	0.11
Q 6－4 被害者の方はどう謝罪すればよいのか相談に乗ってもらいたい	0.47	0.12	－0.26
Q 6－5 子どもとの接し方について助言してもらいたい	0.37	－0.11	0.33
因子Ⅱ：教育への参加・見学要望			
Q 6－1 どのような教育をしているのか、教育活動を見せてほしい	0.01	0.76	0.07
Q 6－2 できれば教育プログラムや行事などに子どもと一緒に参加させてほしい	0.04	0.44	0.06
因子Ⅲ：子供中心の相談要望			
Q 6－3 職員から子どもの生活の様子について教えてもらいたい	－0.07	0.23	0.48
因子間相関	I	II	III
I	1.00	0.27	0.34
II		1.00	0.25
III			1.00

注 「特になし」及び「その他」を除く。

5 出院後の心配な事項の因子分析

出院後の心配な事項に関する項目(Q 7)の回答結果に因子分析を行い、出院後の心配な事項を構成している因子を抽出する。

出院後の心配な事項に関する項目では、計12項目について、あてはまるものを幾つでも選ぶ方式で回答を求めているが、あてはまると選択した比率が低かった「その他」を除いた計11項目に対し分析を行っている。それぞれの質問に対する回答について、選択した者を1点、選択しなかった者を0点とした。各項目の平均値及び標準偏差は、表 3－5－1のとおりである。

出院後の心配な事項に関する項目の回答結果に、最尤法・斜交プロマックス回転による因子分析を行

表 3－5－1 出院後の心配な事項に関する基礎統計量

項 目	平 均 値	標準偏差
Q 7－1 地元の人が子どもをどう見るか	0.21	0.41
Q 7－2 学校に通えるか	0.16	0.37
Q 7－3 仕事が見つかるか	0.46	0.50
Q 7－4 家族とうまく生活していけるか	0.22	0.41
Q 7－5 以前の悪い仲間が誘いに来ないか	0.65	0.48
Q 7－6 遊び中心の生活に戻ってしまわないか	0.49	0.50
Q 7－7 被害者の家族にどのように謝罪すればよいか	0.14	0.34
Q 7－8 保護観察官や保護司に子どもを分かってもらえるか	0.22	0.42
Q 7－9 少年院に入ったことで悪く言われないか	0.27	0.44
Q 7－10 警察に捕まるようなことをしてしまうのではないか	0.33	0.47
Q 7－11 まじめな友だちと付き合ってくれるか	0.42	0.49

注 「その他」を除く。

い、固有値の減少等を考慮の上、2 因子を抽出した。出院後の心配な事項の因子分析結果は、表 3-5-2 のとおりである。

第 1 因子では、「遊び中心の生活に戻ってしまわないか」、「警察に捕まるようなことをしてしまうのではないか」、「家族とうまく生活していけるか」などが高い因子負荷量を示したことから、「再非行不安」因子と名づけた。第 2 因子では、「少年院に入ったことで悪く言われないか」、「地元の人が子どもをどう見るか」、「保護観察官や保護司に子どもを分かってもらえるか」などが高い因子負荷量を示したことから、「受入不安」因子と名づけた。

すなわち、出院後の心配な事項は、「再非行不安」及び「受入不安」の 2 因子から構成されると考えられる。

表 3-5-2 出院後の心配な事項の因子分析結果

項 目	因 子	
	I	II
因子 I：再非行不安		
Q 7-6 遊び中心の生活に戻ってしまわないか	0.69	-0.13
Q 7-10 警察に捕まるようなことをしてしまうのではないか	0.59	-0.03
Q 7-3 仕事が見つかるか	0.47	0.08
Q 7-4 家族とうまく生活していけるか	0.46	0.13
Q 7-11 まじめな友だちと付き合ってくれるか	0.44	0.01
Q 7-5 以前の悪い仲間が誘いに来ないか	0.39	0.10
因子 II：受入不安		
Q 7-9 少年院に入ったことで悪く言われないか	-0.02	0.75
Q 7-1 地元の人が子どもをどう見るか	0.00	0.69
Q 7-8 保護観察官や保護司に子どもを分かってもらえるか	0.10	0.42
Q 7-2 学校に通えるか	-0.04	0.38
Q 7-7 被害者の家族にどのように謝罪すればよいか	0.05	0.26
因子間相関	I	II
I	1.00	0.40
II		1.00

注 「その他」を除く。

6 共分散構造分析による保護者の意識の検討

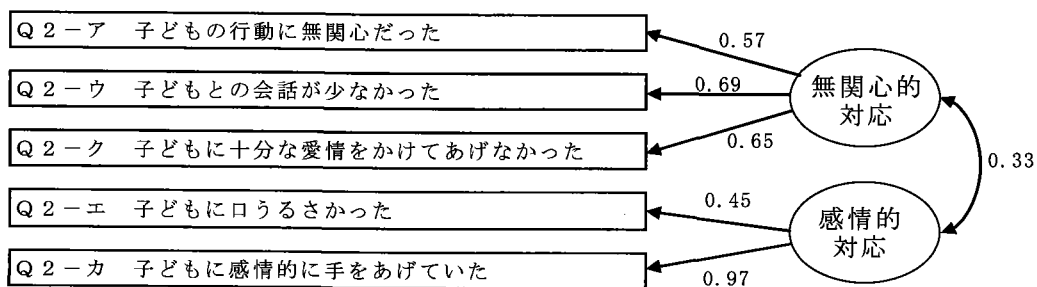
(1) モデル構成

子育ての問題、子供の非行に関する現在の認識、子供の教育に関する少年院への期待、保護者に対する少年院からの働き掛けの要望及び出院後の心配な事項ごとに、潜在変数及び観測変数を設定し、その適合度について検討する。共分散構造分析においては、統計パッケージソフト SPSS の Amos4.0 を用いた。

子育ての問題に関するモデルの構成では、因子分析で因子負荷量が高かった項目の中から各因子 2 又は 3 項目ずつを観測変数として構成した。子育ての問題に関するモデル図及び分析結果は、図 3-6-1 のとおりである。

各適合度指標の値は、適合度指標 (GFI) = .984, 修正適合度指標 (AGFI) = .938, 比較適合度指標 (CFI) = .955, 平均二乗誤差平方根 (RMSEA) = .093 であり、モデルがデータを説明していると判断した。無関心的対応と感情的対応の相関係数は、.33 でやや弱い正の相関があった。

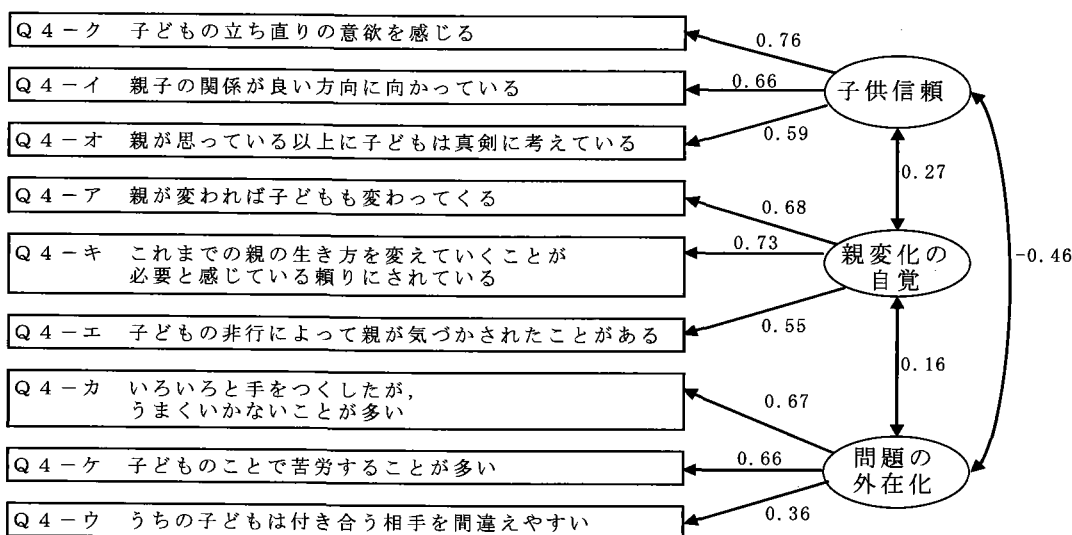
図 3-6-1 子育ての問題に関するモデル図及び分析結果



注 1 各適合度指標の値は、GFI=0.984, AGFI=0.938, CFI=0.955, RMSEA=0.093である。
2 分析数は432人である。

子供の非行に関する現在の認識に関するモデルの構成では、因子分析で因子負荷量が高かった項目の中から各因子3項目ずつを観測変数として構成した。子供の非行に関する現在の認識のモデル図及び分析結果は、図 3-6-2 のとおりである。

図 3-6-2 子供の非行に関する現在の認識に関するモデル図及び分析結果



注 1 各適合度指標の値は、GFI=0.962, AGFI=0.929, CFI=0.925, RMSEA=0.072である。
2 分析数は432人である。

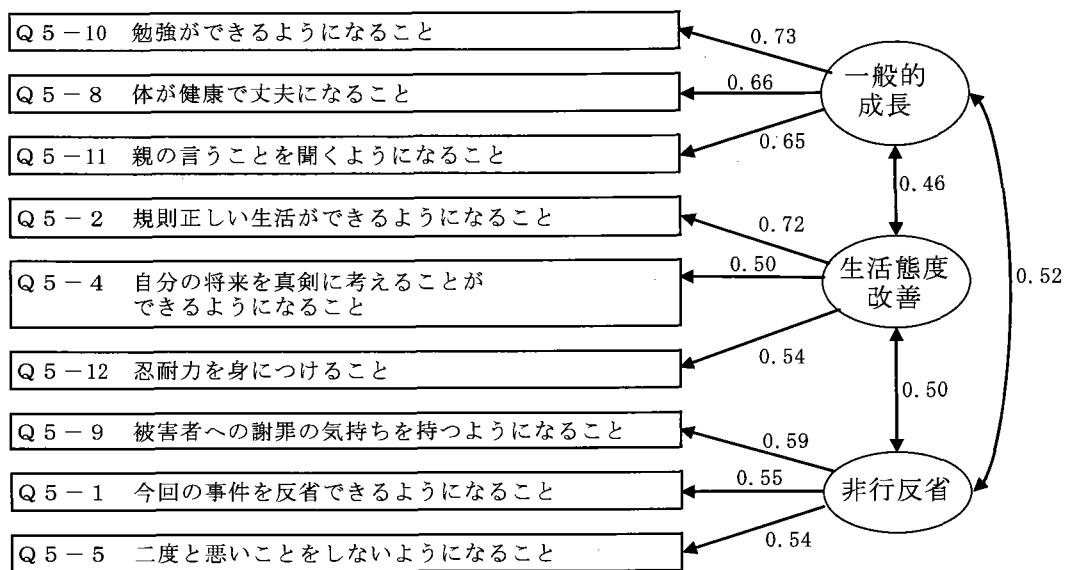
各適合度指標の値は、GFI=.962, AGFI=.929, CFI=.925, RMSEA=.072であり、モデルがデータを説明していると判断した。子供信頼と親変化の自覚の相関係数が.27, 親変化の自覚と問題の外在化の相関係数が.16, 問題の外在化と子供信頼の相関係数は負の相関でやや高く、-.46であった。

子供の教育に関する少年院への期待に関するモデルの構成では、因子分析で因子負荷量が高かった項目の中から各因子3項目ずつを観測変数として構成した。子供の教育に関する少年院への期待のモデル図及び分析結果は、図 3-6-3 のとおりである。

各適合度指標の値は、GFI=.985, AGFI=.971, CFI=.987, RMSEA=.028であり、モデルが十分にデータを説明していると判断した。一般的成長と生活態度改善の相関係数がやや高く、.46, 生活態度改善と非行反省の相関係数がやや高く、.50, 非行反省と一般的成長の相関係数もやや高く、.52であった。三つの潜在変数は密接な関連があることがうかがわれる。

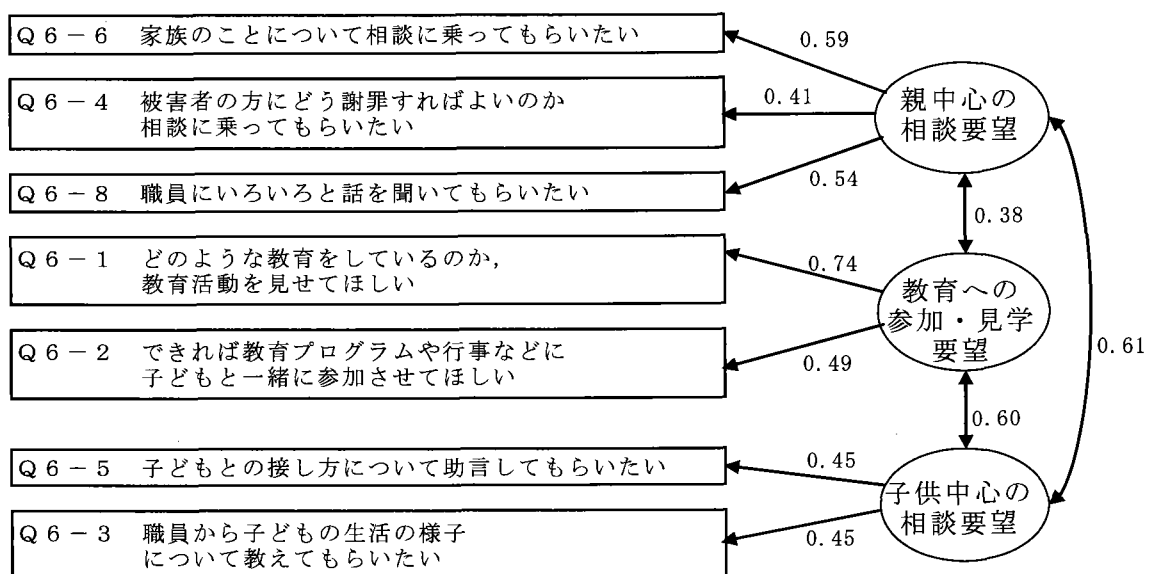
保護者に対する少年院からの働き掛けの要望に関するモデルの構成では、因子分析で因子負荷量が高かった項目の中から各因子2又は3項目ずつを観測変数として構成した。保護者に対する少年院からの働き掛けの要望のモデル図及び分析結果は、図 3-6-4 のとおりである。

図 3-6-3 子供の教育に関する少年院への期待に関するモデル図及び分析結果



注 1 各適合度指標の値は、GFI=0.985, AGFI=0.971, CFI=0.987, RMSEA=0.028である。
2 分析数は432人である。

図 3-6-4 保護者に対する少年院からの働き掛けの要望に関するモデル図及び分析結果



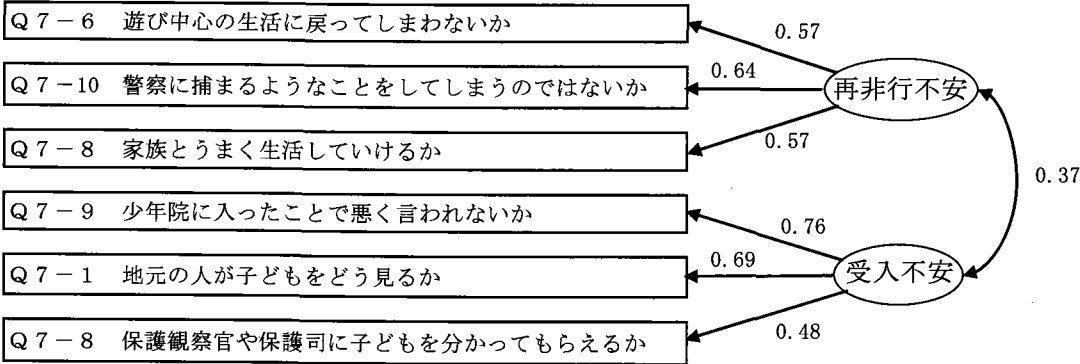
注 1 各適合度指標の値は、GFI=0.971, AGFI=0.926, CFI=0.864, RMSEA=0.086である。
2 分析数は432人である。

各適合度指標の値は、GFI=.971, AGFI=.926, CFI=.864, RMSEA=.086であり、モデルがデータを説明していると判断した。親中心の相談要望と教育への参加・見学要望の相関係数が.38, 教育への参加・見学要望と子供中心の相談要望の相関係数がやや高く,.60, 子供中心の相談要望と親中心の相談要望の相関係数もやや高く,.61であった。

出院後の心配な事項に関するモデルの構成では、因子分析で因子負荷量が高かった項目の中から各因子3項目ずつを観測変数として構成した。出院後の心配な事項のモデル図及び分析結果は、図 3-6-5 のとおりである。

各適合度指標の値は、GFI=.983、AGFI=.956、CFI=.964、RMSEA=.064であり、モデルがデータを説明していると判断した。再犯不安と受入不安の相関係数が.37であった。

図 3 - 6 - 5 出院後の心配な事項に関するモデル図及び分析結果



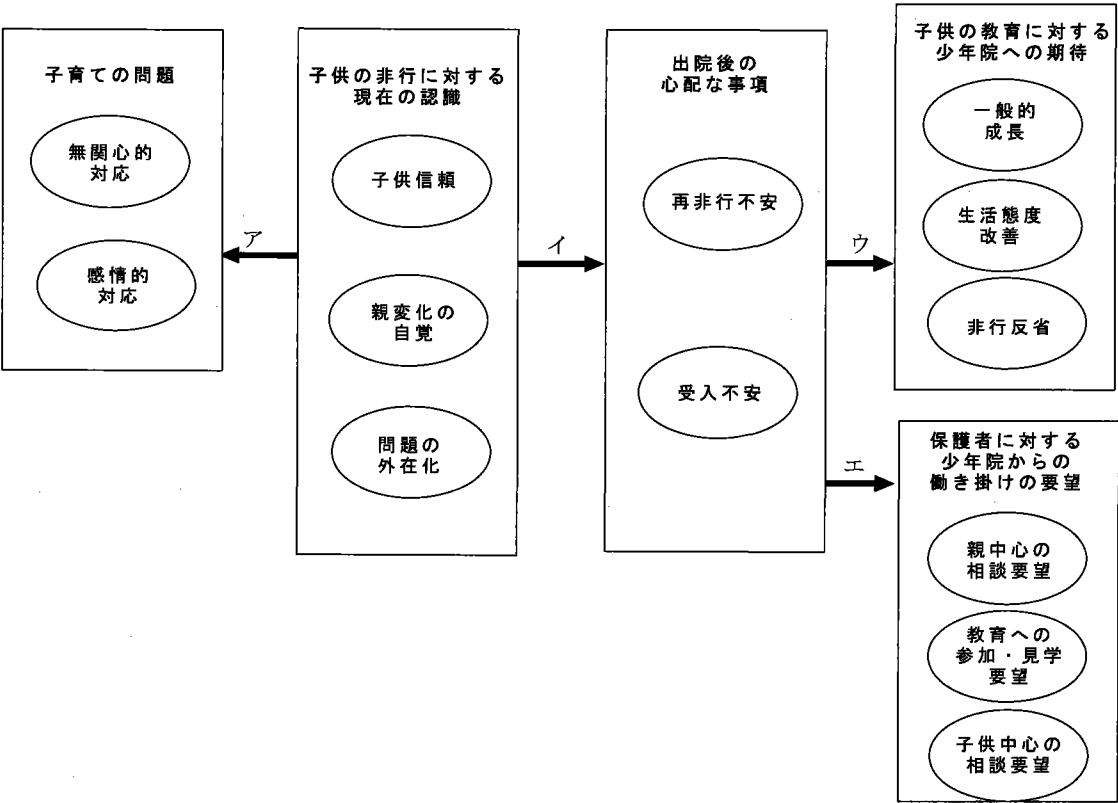
注 1 各適合度指標の値は、GFI=0.983、AGFI=0.956、CFI=0.964、RMSEA=0.064である。
2 分析数は432人である。

(2) 共分散構造分析による各変数間の関連

今回調査した保護者の様々な意識の関連を包括的に検討するため、共分散構造分析を用いた分析を試みる。因子分析で抽出した子育ての問題、子供の非行に関する現在の認識、子供の教育に関する少年院への期待、保護者に対する少年院からの働き掛けの要望及び出院後の心配な事項の各因子がどのように関連するかを探る。分析項目は以下の4項目であり、分析の概要は、図 3 - 6 - 6 のとおりである。

- ア 子供の非行に関する現在の認識と子育ての問題のとらえ方との関連
- イ 子供の非行に関する現在の認識と出院後の心配な事項との関連

図 3 - 6 - 6 分析の概要



- ウ 出院後の心配な事項と子供の教育に関する少年院への期待との関連
- エ 出院後の心配な事項と保護者に対する少年院からの働き掛けの要望との関連
- ア 子供の非行に関する現在の認識と子育ての問題のとりえ方との関連

現在の子供の非行に関する認識によって、過去の子育ての認識も異なるのかについて検討する。モデル図及び分析結果は、図 3 - 6 - 7 のとおりである。

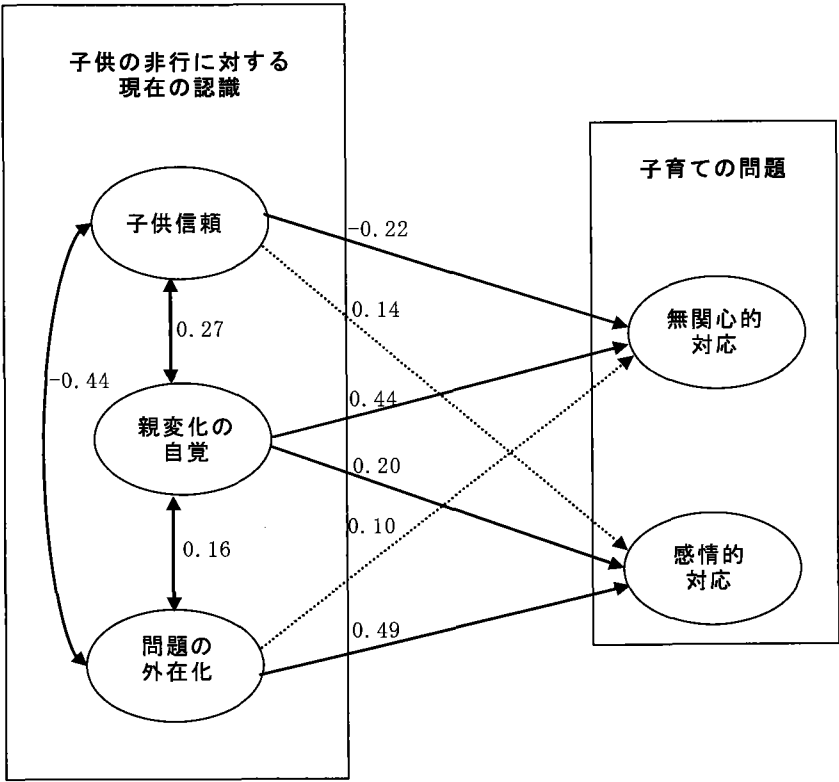
各適合度指標の値は、GFI=.949, AGFI=.921, CFI=.912, RMSEA=.059であり、モデルがデータを説明していると判断した。

変数間の関係を見ていくと、まず、子供信頼から無関心的対応へのパスは、-.22であり、感情的対応へのパスは、有意ではなかった。すなわち、子供の立ち直りを信頼している親ほど、無関心的に子育てをしていたのではないと認識しやすいことがうかがわれる。

次に、親変化の自覚から無関心的対応へのパスは、.44であり、感情的対応へのパスは、.20であった。すなわち、親自身が変わらなければと考えている親ほど、無関心的及び感情的に子育てをしていたと自らの子育ての問題をより多く認識しやすいことがうかがわれる。

最後に、問題の外在化から無関心的対応へのパスは有意ではなく、感情的対応へのパスは、.49であった。すなわち、子供の教育に対し行き詰まりを感じている親ほど、子育てにおける感情的対応が問題であったと認識しやすいということがうかがわれる。

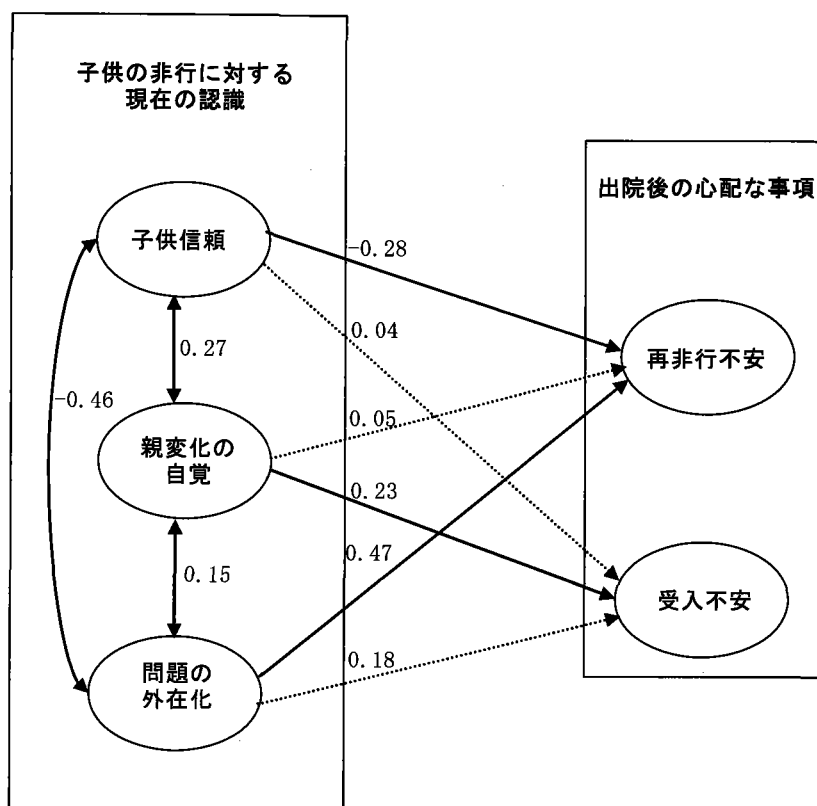
図 3 - 6 - 7 子供の非行に関する現在の認識と子育ての問題のとりえ方との関連



注 1 各適合度指標の値は、GFI=0.949, AGFI=0.921, CFI=0.912, RMSEA=0.059である。
2 分析数は432人である。
3 「子供信頼」から「感情的対応」及び「問題の外在化」から「無関心的対応」への波線はパス係数が有意でないことを示す。

- イ 子供の非行に関する現在の認識と出院後の心配な事項との関連
- 現在の子供の非行に関する認識によって、出院後の心配な事項の認識も異なるのかについて検討する。

図 3 - 6 - 8 子供の非行に関する現在の認識と出院後の心配な事項との関連



- 注 1 各適合度指標の値は、GFI=0.951, AGFI=0.928, CFI=0.931, RMSEA=0.049である。
 2 分析数は432人である。
 3 「子供信頼」から「受入不安」、「親変化の自覚」から「再非行不安」及び「問題の外在化」から「受入不安」への波線はパス係数が有意でないことを示す。

モデル図及び分析結果は、図 3 - 6 - 8 のとおりである。

各適合度指標の値は、GFI=.951, AGFI=.928, CFI=.931, RMSEA=.049であり、モデルがデータを十分説明していると判断した。

変数間の具体的な関係を見ていくと、まず、子供信頼から再非行不安へのパスは、-.28であり、受入不安へのパスは有意ではなかった。すなわち、子供を信頼している親ほど、子供が出院後に再非行をするのではとの不安を抱きにくいことがうかがわれる。

次に、親変化の自覚から再非行不安へのパスは有意ではなく、受入不安へのパスは.23であった。すなわち、親自身が変わらなければと考えている親ほど、子供が出院後に社会にきちんと受け入れられるかとの不安を抱きやすいことがうかがわれる。

最後に、問題の外在化から再非行不安へのパスは.47であり、受入不安へのパスは有意ではなかった。すなわち、子供の教育に対し行き詰まりを感じている親ほど、社会が受け入れてくれるかということよりも、子供が再非行をしないかということを心配しやすいことがうかがわれる。

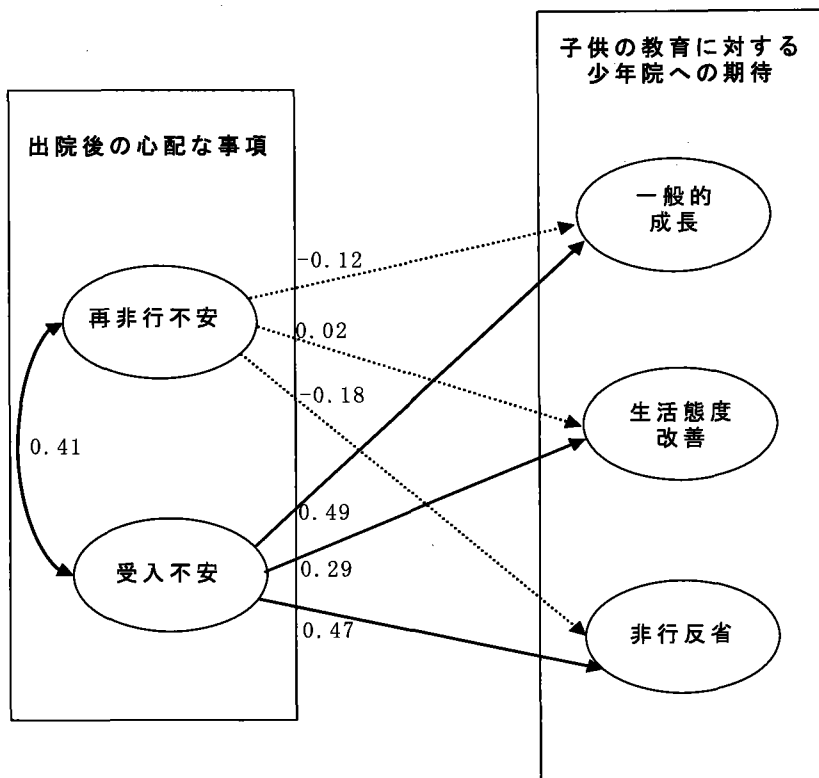
ウ 出院後の心配な事項と子供の教育に関する少年院への期待との関連

出院後の心配な事項に対する認識によって、子供の教育に関する少年院への期待の認識も異なるのかについて検討する。モデル図及び分析結果は、図 3 - 6 - 9 のとおりである。

各適合度指標の値は、GFI=.931, AGFI=.900, CFI=.868, RMSEA=.063であり、モデルがデータを説明していると判断した。

変数間の具体的な関係を見ていくと、まず、再非行不安からのパスは、一般的成長、生活態度改善及

図 3 - 6 - 9 出院後の心配な事項と子供の教育に対する少年院への期待との関連



- 注 1 各適合度指標の値は、GFI=0.931, AGFI=0.900, CFI=0.868, RMSEA=0.063である。
 2 分析数は432人である。
 3 「再非行不安」から「一般的成長」, 「再非行不安」から「生活態度改善」及び「再非行不安」から「非行反省」への波線はパス係数が有意でないことを示す。

び非行反省のすべてに対し有意ではなかった。つまり、子供が再非行をするかしないかの心配の程度と子供の教育に関する少年院への期待との間には関連はないことがうかがわれる。

次に、受入不安から一般的成長へのパスは、.49、生活態度改善へのパスは、.29、非行反省へのパスは、.47で、いずれも有意であった。すなわち、社会が子供を受け入れてくれるかを心配している親ほど、少年院の教育に対して多くを期待していることがうかがわれる。

エ 出院後の心配な事項と保護者に対する少年院からの働き掛けの要望との関連

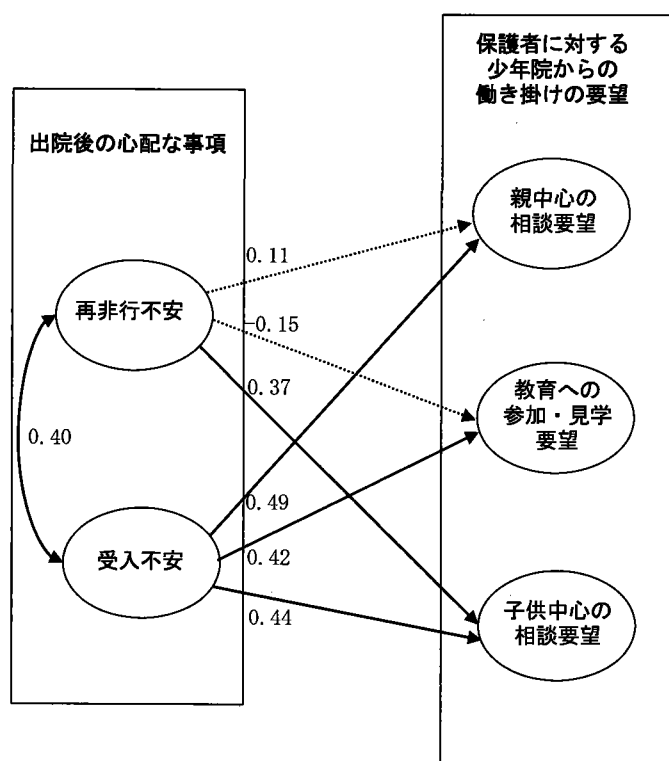
出院後の心配な事項に対する認識によって、保護者に対する少年院からの働き掛けの要望も異なるのかについて検討する。モデル図及び分析結果は、図 3 - 6 - 10のとおりである。

各適合度指標の値は、GFI=.940, AGFI=.905, CFI=.842, RMSEA=.070であり、モデルがデータを説明していると判断した。

変数間の具体的な関係をみていくと、まず、再非行不安からのパスは、親中心の相談要望及び教育への参加・見学要望に対しては有意ではなかったが、子供中心の相談要望に対するパスは、.37であった。すなわち、子供の再非行を心配している親ほど、少年院に対し子供に関する相談をしたいと考えていることがうかがわれる。

次に、受入不安から親中心の相談要望へのパスは、.49、教育への参加・見学要望へのパスは、.42、子供中心の相談要望へのパスは、.44であった。すなわち、社会が子供を受け入れてくれるかを心配している親ほど、少年院に対し、子供に関する相談だけでなく、少年院の活動を見学したり、参加したり、親自身の相談もしたいと考えていることがうかがわれる。

図 3 - 6 - 10 出院後の心配な事項と保護者に対する少年院からの働き掛けの要望との関連



- 注 1 各適合度指標の値は、GFI=0.940、AGFI=0.905、CFI=0.842、RMSEA=0.070である。
 2 分析数は432人である。
 3 「再非行不安」から「親中心の相談要望」及び「再非行不安」から「教育への参加・見学要望」への波線は、パス係数が有意でないことを示す。

7 総合的共分散構造分析による検討のまとめ

総合的統計分析では、子育ての問題の認識、子供の非行に関する現在の認識、子供の教育に関する少年院への期待等の構造がどのようなものであるのかを因子分析によって検討するとともに、子供の非行に関する現在の認識と子育ての問題の認識との間にどのような関連があるのか、出院後についてどのような心配事がある者ほど、どのようなことを少年院の教育に期待しているかなどについて、共分散構造分析を用いて検討した。その結果をまとめると、以下のとおりである。

- (1) 各質問の回答結果に対する因子分析によって、①非行少年の保護者の子育ての問題認識としては、無関心的対応と感情的対応の2因子を、②非行少年の保護者の子供の非行に関する現在の認識としては、子供信頼、親変化の自覚及び問題の外在化という3因子を、③非行少年の保護者の子供の教育に関する少年院への期待としては、一般的成長、生活態度改善及び非行反省の3因子を、④保護者に対する少年院からの働き掛けの要望としては、親中心の相談要望、教育への参加・見学要望及び子供中心の相談要望の3因子を、⑤出院後の心配な事項としては、再非行不安及び受入不安の2因子を抽出できた。
- (2) 今回調査した保護者の様々な意識の関連を包括的に検討するため、共分散構造分析を用いて、因子分析で抽出した子育ての問題、子供の非行に関する現在の認識、子供の教育に関する少年院への期待、保護者に対する少年院からの働き掛けの要望及び出院後の心配な事項の各因子が、それぞれどのように関連するかを見たところ、以下のような知見が得られた。
 - ① 子供の非行に関する現在の認識と子育ての問題のとらえ方との関連では、子供の立ち直りを信頼している親ほど、関心を持って子育てをしていたと認識しやすいこと、親自身が変わらなければと

考えている親ほど、無関心的及び感情的に子育てをしていたと自らの子育ての問題をより多く認識しやすいこと、子供の教育に関し行き詰まりを感じている親ほど、子育てにおける感情的対応が問題であったと認識しやすいということなどがわかれた。

- ② 子供の非行に関する現在の認識と出院後の心配な事項との関連では、子供を信頼している親ほど、子供が出院後に再非行をするのではとの不安を抱いていないこと、親自身が変わらなければと考えている親ほど、子供が出院後に社会にきちんと受け入れられるかとの不安を抱きやすいこと、子供の教育に対し行き詰まりを感じている親ほど、子供が再非行をしないかということを心配しやすいことがわかれた。
- ③ 出院後の心配な事項と子供の教育に関する少年院への期待との関連では、子供が再非行をするかしないかの心配の程度と子供の教育に関する少年院への期待との間には関連はないこと、社会が子供を受け入れてくれるかを心配している親ほど、少年院の教育に関して多くを期待していることがわかれた。
- ④ 出院後の心配な事項と保護者に対する少年院からの働き掛けの要望への影響では、子供の再非行を心配している親ほど、少年院に対し子供に関する相談をしたいと考えていること、社会が子供を受け入れてくれるかを心配している親ほど、少年院に対し、子供に関する相談だけでなく、少年院の活動を見学したり、参加したり、親自身の相談もしたいと考えていることがわかれた。

第4 まとめ

基礎的統計分析及び総合的統計分析において見てきたとおり、非行少年の保護者には、多くの特徴的な点が認められた。ここで、その点についてまとめ、若干の考察を行いたい。

- (1) 子育てでは、「誰とでも仲良くできること」、「社会のルールを身につけること」など、多くのことを大切と考えてきたとほとんどの親が回答していた。ただし、子供には多くのことを期待する一方で、子供の手本になる生き方を大切と考えてきたとする親の比率はやや低かった。また、子育ての問題としては、「子どもに口うるさかった」、「夫婦の子育ての方針が一致していなかった」、「子どもの好きなようにさせていた」ことをあげる親が多かった。

子供の非行原因については、「本人の問題」とする親が最も多く、次いで、「友人の問題」、「家庭の問題」の順であった。非行原因を子供本人の自覚の問題や付き合っている友人の問題と認識する親が多く、それらと比較すると、家庭の問題と子供の非行を結び付けて考えようとする親はやや少なかった。

子供の非行に関する現在の認識では、「子どもの立ち直りの意欲を感じる」、「親子の関係がよい方向に向かっている」など、現在の子供の状態を肯定的に見る比率が高かった。

子供の教育に関する少年院への期待では、「自分の将来を真剣に考えることができるようになること」、「忍耐力を身につけること」及び「今回の事件を反省できるようになること」の比率が高かった。また、保護者に対する少年院からの働き掛けの要望として、「教育活動を見せてほしい」、「教育プログラムや行事などに子どもと一緒に参加させてほしい」などの比率が高かった。

出院後の心配な事項としては、「以前の悪い仲間が誘いに来ないか」、「遊び中心の生活に戻ってしまわないか」、「仕事が見つかるか」などの比率が高く、不良交友や生活の崩れからの再非行を懸念していることがうかがわれる。

- (2) 非行少年の父親と母親との間には、多くの点で認識に相違が認められた。父親の方が、子育てに対する関心の乏しさが問題であったと認識している比率が高かったのに対し、母親の方は、家庭の問題が非行原因と考える比率が高く、特に過干渉的な子育てが問題であったと認識している比率が高かった。子供の将来や親子関係についても、父親の方が、今後を楽観的に見ているのに対し、母親の方は、指導の行き詰まりや親自身の変化の必要性を感じている比率が高かった。

こうした父母の認識の違いによって、父母間の葛藤が生じて家族の情緒的交流が失われたり、父母間で子供の非行の責任を押しつけ合ったり、一貫性のある毅然とした対応を子供にとれなくなっていることも考えられる。他方、少年も親のちぐはぐな対応によって、混乱したり、心情的に不安定となっており、非行に走る場合もあると思われる。

- (3) 調査結果の総合的統計分析では、子供の非行に関する現在の認識によって、親の認識のタイプを「問題の外在化」（子供の非行への対応に行き詰まり、交友関係の悪さなど非行原因を外部に帰属させようとの認識）、「親変化の自覚」（非行の立ち直りのためには親自身が変わることが必要との認識）、「子供信頼」（子供が必ず非行から立ち直るとの認識）の三つに分けて考えることによって、様々な特徴が浮かび上がった。

- ① 「問題の外在化」タイプの親は、子育てにおいて、感情的な対応が問題であったと認識しやすく、少年院出院後にまた子供が再非行をするのではないかと不安も強く抱いているだけに、少年院に対し、子供に関する相談をしたいと考えていることがうかがわれる。

- ② 「親変化の自覚」タイプの親は、無関心的及び感情的に子育てをしてきたと自らの養育上の問題をより多く認識しやすく、少年院出院後に社会から子供が受け入れられるかという不安を抱きやすいだけに、少年院に対しても子供に関する相談だけでなく、少年院の活動を見学したり、参加したり、親自身の相談もしたいと考えるなど多くを期待していることがうかがわれる。
- ③ 「子供信頼」タイプの親は、子供に十分な関心を持って子育てをしてきたと認識しやすく、少年院出院後の再非行の心配もしていないだけに、少年院からの保護者に対する働き掛けについてもほとんど要望を持っていないことがうかがわれる。
- (4) こうした親のタイプごとの特徴を踏まえて、非行少年の保護者に対する働き掛けにおける留意点について、考察を行う。
- ① 「問題の外在化」タイプの親は、これまでの子供への対応が感情的であったことに気付いてはいるものの、いろいろ手を尽くしたが結局うまくいかず、また再非行をするのではないかという子供に対する不信感も強い。こうした親に対しては、心情的に不安定になっているだけに、指導者の側が親の気持ちを受け入れ、支えることがまず大切になる。その上で、これまでの子供に対する接し方、親自身の生き方を冷静に振り返らせ、親自身がどのように変わればよいのか、親としてどのような対応をしていけばよいのかなどを具体的に見いださせていくことが必要である。しばしば子供や指導者に対しても不信感を強めやすいだけに、徐々に信頼関係を築いていくような対応が望まれる。
- ② 「親変化の自覚」タイプの親は、子供の非行原因として親の問題が多くあったことに気付いており、子供の立ち直りのために親自身が変化し、主体的に子供にかかわっていかなければならないと感じている。ただし、具体的な対処方法等を見だしておらず、自信もないだけに、指導者に対して多くを期待し、依存的にもなっていることがうかがわれる。したがって、このような親に対しては、これまでの親としての苦労や親自身が変わっていこうとしている姿勢を評価することによって、自信を持って子供に対応していけるようにさせる必要がある。また、周囲からの働き掛けを受け入れていこうという姿勢は持っていることから、様々な機会を多く設定して、子供に対する具体的な対処方法を学ばせていきたい。
- ③ 「子供信頼」タイプの親は、子供を信頼し、再非行もないだろうと楽観視しやすい。実際に、子供が心から事件を反省し、非行から立ち直る決心をしているのであれば、それを信じ、親として支える姿勢は間違いではないであろう。ただし、自らの子育ての問題を認めようとせず、子供の問題を見ようとしないのであれば、周囲から働き掛けを行うべきことは多いタイプといえよう。このタイプの親の場合、単に周囲から親の問題の指摘をしても、周囲からの働き掛けは必要ないと考えているだけに、はねつけられるおそれが高い。むしろ、子供への働き掛けを優先的にを行い、その過程での子供の変化、親に対する感情等を親に伝えていくことによって、子供が実際に家庭の中でどのようなことを感じ、考えていたのかに気付かせ、親の一方的な思い込みがあれば、客観的な見方ができるように促していく必要がある。
- (5) 少年院や保護観察所においては、既に保護者会や保護者のためのグループワーク等、家族関係調整のための取組の強化に努めている。保護者へのこうした働き掛けの中で、子供に対する親の責任や親自身の態度変化の重要性等に気付かせ、親の自発的対応を促す契機としている。こうした教育・処遇を一層充実させ、工夫していくことによって、保護者が子供を適切に受容し、親としての責任を自覚することが、非行少年にとっても、親との和解を果たし、家庭から巣立っていくために不可欠であると考えられる。

少年院教官から見た最近の非行少年

目 次

第1 調査の実施概要 85

1 調査の目的 85

2 調査実施方法 85

 (1) 質問項目 85

 (2) 調査方法 85

3 分析対象者 86

第2 調査結果の基礎的統計分析 87

1 最近の非行少年の資質面の問題 87

2 最近の非行少年の規範意識面の問題 88

3 最近の非行少年の交友関係面の問題 89

4 最近の非行少年の社会関係面の問題 90

5 保護者の指導力の問題 91

6 家族関係の問題 92

7 困難化している問題 93

8 最近の非行少年は変化したか 94

9 処遇困難な非行少年が増えたか 95

10 指導力に問題のある保護者が増えたか 96

第3 調査結果の総合的統計分析 98

1 非行少年の問題性の変化に関する認識 98

2 非行少年の保護者の指導力の変化に対する認識 101

3 非行少年の家族関係の問題の変化に対する認識 102

第4 まとめ 104

1 最近の非行少年の特質に関する法務教官の認識 104

 (1) 非行少年の問題性の変化 104

 (2) 保護者の指導力及び家族関係の問題 105

2 最近の非行少年に対する処遇上の留意点 105

 (1) 人の痛みに対する共感性を育てる処遇 105

 (2) 集団場面を活用した処遇 106

 (3) 保護者の自発的対応を促す働き掛け 106

第1 調査の実施概要

1 調査の目的

この調査は、最近の非行少年の質的变化及び処遇の困難化について分析するための一環として、少年院に勤務している法務教官が最近の少年院入院者をどのように認識しているかを把握するために実施した。

我が国においては、非行少年の特質に関する認識を調査したものとして、内閣府の研究がある⁹。この研究は、一般の人の非行や非行少年等に関する認識等を調査したものであり、本調査とは調査対象者が異なっている。その点、本調査と同様に、少年院教官の認識を調査・分析した研究としては、保木ら(2004)の研究がある¹⁰。保木らは、非行少年に関する一般の人と少年院教官の見方とを比較検討し、少年院教官が一般の人よりも、集団非行の増加や友人への安易な同調傾向、ささいなことで腹を立てること、家庭環境の問題といった点を問題視する傾向があると述べている。ただし、最近の非行少年のどのような質的側面が変化し、処遇上の困難をもたらしているかについての分析はあまり行われていない。また、保護司を対象とした調査もあり¹¹、この中では部分的に保護観察対象者自身やその保護者の困った行動等について分析されているものの、主には保護司の職務内容等について調査することを目的としたものである。

そこで、本調査では、少年院教官が最近の非行少年の資質面、家族関係面等の質的变化及び処遇の困難化について、どのように認識しているかを調査することを目的とした。非行少年の質的变化や処遇の困難化に関する分析としては、処遇困難事例の分析等、様々なアプローチが考えられるが、日々、非行少年と行動を共にし、その改善・更生に取り組んでいる少年院教官が、最も生々しく、最近の非行少年の質的变化及び処遇の困難化を実感しているものと考えた。

なお、本調査の結果の概要については、平成17年版白書に掲載した。

2 調査実施方法

(1) 質問項目

質問項目は13項目である。Q1からQ3までは、それぞれ、調査対象者の性別、勤務年数、勤務施設の種類の調査するものであり、Q4からQ13までが最近の非行少年等に関する意識調査である。

意識調査のQ4からQ9は、調査対象者の勤務経験上、最近の非行少年の処遇において、以前より大きくなっていると感じる問題について、資質面(Q4)、規範意識面(Q5)、交友関係面(Q6)、学校・職場・地域社会との関係(Q7)、親の指導力(Q8)、家族関係(Q9)の各側面から質問を行った。Q10は、以上の問題点の中で最も処遇が難しくなっている点について質問し、Q11からは、非行少年の問題の中身の変化(Q11)、処遇困難な非行少年の増加(Q12)、指導力に問題のある保護者の増加(Q13)について質問した。

(2) 調査方法

調査対象庁は、全国の少年院53庁のうち、処遇区分や処遇課程等のバランスを見ながら、男子少年院

9 内閣府大臣官房政府広報室「少年非行等に関する世論調査(世論調査報告書平成17年1月調査)」, 2005

10 保木正和ほか「法務教官から見た現代の非行少年像に関する研究」, 財団法人矯正協会附属中央研究所紀要第14号, 2005, 211-254

11 西川正和ほか「保護司の活動実態と意識に関する調査」, 法務総合研究所研究部報告26, 2005, 1-131

16庁（長期処遇 9 庁，短期処遇 7 庁），女子少年院 8 庁，医療少年院 2 庁の合計26庁を選定した。なお，女子少年院は，長期処遇及び短期処遇対象者をともに収容しており，医療少年院は，厳格に分隔しながら男子少年，女子少年をともに収容している。調査票は，各少年院に依頼し，個別方式又は集団一斉方式で実施して回収した。調査票は無記名式とした。

3 分析対象者

調査を実施する対象者は，平成17年 4 月 1 日時点で，勤務年数が 6 年以上の少年院教育部門の法務教官とした。該当する法務教官は，調査対象庁26庁で，計607人であった。そのうち，回答者は，男性424人（77.7%），女性122人（22.3%）の計546人であり，回収率は90.0%であった。

本調査の分析対象者546人を男女別・勤務年数別に見ると，表 1－3－1 のとおりである。

表 1－3－1 男女・勤務年数別分析対象者数

区 分	総 数	6 年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上 30年未満	30年以上
総 数	546 (100.0)	103 (18.9)	124 (22.7)	109 (20.0)	84 (15.4)	55 (10.1)	71 (13.0)
男 性	424 (100.0)	74 (17.5)	92 (21.7)	84 (19.8)	67 (15.8)	48 (11.3)	59 (13.9)
女 性	122 (100.0)	29 (23.8)	32 (26.2)	25 (20.5)	17 (13.9)	7 (5.7)	12 (9.8)

注（ ）内は，総数に対する勤務年数別の構成比である。

分析対象者を男女別・勤務先少年院の種類別（男子少年院，女子少年院，医療少年院）（以下，「少年院種類別」という。）に見ると，表 1－3－2 のとおりである。

表 1－3－2 男女別・少年院種類別分析対象者

区 分	勤 務 少 年 院 種 類			
	総 数	男子少年院	女子少年院	医療少年院
総 数	546 (100.0)	382 (70.0)	122 (22.3)	42 (7.7)
男 性	424 (100.0)	379 (89.4)	12 (2.8)	33 (7.8)
女 性	122 (100.0)	3 (2.5)	110 (90.2)	9 (7.4)

注（ ）内は，総数に対する少年院種類別の構成比である。

調査結果の基礎的統計分析は、質問項目ごとに、全体的な傾向を見る。なお、Q10から Q13までは、Q 4 から Q 9 までの各側面を踏まえた包括的な質問項目であるので、全体的な傾向の分析に加え、勤務年数別（平成17年 4 月 1 日現在で、勤務年数 6 年以上15年未満を「若手教官」、15年以上25年未満を「中堅教官」、25年以上を「ベテラン教官」とする 3 群。）、少年院種類別による分析も行う。

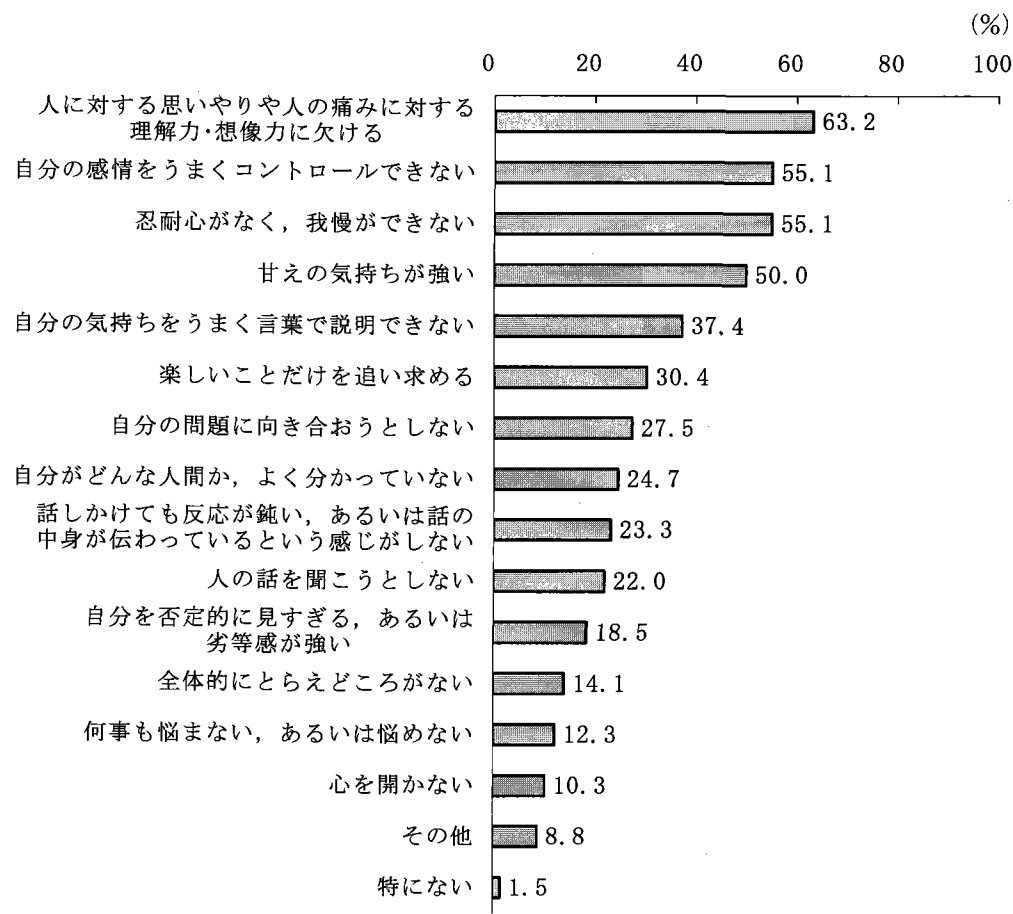
あなたの勤務経験上、最近の非行少年の処遇において、以前より大きくなっていると感じる「少年の資質面の問題」には、どのようなものがありますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。(Q4)

- 1 忍耐力がなく、我慢ができない。
- 2 自分の感情をうまくコントロールできない。
- 3 楽しいことだけを追い求める。
- 4 人に対する思いやりや人の痛みに対する理解力・想像力に欠ける。
- 5 自分の気持ちをうまく言葉で説明できない。
- 6 人の話を聞こうとしない。
- 7 自分を否定的に見すぎる、あるいは劣等感が強い。
- 8 甘えの気持ちが強い。
- 9 自分がどんな人間か、よく分かっていない。
- 10 心を開かない。
- 11 話しかけても反応が鈍い、あるいは話の中身が伝わっているという感じがしない。
- 12 全体的にとらえどころがない。
- 13 自分の問題に向き合おうとしない。
- 14 何事も悩まない、あるいは悩めない。
- 15 その他（ ）
- 16 特にない。

「人に対する思いやりや人の痛みに対する理解力・想像力に欠ける」とする点につき、「大きくなっている」とする比率が63.2%と最も高く、次いで、「自分の感情をうまくコントロールできない」及び「忍耐力がなく、我慢ができない」がともに55.1%であった。

少年院教官は、最近の非行少年の資質に関し、他人に対する共感性や感情統制の面において問題が多いと認識し、これらの面において処遇上の困難を感じていることがうかがわれる。

図 2－1 最近の非行少年の資質面の問題



注 上限のない複数回答である。

2 最近の非行少年の規範意識面の問題

あなたの勤務経験上、最近の非行少年の処遇において、以前より大きくなっていると感じる「少年の規範意識面の問題」には、どのようなものがありますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。(Q5)

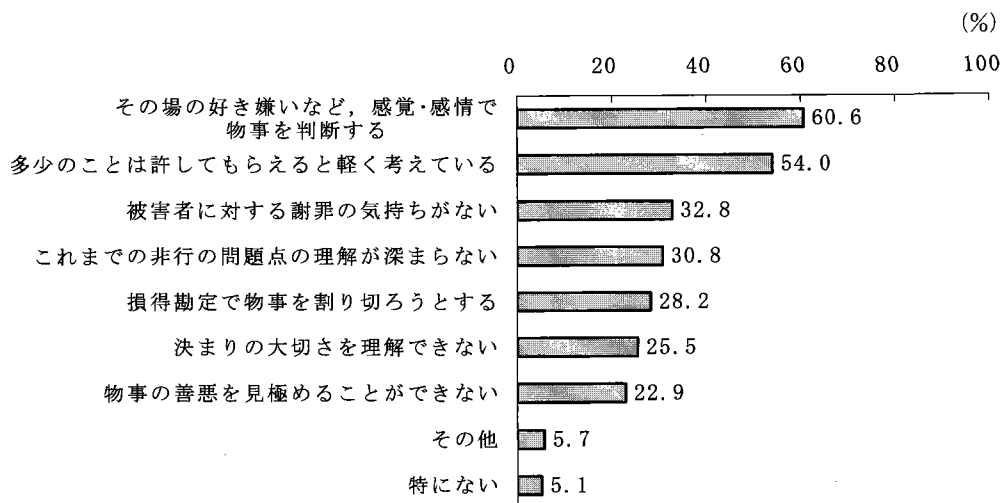
- 1 物事の善悪を見極めることができない。
- 2 被害者に対する謝罪の気持ちがでない。
- 3 これまでの非行の問題点の理解が深まらない。
- 4 決まりの大切さを理解できない。
- 5 損得勘定で物事を割り切ろうとする。
- 6 多少のことは許してもらえると軽く考えている。
- 7 その場の好き嫌いなど、感覚・感情で物事を判断する。
- 8 その他 ()
- 9 特にな

最近の非行少年の処遇において、以前より大きくなっていると感じる「少年の規範意識面の問題」に対し、少年院教官が回答した結果は、図 2－2 のとおりである。

「その場の好き嫌いなど、感覚・感情で物事を判断する」とする点につき、「大きくなっている」とする比率が60.6%と最も高く、次いで、「多少のことは許してもらえると軽く考えている」(54.0%)、「被害者に対する謝罪の気持ちがない」(32.8%)の順であった。

これに対し、「物事の善悪を見極めることができない」、「決まりの大切さを理解できない」などとする点につき、「大きくなっている」とする比率は、比較的低く、少年院教官は、最近の非行少年の規範意識について、善悪の見極めができないというよりは、その場の感情・感覚に任せて意思決定をしたり、規範を軽視する態度が目につくと考えていることがうかがわれる。

図 2-2 最近の非行少年の規範意識面の問題



注 上限のない複数回答である。

3 最近の非行少年の交友関係面の問題

あなたの勤務経験上、最近の非行少年の処遇において、以前より大きくなっていると感じる「少年の交友関係面の問題」には、どのようなものがありますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。(Q6)

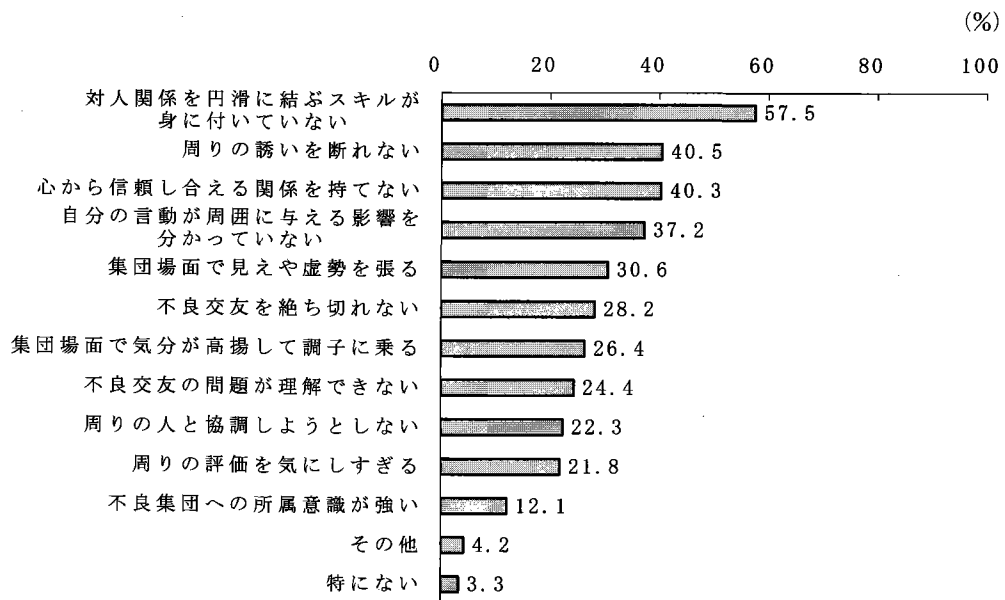
- 1 まわりの評価を気にし過ぎる。
- 2 まわりの誘いを断れない。
- 3 集団場面で見えや虚勢を張る。
- 4 対人関係を円滑に結ぶスキルが身に付いていない。
- 5 不良交友を断ち切れない。
- 6 まわりの人と協調しようとししない。
- 7 心から信頼し合える関係を持てない。
- 8 自分の言動が周囲に与える影響を分かっていない。
- 9 集団場面で気分が高揚して調子に乗る。
- 10 不良集団への所属意識が強い。
- 11 不良交友の問題が理解できない。
- 12 その他 ()
- 13 特にない。

最近の非行少年の処遇において、以前より大きくなっていると感じる「少年の交友関係面の問題」に対し、少年院教官が回答した結果は、図2-3のとおりである。

「対人関係を円滑に結ぶスキルが身に付いていない」とする点につき、「大きくなっている」とする比率が57.5%と最も高く、次いで、「まわりの誘いを断れない」(40.5%)、「心から信頼し合える関係を持ってない」(40.3%)の順であった。

少年院教官は、最近の非行少年の交友関係について、信頼関係に基づいた対人関係を築いていく力が弱いために、周囲に迎合して行動しやすいと考えていることがうかがわれる。

図2-3 最近の非行少年の交友関係面の問題



注 上限のない複数回答である。

4 最近の非行少年の社会関係面の問題

あなたの勤務経験上、最近の非行少年の処遇において、以前より大きくなっていると感じる「学校・職場・地域社会との関係の問題」には、どのようなものがありますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。(Q7)

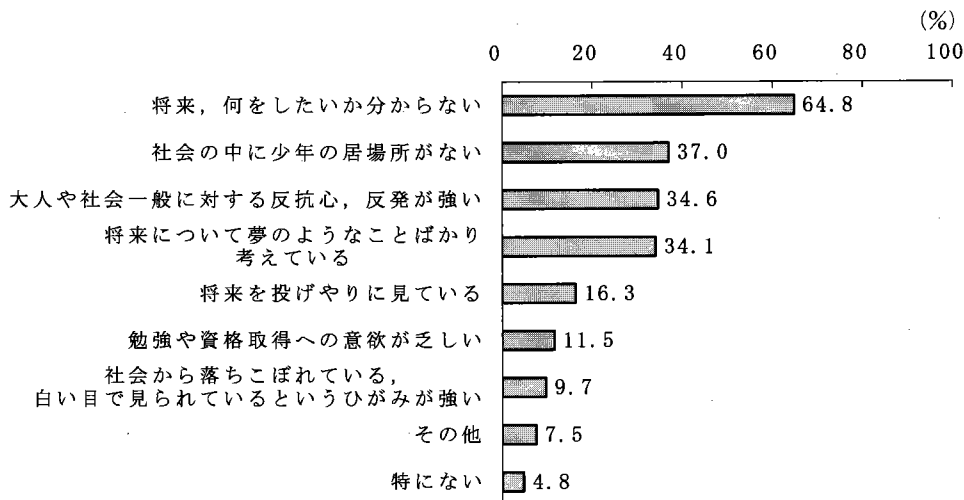
- 1 勉強や資格取得への意欲が乏しい。
- 2 将来、何をしたいか分からない。
- 3 社会から落ちこぼれている、白い目で見られているというひがみが強い。
- 4 大人や社会一般に対する反抗心、反発が強い。
- 5 将来について夢のようなことばかり考えている。
- 6 将来を投げやりに見ている。
- 7 社会の中に少年の居場所がない。
- 8 その他 ()
- 9 特にない

最近の非行少年の処遇において、以前より大きくなっていると感じる「学校・職場・地域社会との関係の問題」に対し、少年院教官が回答した結果は、図2-4のとおりである。

「将来、何をしたいか分からない」とする点につき、「大きくなっている」とする比率が64.8%と最も高く、次いで、「社会の中に少年の居場所がない」(37.0%)、「大人や社会一般に対する反抗心、反発が強い」(34.6%)の順であった。

少年院教官は、非行少年が社会内で更生していく上で、少年自身の将来目標の不確かさが大きな問題であると考えていることがうかがわれる。

図 2 - 4 最近の非行少年の社会関係面の問題



注 上限のない複数回答である。

5 保護者の指導力の問題

あなたの勤務経験上、最近の非行少年の処遇において、以前より大きくなっていると感じる「親の指導力の問題」には、どのようなものがありますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。(Q8)

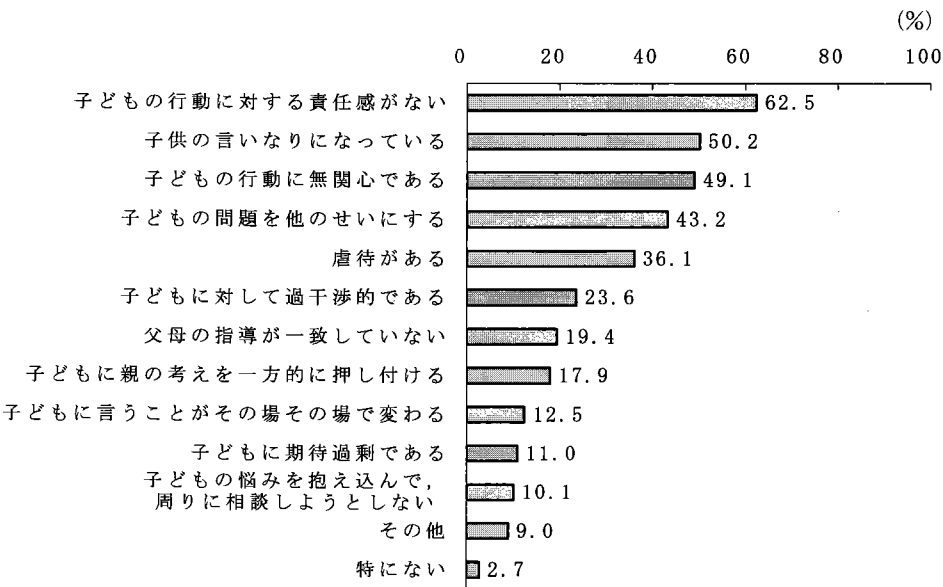
- 1 子どもの言いなりになっている。
- 2 子どもに言うことがその場その場で変わる。
- 3 子どもの悩みを抱え込んで、周りに相談しようとししない。
- 4 子どもの行動に無関心である。
- 5 子どもに親の考えを一方向的に押し付ける。
- 6 子どもに対して過干渉的である。
- 7 子どもに期待過剰である。
- 8 虐待がある。
- 9 父母の指導が一致していない。
- 10 子どもの問題を他のせいにする。
- 11 子どもの行動に対する責任感がない。
- 12 その他 ()
- 13 特にない。

最近の非行少年の処遇において、以前より大きくなっていると感じる「親の指導力の問題」に対し、少年院教官が回答した結果は、図 2 - 5 のとおりである。

「子どもの行動に対する責任感がない」とする点につき、問題であるとする比率が62.5%と最も高く、次いで、「子どもの言いなりになっている」(50.2%),「子どもの行動に無関心である」(49.1%)の順であり、無責任な保護者やでき愛傾向の保護者が増えたとする比率が高い。「虐待がある」という保護者が増えたと認識している比率は36.1%であった。

少年院教官は、親の指導力の問題に関して、過干渉や父母の指導の不一致よりも、親としての子供に対する責任感、関心が最近の保護者に不足していると感じていることがうかがわれる。

図 2 - 5 保護者の指導力の問題



注 上限のない複数回答である。

6 家族関係の問題

あなたの勤務経験上、最近の非行少年の処遇において、以前より大きくなっていると感じる「少年の家族関係の問題」には、どのようなものがありますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。(Q9)

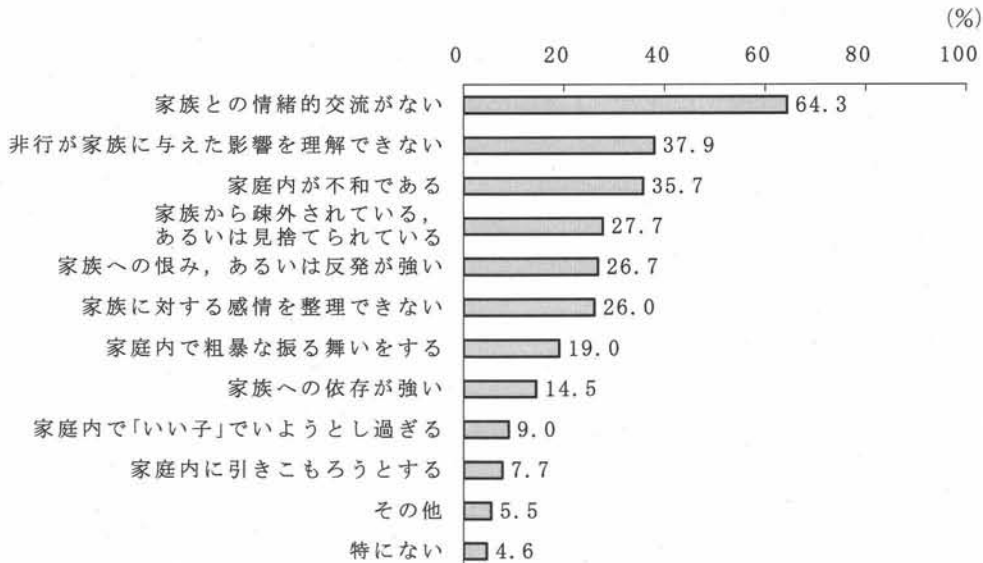
- 1 家族に対する感情を整理できない。
- 2 自分の非行が家族に与えた影響を理解できない。
- 3 家庭内で「いい子」でいようとしすぎる。
- 4 家庭内に引きこもろうとする。
- 5 家庭内で粗暴な振る舞いをする。
- 6 家族へのうらみ、あるいは反発が強い。
- 7 家族から疎外されている、あるいは見捨てられている。
- 8 家族との情緒的交流がない。
- 9 家庭内が不和である。
- 10 家族への依存が強い。
- 11 その他 ()
- 12 特にない。

最近の非行少年の処遇において、以前より大きくなっていると感じる「少年の家族関係の問題」に対し、少年院教官が回答した結果は、図2-6のとおりである。

「家族との情緒的交流がない」とする点につき、問題であるとする比率が64.3%と最も高く、次いで、「非行が家族に与えた影響を理解できない」(37.9%)、「家庭内が不和である」(35.7%)の順であった。

少年院教官は、家族内でお互いの心の琴線に触れるような情緒的な交流が乏しくなっており、家族内ですら他者を思いやることができなくなっていることが問題であると考えていることがうかがわれる。

図2-6 家族関係の問題



注 上限のない複数回答である。

7 困難化している問題

以上の問題のうち、最近の非行少年の処遇において、最も難しくなっていると感じる問題はどれですか。当てはまる番号に一つだけ○をつけてください。(Q10)

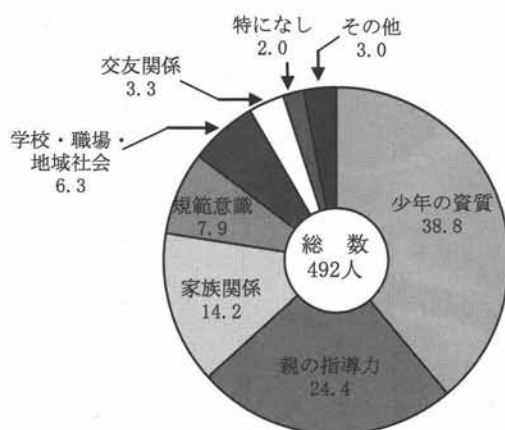
- 1 少年の資質面の問題
- 2 少年の規範意識面の問題
- 3 少年の交友関係の問題
- 4 学校・職場・地域社会との関係の問題
- 5 親の指導力の問題
- 6 少年の家族関係の問題
- 7 その他 ()
- 8 特にない。

最近の非行少年の処遇において、最も難しくなっていると感じる問題に対し、少年院教官が回答した結果は、図2-7のとおりである。

「資質の問題」とする比率が38.8%と最も高く、次いで、「親の指導力の問題」(24.4%)、「家族関係の問題」(14.2%)、「規範意識の問題」(7.9%)、「学校・職場・地域社会との関係の問題」(6.3%)、「交友関係の問題」(3.3%)、「その他」(3.0%)、「特にない」(2.0%)の順であった。

少年院教官は、最も処遇が難しくなっている問題として、学校・職場・地域社会との関係の問題や交友関係の問題という環境面の問題よりも、資質面の問題や家族関係の問題、規範意識の問題という少年自身に直接かかわる問題について処遇が難しくなっていると認識していることがうかがわれる。

図 2-7 困難化している問題は何か



注 無回答を除く。

なお、本質問に対する回答について、勤務年数別(若手教官、中堅教官、ベテラン教官)、少年院種類別に、クロス集計を行ったところ、いずれの集計においても χ^2 値は有意ではなかった(勤務年数別 $\chi^2(14)=21.39$ n.s., 施設種類別 $\chi^2(14)=19.33$ n.s.)。したがって、最近の非行少年処遇において、最も難しくなっていると感じる問題に対する少年院教官の認識は、非行少年の処遇に携わってきた期間の長短や、男子少年院、女子少年院、医療少年院というような処遇区分による少年院種類の違いによって異なるものではなく、現在の法務教官全体に共通しているものと考えられる。

8 最近の非行少年は変化したか

最近の非行少年について、「以前と比べて、抱えている問題の中身が変化した。」という意見がありますが、あなたは、どのように思いますか。次のうち、当てはまる番号に一つだけ○をつけてください。(Q11)

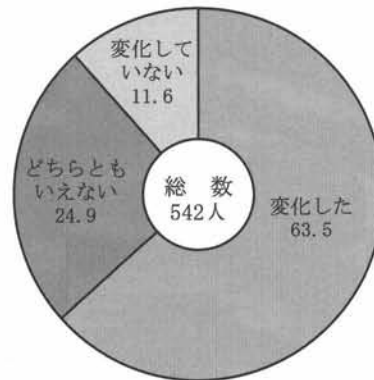
- 1 かなり変化したと思う。
- 2 やや変化したと思う。
- 3 どちらともいえないと思う。
- 4 あまり変化していないと思う。
- 5 まったく変化していないと思う。

最近の非行少年について、「以前と比べて、抱えている問題の中身が変化した。」という意見に対し、少年院教官が回答した結果は、図 2-8 のとおりである。

最近、非行少年の抱えている問題の中身が「変化した」(「かなり変化したと思う」及び「やや変化したと思う」の合計。)と認識している者は63.5%であるのに対し、「変化していない」(「あまり変化していない」及び「全く変化していない」を合計した「変化していない」の合計。)は11.6%であった。

多くの少年院教官は、非行少年の抱えている問題の中身が変化すると認識していることがうかがわれる。

図 2-8 最近の非行少年は変化したか



注 1 「変化した」は、「かなり変化したと思う」及び「やや変化したと思う」を合計したものであり、「変化していない」は、「あまり変化していないと思う」及び「全く変化していないと思う」を合計したものである。

2 無回答を除く。

なお、本質問に対する回答について、勤務年数別(若手教官、中堅教官、ベテラン教官)、少年院種別にクロス集計を行ったところ、いずれの集計においても χ^2 値は有意ではなかった(勤務年数別 $\chi^2(4)=3.66$ n.s., 施設種別 $\chi^2(4)=5.40$ n.s.)。したがって、最近の非行少年の抱えている問題の中身が変化したという少年院教官の認識は、非行少年の処遇に携わってきた期間の長短や、男子少年院、女子少年院、医療少年院というような処遇区分による施設種類の違いによって異なるものではなく、現在の法務教官全体に共通しているものと考えられる。

9 処遇困難な非行少年が増えたか

最近の非行少年について、「以前と比べて、接し方や処遇の難しい非行少年の割合が増えた。」という意見がありますが、あなたは、どのように思いますか。次のうち、当てはまる番号に一つだけ○をつけてください。(Q12)

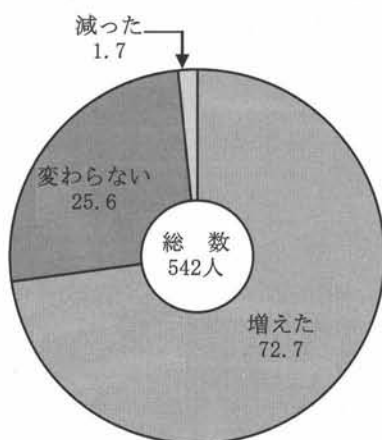
- 1 かなり増えたと思う。
- 2 やや増えたと思う。
- 3 あまり変わらないと思う。
- 4 やや減ったと思う。
- 5 かなり減ったと思う。

最近の非行少年処遇の難易についての認識に対し、少年院教官が回答した結果は、図 2-9 のとおりである。

処遇の難しい非行少年が「増えた」(「かなり増えたと思う」及び「やや増えたと思う」の合計。)とする比率は、72.7%であるのに対し、「やや減ったと思う」及び「かなり減ったと思う」を合計した「減った」と認識している者は1.7%であった。

多くの少年院教官は、処遇の難しい少年が増えたと認識していることがうかがわれる。

図 2-9 処遇困難な非行少年が増えたか



注 1 「増えた」は、「かなり増えたと思う」及び「やや増えたと思う」を合計したものであり、「減った」は、「かなり減ったと思う」及び「やや減ったと思う」を合計したものである。

2 無回答を除く。

なお、本質問に対する回答について、勤務年数別(若手教官、中堅教官、ベテラン教官)、少年院種別(男子少年院、女子少年院、医療少年院)にクロス集計を行ったところ、いずれの集計においても χ^2 値は有意ではなかった(勤務年数別 $\chi^2(4)=9.12$ n.s., 施設種別 $\chi^2(4)=1.23$ n.s.)。したがって、最近の非行少年処遇の難易に対する少年院教官の認識は、非行少年の処遇に携わってきた期間の長短や、男子少年院、女子少年院、医療少年院というような処遇区分による施設種類の違いによって異なるものではなく、現在の法務教官全体に共通しているものと考えられる。

10 指導力に問題のある保護者が増えたか

最近の非行少年の保護者について、「以前と比べて、子どもに対する指導力に問題のある保護者の割合が増えた。」という意見がありますが、あなたは、どのように思いますか。次のうち、当てはまる番号に一つだけ○をつけてください。(Q13)

- 1 かなり増えたと思う。
- 2 やや増えたと思う。
- 3 あまり変わらないと思う。
- 4 やや減ったと思う。
- 5 かなり減ったと思う。

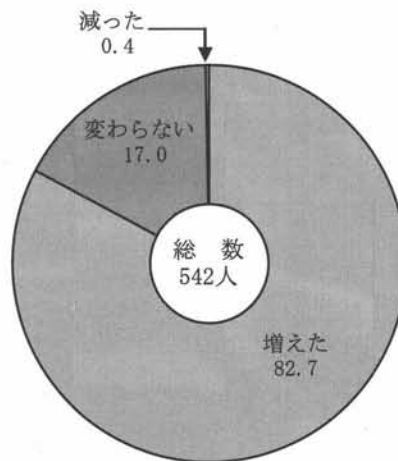
最近の非行少年の保護者の指導力に関する認識に対し、少年院教官が回答した結果は、図 2-10のとおりである。

指導力に問題のある非行少年の保護者が、「増えた」(「かなり増えたと思う」及び「やや増えたと思う」の合計。)とする比率は、82.7%であるのに対し、「やや減ったと思う」及び「かなり減ったと思う」を合計した「減った」とする比率は0.4%であった。

ほとんどの少年院教官は、指導力に問題のある保護者が増えたと認識していることがうかがわれる。

なお、本質問に対する回答について、勤務年数別(若手教官、中堅教官、ベテラン教官)、少年院種別(男子少年院、女子少年院、医療少年院)にクロス集計を行ったところ、いずれの集計においても χ^2

図 2-10 指導力に問題のある保護者が増えたか



注 1 「増えた」は、「かなり増えたと思う」及び「やや増えたと思う」を合計したものであり、「減った」は、「かなり減ったと思う」及び「やや減ったと思う」を合計したものである。

2 無回答を除く。

値は有意ではなかった（勤務年数群別 $\chi^2(4)=3.83$ n.s., 施設種類別 $\chi^2(4)=2.11$ n.s.）。したがって、保護者の指導力に対する少年院教官の認識は、非行少年の処遇に携わってきた期間の長短や、男子少年院、女子少年院、医療少年院というような処遇区分による施設種類の違いによって異なるものではなく、現在の法務教官全体に共通しているものと考えられる。

第3 調査結果の総合的統計分析

調査結果の基礎的統計分析においては、質問項目ごとに単純集計を行い、少年院で勤務している法務教官が最近の少年院入院者に対してどのように認識しているかを探ってきた。以下の総合的統計分析では、法務教官の認識の実態により深く迫るため、非行少年自身の問題性、非行少年の保護者の指導力等の問題性の変化に関する認識について、多変量解析を用いた分析を試みる。

1 非行少年の問題性の変化に関する認識

非行少年の問題性に関する質問（(資質面 (Q4)、規範意識面 (Q5)、交友関係面 (Q6)、社会関係面 (Q7)）に対する回答結果に因子分析を行い、法務教官が非行少年の問題性の変化としてどのような因子を想定しているかを検討する。

非行少年の問題性に関する質問では、当てはまるもの全てを選択するように回答を求めている。それぞれの項目に対する回答について、「選択」を1点、「非選択」を0点と得点化した。各項目の平均値及び標準偏差は、表3-1-1のとおりである。

表3-1-1で示した非行少年の問題性に関する計39項目の回答結果に、主因子法・斜交プロマックス回転による因子分析を行い、固有値の減少等を考慮の上、3因子を抽出した。因子分析を行った結果は、表3-1-2のとおりである。

第1因子では、「自分の感情をうまくコントロールできない」、「忍耐力がなく、我慢ができない」などが高い因子負荷量を示したことから、「衝動性」因子と名付けた。第2因子では、「まわりの誘いを断れない」、「不良交友を断ち切れない」などが高い因子負荷量を示したことから、「同調性」因子と名付けた。第3因子では、「まわりの人と協調しようとしめない」、「対人関係を円滑に結ぶスキルが身についていない」などが高い因子負荷量を示したことから、「対人障害性」因子と名付けた。

すなわち、少年院教官が最近の非行少年の処遇において、大きくなってきていると感じる非行少年の問題性の因子として、衝動性、同調性及び対人障害性という三つを想定していることがうかがわれる。

各因子で因子負荷量が高い項目のうち、少年院教官の回答比率の高いものを見ると、衝動性因子に含まれる「人に対する思いやりや人の痛みに対する理解力・想像力に欠ける」は63.2%、「自分の感情をうまくコントロールできない」及び「忍耐力がなく、我慢ができない」はともに55.1%の少年院教官が、最近大きくなっている問題性と認識していた。同調性因子に含まれる「将来、何をしたいか分からない」は64.8%、「まわりの誘いを断れない」は40.5%、「不良交友を断ち切れない」は28.2%の少年院教官が、最近大きくなっている問題性と認識していた。対人障害性因子に含まれる「対人関係を円滑に結ぶスキルが身についていない」は57.5%、「心から信頼し合える関係を持ってない」は40.3%の少年院教官が、最近大きくなっている問題性と認識していた。

すなわち、衝動性因子に含まれる項目では、「人に対する思いやりや人の痛みに対する理解力・想像力に欠ける」、同調性因子に含まれる項目では、「将来、何をしたいか分からない」、対人障害性因子に含まれる項目では、「対人関係を円滑に結ぶスキルが身についていない」がそれぞれ最近大きくなっている問題性として多くの少年院教官が認識していることがうかがわれる。さらに、三つの問題性の中では、衝動性因子に含まれる項目の選択比率が他の因子に含まれる項目より高くなっており、少年院教官は、最近の非行少年の問題性の変化として、衝動性に関連する問題性が特に大きくなっていると認識していることがうかがわれる。

表 3 - 1 - 1 非行少年の問題性に関する項目の基礎統計量

	項 目	平 均 値	標準偏差
Q 4 資質面	忍耐力がなく、我慢ができない	0.55	0.50
	自分の感情をうまくコントロールできない	0.55	0.50
	楽しいことだけを追い求める	0.30	0.46
	人に対する思いやりや人の痛みに対する理解力・想像力に欠ける	0.63	0.48
	自分の気持ちをうまく言葉で説明できない	0.37	0.48
	人の話を聞こうとしない	0.22	0.41
	自分を否定的に見すぎる、あるいは劣等感が強い	0.18	0.39
	甘えの気持ちが強い	0.50	0.50
	自分がどんな人間か、よく分かっていない	0.25	0.43
	心を開かない	0.10	0.30
	話しかけても反応が鈍い、あるいは話の中身が伝わっているという感じがしない	0.23	0.42
	全体的にとらえどころがない	0.14	0.35
	自分の問題に向き合おうとしない	0.27	0.45
	何事も悩まない、あるいは悩めない	0.12	0.33
Q 5 規範意識面	物事の善悪を見極めることができない	0.23	0.42
	被害者に対する謝罪の気持ちがない	0.33	0.47
	これまでの非行の問題点の理解が深まらない	0.31	0.46
	決まりの大切さを理解できない	0.25	0.44
	損得勘定で物事を割り切ろうとする	0.28	0.45
	多少のことは許してもらえると軽く考えている	0.54	0.50
	その場の好き嫌いなど、感覚・感情で物事を判断する	0.61	0.49
Q 6 交友関係面	まわりの評価を気にし過ぎる	0.22	0.41
	まわりの誘いを断れない	0.40	0.49
	集団場面で見えや虚勢を張る	0.31	0.46
	対人関係を円滑に結ぶスキルが身に付いていない	0.58	0.49
	不良交友を断ち切れない	0.28	0.45
	まわりの人と協調しようとしていない	0.22	0.42
	心から信頼し合える関係を持てない	0.40	0.49
	自分の言動が周囲に与える影響を分かっていない	0.37	0.48
	集団場面で気分が高揚して調子に乗る	0.26	0.44
	不良集団への所属意識が強い	0.12	0.33
	不良交友の問題が理解できない	0.24	0.43
Q 7 社会関係面	勉強や資格取得への意欲が乏しい	0.12	0.32
	将来、何をしたいか分からない	0.65	0.48
	社会から落ちこぼれている、白い目で見られているというひがみが強い	0.10	0.30
	大人や社会一般に対する反抗心、反発が強い	0.35	0.48
	将来について夢のようなことばかり考えている	0.34	0.47
	将来を投げやりに見ている	0.16	0.37
	社会の中に少年の居場所がない	0.37	0.48

注 「その他」及び「特になし」は除く。

表 3 - 1 - 2 非行少年の問題性の因子分析結果

項 目	因 子		
	I	II	III
因子Ⅰ：衝動性			
Q 4 - 2 自分の感情をうまくコントロールできない	0.69	-0.19	0.06
Q 4 - 1 忍耐力がなく、我慢ができない	0.58	-0.05	0.05
Q 6 - 3 集団場面で見えや虚勢を張る	0.48	0.22	-0.18
Q 7 - 4 大人や社会一般に対する反抗心、反発が強い	0.45	-0.01	0.02
Q 5 - 7 その場の好き嫌いなど、感覚・感情で物事を判断する	0.36	0.02	0.08
Q 4 - 4 人に対する思いやりや人の痛みに対する理解力・想像力に欠ける	0.33	-0.08	0.17
Q 5 - 4 決まりの大切さを理解できない	0.32	0.05	0.18
Q 5 - 1 物事の善悪を見極めることができない	0.23	0.07	0.15
因子Ⅱ：同調性			
Q 6 - 2 まわりの誘いを断れない	0.15	0.55	-0.18
Q 6 - 5 不良交友を断ち切れない	0.14	0.52	-0.17
Q 4 - 9 自分がどんな人間か、よく分かっていない	-0.07	0.40	0.24
Q 7 - 2 将来、何をしたいか分からない	-0.15	0.36	0.12
Q 5 - 3 これまでの非行の問題点の理解が深まらない	-0.01	0.35	0.16
Q 7 - 5 将来について夢のようなことばかり考えている	-0.08	0.34	-0.02
Q 6 - 11 不良交友の問題が理解できない	-0.01	0.32	0.13
Q 5 - 6 多少のことは許してもらえると軽く考えている	0.02	0.32	-0.02
Q 4 - 13 自分の問題に向き合おうとしない	0.12	0.29	0.20
Q 6 - 9 集団場面で気分が高揚して調子に乗る	0.27	0.29	-0.21
Q 4 - 14 何事も悩まない、あるいは悩めない	-0.19	0.29	0.25
Q 5 - 2 被害者に対する謝罪の気持ちがでない	0.21	0.28	0.06
Q 4 - 3 楽しいことだけを追い求める	0.12	0.25	0.09
Q 5 - 5 損得勘定で物事を割り切ろうとする	-0.01	0.24	0.14
Q 4 - 8 甘えの気持ちが強い	0.18	0.22	0.04
Q 7 - 1 勉強や資格取得への意欲が乏しい	0.04	0.21	0.06
Q 6 - 10 不良集団への所属意識が強い	0.21	0.21	-0.01
Q 7 - 3 社会から落ちこぼれている、白い目で見られているというひがみが強い	0.15	0.18	0.05
Q 6 - 1 まわりの評価を気にし過ぎる	-0.01	0.12	0.08
因子Ⅲ：対人障害性			
Q 6 - 6 まわりの人と協調しようとしていない	0.06	-0.11	0.48
Q 6 - 4 対人関係を円滑に結ぶスキルが身に付いていない	0.18	-0.23	0.48
Q 7 - 6 将来を投げやりに見ている	0.05	-0.03	0.40
Q 4 - 12 全体的にとらえどころがない	-0.18	0.18	0.38
Q 4 - 6 人の話を聞こうとしない	0.25	0.10	0.35
Q 4 - 11 話しかけても反応が鈍い、あるいは話の中身が伝わっているという感じがしない	-0.07	0.18	0.33
Q 6 - 7 心から信頼し合える関係を持ってない	0.04	-0.09	0.33
Q 4 - 7 自分を否定的に見すぎる、あるいは劣等感が強い	0.02	0.14	0.31
Q 4 - 10 心を開かない	0.09	0.13	0.30
Q 4 - 5 自分の気持ちをうまく言葉で説明できない	0.02	0.34	0.28
Q 7 - 7 社会の中に少年の居場所がない	0.05	-0.02	0.23
Q 6 - 8 自分の言動が周囲に与える影響を分かっていない	0.15	0.14	0.21
因子間相関			
I	1.00	0.53	0.38
II		1.00	0.34
III			1.00

注 「その他」及び「特になし」は除く。

2 非行少年の保護者の指導力の変化に対する認識

保護者の指導力の問題に関する質問(Q8)に対する回答結果に因子分析を行い、法務教官が保護者の指導力の変化としてどのような因子を想定しているかを検討する。

保護者の指導力の問題に関する質問では、当てはまるものを全てを選択するように回答を求めている。それぞれの項目に対する回答について、「選択」を1点、「非選択」を0点と得点化した。各項目の平均値及び標準偏差は、表3-2-1のとおりである。

表3-2-1 保護者の指導力の問題に関する項目の基礎統計量

項 目	平 均 値	標準偏差
子供の言いなりになっている	0.50	0.50
子どもに言うことがその場その場で変わる	0.12	0.33
子どもの悩みを抱え込んで、周りに相談しようとししない	0.10	0.30
子どもの行動に無関心である	0.49	0.50
子どもに親の考えを一方的に押し付ける	0.18	0.38
子どもに対して過干渉的である	0.24	0.43
子どもに期待過剰である	0.11	0.31
虐待がある	0.36	0.48
父母の指導が一致していない	0.19	0.40
子どもの問題を他のせいにする	0.43	0.50
子どもの行動に対する責任感がない	0.62	0.48

注 「その他」及び「特にない」は除く。

表3-2-1で示した保護者の指導力の問題に関する計11項目の回答結果に、主因子法・斜交プロマックス回転による因子分析を行い、固有値の減少等を考慮の上、4因子を抽出した。因子分析を行った結果は、表3-2-2のとおりである。

第1因子では、「子どもに対して過干渉的である」が高い因子負荷量を示したことから、「過干渉」因子と名付けた。第2因子では、「虐待がある」、「子供に親の考えを一方的に押し付ける」などが高い因子負荷量を示したことから、「虐待」因子と名付けた。第3因子では、「子供に期待過剰である」が高い因子負荷量を示したことから、「期待過剰」因子と名付けた。第4因子では、「子どもの行動に無関心である」、「子どもの行動に対する責任感がない」などが高い因子負荷量を示したことから、「無関心」因子と名付けた。

すなわち、少年院教官が最近の非行少年の処遇において、大きくなってきていると感じる保護者の指導力の問題として、過干渉、虐待、期待過剰、無関心という四つの因子を想定していることがうかがわれる。

各因子で因子負荷量が高い項目のうち、少年院教官の回答比率が高いものを見ると、過干渉因子に含まれる「子どもに対して過干渉的である」は23.6%の少年院教官が最近大きくなっている保護者の指導力の問題と認識していた。虐待因子に含まれる「虐待がある」は36.1%、「子どもに親の考えを一方的に押し付ける」は17.9%の少年院教官が、最近大きくなっている保護者の指導力の問題と認識していた。期待過剰因子に含まれる「子どもに期待過剰である」は11.0%の少年院教官が、最近大きくなっている保護者の指導力の問題と認識していた。無関心因子に含まれる「子どもの行動に対する責任感がない」は62.5%、「子どもの行動に無関心である」は49.1%の少年院教官が、最近大きくなっている保護者の指導力の問題と認識していた。すなわち、四つのタイプの中では、無関心因子に含まれる項目の選択比率

が高くなっており、少年院教官は、保護者の指導力の問題として、無関心や無責任の問題が大きくなっていると認識していることがうかがわれる。

表 3 - 2 - 2 保護者の指導力の問題の因子分析結果

項 目	因 子			
	I	II	III	IV
因子 I : 過干渉				
Q 8 - 6 子どもに対して過干渉的である	0.75	0.03	-0.06	-0.02
Q 8 - 1 子供の言いなりになっている	0.18	0.04	0.04	0.14
因子 II : 虐待				
Q 8 - 8 虐待がある	-0.02	0.46	-0.07	-0.10
Q 8 - 5 親の考えを一方的に押し付ける	0.12	0.39	0.06	-0.10
Q 8 - 9 父母の指導が一致していない	0.10	0.32	0.09	0.12
Q 8 - 2 言うことがその場その場で変わる	-0.01	0.31	0.10	0.15
因子 III : 期待過剰				
Q 8 - 7 子どもに期待過剰である	0.04	-0.07	0.68	-0.03
Q 8 - 3 悩みを抱え込んで相談しない	-0.13	0.16	0.32	-0.10
因子 IV : 無関心				
Q 8 - 4 子どもの行動に無関心である	-0.08	0.15	-0.07	0.50
Q 8 - 11 子どもの行動に対し責任感がない	0.06	-0.17	-0.06	0.46
Q 8 - 10 子どもの問題を他のせいにする	0.01	-0.09	0.24	0.26
因子間相関	I	II	III	IV
I	1.00	0.38	0.48	0.07
II		1.00	0.46	0.47
III			1.00	0.22
IV				1.00

注 「その他」及び「特にない」は除く。

3 非行少年の家族関係の問題の変化に対する認識

家族関係の問題に関する質問(Q9)に対する回答結果に因子分析を行い、法務教官が非行少年の家族関係の変化として、どのような因子を想定しているかを検討する。

家族関係に関する質問では、当てはまるもの全てを選択するように回答を求めている。それぞれの項目に対する回答について、「選択」を1点、「非選択」を0点と得点化した。各項目の平均値及び標準偏差は、表3-3-1のとおりである。

表3-3-1で示した家族関係に関する計10項目の回答結果に、主因子法・斜交プロマックス回転による因子分析を行い、固有値の減少等を考慮の上、3因子を抽出した。因子分析を行った結果は、表3-3-2のとおりである。

第1因子では、「自分の非行が家族に与えた影響を理解できない」、「家族との情緒的交流がない」など高い因子負荷量を示したことから、「交流希薄関係」因子と名付けた。第2因子では、「家族へのうらみあるいは反発が強い」、「家族から疎外されている、あるいは見捨てられている」が高い因子負荷量を示したことから、「葛藤関係」因子と名付けた。第3因子では、「家庭内に引きこもろうとする」、「家庭内で粗暴な振る舞いをする」などが高い因子負荷量を示したことから、「引きこもり関係」因子と名付けた。

すなわち、少年院教官が最近大きくなってきていると感じる非行少年の家族関係の問題として、交流希薄関係、葛藤関係、引きこもり関係の三つの因子を想定していることがうかがわれる。

表 3 - 3 - 1 家族関係の問題に関する項目の基礎統計量

項 目	平 均 値	標準偏差
家族に対する感情を整理できない	0.26	0.44
自分の非行が家族に与えた影響を理解できない	0.38	0.49
家庭内で「いい子」でいようとしすぎる	0.09	0.29
家庭内に引きこもろうとする	0.08	0.27
家庭内で粗暴な振る舞いをする	0.19	0.39
家族へのうらみ、あるいは反発が強い	0.27	0.44
家族から疎外されている、あるいは見捨てられている	0.28	0.45
家族との情緒的交流がない	0.64	0.48
家庭内が不和である	0.36	0.48
家族への依存が強い	0.14	0.35

注 「その他」及び「特にない」は除く。

表 3 - 3 - 2 家族関係の問題の因子分析結果

項 目	因 子		
	I	II	III
因子 I：交流希薄関係			
Q 9 - 2 非行が家族に与えた影響を理解できない	0.53	-0.32	0.10
Q 9 - 8 家族との情緒的交流がない	0.36	0.07	-0.13
Q 9 - 1 家族に対する感情を整理できない	0.31	0.13	-0.12
因子 II：葛藤関係			
Q 9 - 6 家族へのうらみ、あるいは反発が強い	0.21	0.41	0.12
Q 9 - 7 家族から疎外又は見捨てられている	0.15	0.40	-0.07
Q 9 - 9 家庭内が不和である	0.26	0.36	0.04
Q 9 - 3 家庭内で「いい子」でいようとしすぎる	-0.08	0.20	0.03
因子 III：ひきこもり関係			
Q 9 - 4 家庭内に引きこもろうとする	-0.24	0.02	0.58
Q 9 - 5 家庭内で粗暴な振る舞いをする	0.08	0.07	0.39
Q 9 - 10 家族への依存が強い	-0.03	-0.11	0.13
因子間相関	I	II	III
I	1.00	0.19	0.60
II		1.00	0.32
III			1.00

注 「その他」及び「特にない」は除く。

各因子に含まれる項目のうち、少年院教官の回答比率が高いものを見ると、交流希薄関係因子に含まれる「家族との情緒的交流がない」は64.3%、「非行が家族に与えた影響を理解できない」は37.9%の少年院教官が、最近大きくなっている家族関係の問題と認識していた。葛藤関係因子に含まれる「家庭内が不和である」は35.7%、「家族から疎外されている、あるいは見捨てられている」は27.7%の少年院教官が、最近大きくなっている家族関係の問題と認識していた。引きこもり関係因子に含まれる「家庭内で粗暴な振る舞いをする」は19.0%、「家庭内に引きこもろうとする」は7.7%の少年院教官が、最近大きくなっている家族関係の問題と認識していた。すなわち、三つの因子の中では、交流希薄関係因子に含まれる項目の選択比率が高くなっており、少年院教官は、家族関係の変化として、交流の希薄さの問題が大きくなっていると認識していることがうかがわれる。

第4 まとめ

少年非行は、本人自身の問題に加えて、家族、友人、学校、地域社会の問題等、複合的な原因から生じると指摘されることが多い。「非行少年の生活意識と価値観」調査（以下「非行少年調査」という。）及び「非行少年の保護者の意識」調査（以下「保護者調査」という。）では、当事者である非行少年も、保護者も、非行の原因として、最も大きいのは本人の問題であり、次に、友人関係の問題が大きく、家族関係の問題は三番目として認識していた。他方、本調査における少年院教官は、処遇上の困難度が増している問題として、非行少年の資質面の問題を第一に挙げ、次に、親の指導力の問題及び家族関係の問題を挙げていた。

以下では、本調査で明らかとなった、非行少年の問題性及び非行少年の保護者の指導力及び家族関係の問題についてまとめた上で、非行少年調査及び保護者調査の結果も踏まえながら、これらの問題に応じた処遇上の留意点についてまとめる。

1 最近の非行少年の特質に関する法務教官の認識

(1) 非行少年の問題性的変化

本調査では、少年院教官の6割以上が非行少年の抱える問題の中身が変化し、7割以上の少年院教官がその変化によって非行少年の処遇が困難になっていると感じていた。そこで、具体的に非行少年のどのような問題性的変化によって、非行少年処遇の困難度が増しているのかを明らかにするため、非行少年の資質面、規範意識面、交友関係面等の問題性に関する39項目の回答結果を因子分析したところ、三つの因子を抽出できた。

第一は、自分の感情をうまくコントロールできず、我慢もできない、集団場面では、見えや虚勢を張ったり、気分が高揚して調子に乗りやすい、その場の好き嫌いなど感覚・感情で判断しやすく、人に対する思いやりや人の痛みに対する理解力・想像力に乏しいなどの傾向を示す因子であり、衝動性因子と名付けた。

第二は、周りの誘いを断れず、不良交友を断ち切れない、自分がどんな人間か分かっておらず、将来についても夢のようなことばかり考えている、これまでの非行の問題点の理解が深まらず、多少のことは許してもらえると軽く考えるなどの傾向を示す因子であり、同調性因子と名付けた。

第三は、周りと協調しようとせず、対人関係を円滑に結ぶスキルが身に付いていない、人の話を聞こうとせず、心から信頼し合える関係を持てない、自分を否定的に見すぎて、将来についても投げやりであるなどの傾向を示す因子であり、対人障害性因子と名付けた。

これらの三つの因子の中で、少年院教官が最近大きくなっている非行少年の問題性として選択した比率が高い項目を見ると、衝動性因子では、「人に対する思いやりや人の痛みに対する理解力・想像力に欠ける」が63.2%、同調性因子では、「将来、何をしたいか分からない」が64.8%、対人障害性因子では、「対人関係を円滑に結ぶスキルが身に付いていない」が57.5%であった。それぞれの非行少年のタイプごとに異なった側面の問題性的変化を指摘していることがうかがわれる。

さらに、三つの因子の中では、衝動性因子に含まれる項目の選択比率が他の因子に含まれる項目より比較的高くなっており、少年院教官は、最近の非行少年の問題性的変化として、衝動性に関連する問題性が特に大きくなっていると認識していることがうかがわれる。

(2) 保護者の指導力及び家族関係の問題

本調査では、少年院教官の8割以上が子どもに対する指導力に問題のある保護者が増えたと感じていた。そこで、保護者の指導力に関して、具体的にどのような問題が増えているのかを明らかにするため、保護者の指導力に関する11項目に対して因子分析を行ったところ、過干渉、虐待、期待過剰、無関心の四つの因子を抽出できた。これらの四つの因子の中で、少年院教官が最近大きくなっている保護者の指導力の問題として選択した比率が高い項目を見ると、無関心因子の「子どもの行動に対する責任感がない」が62.5%、「子どもに無関心である」が49.1%であった。すなわち、少年院教官は、最近の保護者の指導力の問題として、無関心、無責任の問題が特に大きくなっていると認識していることがうかがわれる。

家族関係の問題に関する10項目の回答結果に対する因子分析では、交流希薄関係、葛藤関係、引きこもり関係の三つの因子を抽出できた。これらの三つの因子の中で、少年院教官が最近大きくなっている家族関係の問題として選択した比率が高い項目を見ると、交流希薄関係因子の「家族との情緒的交流がない」が64.3%、「非行が家族に与えた影響を理解できない」が37.9%であった。すなわち、少年院教官は、最近の家族関係の問題として、家族間の交流が希薄になっている点が特に大きくなっていると認識していることがうかがわれる。

2 最近の非行少年に対する処遇上の留意点

以下では、本調査だけでなく、非行少年調査及び保護者調査の結果も踏まえながら、最近の非行少年に対する処遇上の留意点についてまとめる。

(1) 人の痛みに対する共感性を育てる処遇

近年、被害者やその親族の心情等について一層の配慮を行うことが求められており、加害者である少年が自らの犯罪と向き合い、犯した罪の大きさや被害者の心情等を認識し、被害者に誠意をもって対応していくことについての指導を一層充実させることが要請されている。しかし、本調査で、少年院教官の多くが指摘した「人に対する思いやりや人の痛みに対する理解力・想像力に欠ける」ような非行少年が増加してきていると思われる状況では、被害者の痛みに関心させ、誠意ある対応を促すことは容易ではないことが予想される。

こうした処遇困難化の背景にある非行少年の資質面の問題性や社会からの要請を考慮すると、加害者である少年が事件を悔い、反省し、償うためには、**人の痛みに対する共感性を育てる処遇**を強化する必要がある。そのためには、まず自らの感情をうまくコントロールしたり、よく考えてから行動する訓練を根気強く重ね、安定した生活を営んでいける力を身に付けさせることが大切である。また、その過程で、指導者との間で信頼感や安心感を形成させ、自らの弱さに目を向けさせ、人との親密なつながりを大切にしようとする気持ちを引き出すことも不可欠である。その上で、人に対する信頼感や思いやり等の暖かい心を回復させるために、自分たちの非行やこれに関連する自らの体験、感情等を見つめ直させ、加害者として人に与えてきた痛みについて考えさせること等に重点を置いた系統的な処遇プログラムを展開していく必要がある。それによって、誠意をもって被害者と向き合い、謝罪等の適切な対応を行うことが可能となろう。

矯正・更生保護の処遇の現場では、被害者の視点を取り入れた教育等の充実強化が従来にも増して強調され、非行を反省させるだけでなく、社会の中で様々な人たちと対話でき、共に生きていけるように、豊かな共感性や自らを振り返る力を育てることを重視し、その上で、被害者の痛みに関心させるために、ロールレタリング等の教育・処遇を展開している。

このように、自らの非行を反省し、被害者への償いができるようになるまでに、まず人に対する信頼感や思いやり等の暖かい心を育てるなど、人としての素地作りの作業をじっくりと行う必要がある非行少年が増えてきていることから、非行少年処遇の困難度が増してきているものとも考えられる。

(2) 集団場面を活用した処遇

少年が健全に成長するために、幼児期及び学童期における親の愛情とともに、集団による遊びの大切さが指摘されている。集団による遊びの中で、楽しみとともに、好奇心、忍耐心、感動、争い等、少年は、多くのことを学び、一步步大人に近づいていくことができる。しかし、遊び場所の減少、電子機器の発達等によって、集団の中での親密な交流等が不足し、発達過程の中で、本来、備えるべき自律性や責任感、向上心等が養われないうまま、狭い生活空間の中に安住しようとする少年が増えているのではないと思われる。

本調査では、最近の非行少年の交友関係の問題として、「対人関係を円滑に結ぶスキルが身に付いていない」と指摘した少年院教官が57.5%と最も多かった。こうした特徴を示す非行少年に対しては、**集団場面を活用した処遇**が有効と考えられる。そこでは、大人が一方通行的に少年を指導するのではなく、少年同士が共通の目標に向け、集団的に行動する中で、互いに価値観、感情をぶつけ合いながら、切磋琢磨し、成長していくことが重視される。少年同士の交流の機会を多く持たせ、多様なかわり合いを実際に体験させることが、彼らの成長を促すことになると思われる。その過程で、自律性や責任感、向上心等を身に付けさせることが重要である。また、こうした多様な人々との交流は、既に述べた、少年の共感性の素地作りのためにも有効と考えられる。

例えば、少年院においては、寮担任の教官に見守られながら、同年齢の少年が集団生活を営み、その中で時にはぶつかり合い、時には助け合いながら、集団で何かをやり遂げることの楽しさ、充実感を日々の生活の中で学んでいる。こうした基礎的な対人関係の在り方を身に付けた上で、不良仲間からの誘いの断り方、職場での会話の仕方等、具体的な対人関係の持ち方をロールプレイング等によって学習するプログラムが展開されている。保護観察所においても、介護活動等の社会参加活動によって、多様な人々の中に入って活動することの喜びを体験させ、社会への帰属感を高める処遇を行っている。こうした教育・処遇によって、社会の一員としての足場が築かれ、不良仲間、不良集団等からのスムーズな離脱が図られるものと考えられる。

(3) 保護者の自発的対応を促す働き掛け

平均世帯人員の減少や共働き世帯の増加等、保護者自身を取り巻く環境が大きく変化してきている。このような中で、父母同士の意思の疎通や地域からの支えが得られないままストレスをため込み、子供の虐待に走ったり、子供の問題行動に対して適切に対処するだけの余裕のない保護者が増えていると指摘されることがある。

非行少年の更生のための**保護者の自発的対応を促す働き掛け**においては、保護者に子育てに対する余裕を取り戻させた上で、保護者調査の結果に見られたような父母の認識の違いを自ら確認させることが、その第一歩になると考えられる。その上で、子供の立ち直りのために何が必要かを共に考えさせていく必要がある。これまでの子育てを父母ともに客観的に振り返らせ、子供との感情交流の場を設けること等によって、親の側の自発的な変化を促していくことが重要である。

例えば、少年院や保護観察所においては、保護者会や保護者のためのグループワーク等、家族関係調整のための取組の強化に努めている。保護者へのこうした働き掛けの中で、子供に対する親の責任や親自身の態度変化の重要性等に気付かせ、保護者の自発的対応を促す契機としている。こうした教育・処遇によって、保護者が子供を適切に受容し、親としての責任を自覚することが、非行少年にとっても、

親との和解を果たし、家庭から巣立っていくために不可欠であろう。

さらに、少年たちは、家族、地域社会の中で成長し、大人になっていくことから、社会の中で、少年が真に更生を果たすためには、ボランティア団体を含めた地域の関係機関・団体が連携し、社会の中で、多様な活動の機会を提供したり、少年たちの居場所作りを一層進める必要がある。被害者との関係においても、加害者である少年の更生と被害者の支援の双方が重要であることを十分に認識した上で、関係機関が連携して地域社会の人々の協力を得ながら、非行少年に対する働き掛けや被害者への支援を一層推し進めていかなければならない。

巻末資料 I

せいしょうねん せいかつ い しき か ち かん かん ちょうさひょう
 青少年の生活意識と価値観に関する調査票

ほうむ そうごうけんきゅうしょ
 法務総合研究所

この調査は、みなさんがどんなことを思ったり、感じたりしているかについて、おたずねするものです。結果は、全体をとりまとめてあつかいますので、名前を記入する必要はありません。どうぞ、ありのままに答えてください。

*まずはじめに、あなたご自身のことについてお聞きします。
 答えは、右側の回答欄に番号を記入して下さい。

F1 あなたの性別は：

1 男 2 女

F1

F2 あなたのいまの年齢は：年齢を数字で記入して下さい。

F2

F3 あなたは、今までに少年鑑別所に何回はいましたか。

1 はじめて 2 2回 3 3回 4 4回以上

F3

F4 あなたは、今までに少年院に何回入りましたか。

0 ない 1 1回 2 2回 3 3回以上

F4

F5 あなたは、今回おもにどんな事件でここ（少年鑑別所）に来たのですか。

1 窃盗 2 傷害・暴行 3 恐喝 4 強盗 5 殺人
 6 強姦・強制わいせつ 7 毒劇物（シンナー） 8 覚せい剤
 9 道路交通法 10 ぐ犯 11 その他 12 わからない

F5

次のページに続く

*次に、家庭や友達、ものごとの考え方や感じ方などについて、お聞きします。
 答えの書き方は、右側の回答欄に、番号を記入するか、または、回答欄に○をつけるかのどちらかです。まちがわないように注意してください。

Q1 あなたは、家庭生活に、どのくらい満足していますか。次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

- 1 満足 2 やや満足 3 どちらとも言えない 4 やや不満 5 不満

* 4 または 5 の答えの人は、次の Q2 の質問に答えてください。

1, 2, 3 の答えの人は、Q3 へ進んでください。

→ Q2 「やや不満」、「不満」とのことですが、それはどういう理由からですか。

次の理由の中で、あてはまるものをいくつでも選び番号の欄に○をつけてください。

- 1 家庭に収入が少くない
- 2 家庭内に争いごとがある
- 3 親の愛情が足りない
- 4 親が自分を理解してくれない
- 5 病人がいる
- 6 きょうだいと気が合わない
- 7 家の周囲の環境が悪い
- 8 家が狭すぎる
- 9 ただなんとなく
- 10 その他

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	

Q3 あなたは家の中で、次（ア～キ）のことを感じたり、思ったりしたことがありますか。次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

ア 家族との話を楽しいと感じることが

- 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

ア

--

イ 家では自分の部屋にひとりでいたいと思うことが

- 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

イ

--

ウ 自分の将来について、親に話したいと思うことが

- 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

ウ

--

エ 自分が何をしても、親があまり気にしないと感じることが

- 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

エ

--

次のページに続く

オ 親^{おや}がきびしすぎると感じる^{かん}ことが

- 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

オ

カ 親^{おや}のいうことは、気^きまぐれであると感じる^{かん}ことが

- 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

カ

キ 親^{おや}が自分^{じぶん}のいいなりになりすぎると感じる^{かん}ことが

- 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

キ

Q4 あなたは友達^{ともだち}づきあいに、どれくらい満足^{まんぞく}していますか。次^{つぎ}の中^{なか}から、ひとつだけ選^{えら}んで番^{ばん}号^{ごう}を記入^{きにゆう}してください。

- 1 満足^{まんぞく} 2 やや満足^{まんぞく} 3 どちらとも言^いえない 4 やや不^ふ満^{まん} 5 不^ふ満^{まん}

* 4 または 5 の答^{こた}えの人^{ひと}は、次^{つぎ}の Q5 の質^{しつもん}問^{もん}に答^{こた}えてください。

1, 2, 3 の答^{こた}えの人^{ひと}は、Q6 に進^{すす}んでください。

→ Q5 「やや不^ふ満^{まん}」, 「不^ふ満^{まん}」とのことですが、それ^{それ}は、どうい^りう理^り由^{ゆう}からですか。

次^{つぎ}の理^り由^{ゆう}の中^{なか}で、あてはまるもの^{もの}を、いくつでも選^{えら}び番^{ばん}号^{ごう}の欄^{らん}に○をつ^つけてください。

- 1 気^きの合^あう友^{とも}達^{だち}がい^いない
- 2 お互^{たが}いに心^{こころ}を打^うち明^あけ合^あうことがで^でき^きない
- 3 自分^{じぶん}よりもほ^{ひと}かの人^{なか}と仲^よ良^よくする
- 4 仲間^{なか}はずれにさ^まれる
- 5 自分^{じぶん}のする^{くち}ことに口^{くち}出^だしして^{して}くる
- 6 グループの中^{なか}のま^まとまりが^{わる}悪^{わる}い
- 7 自分^{じぶん}のこと^{こと}を分^わか^かつて^てくれ^れない
- 8 自分^{じぶん}のい^いうこと^{こと}が通^{とお}ら^らない
- 9 つき合^あって^てい^いても張^はり合^あいが^がなく、自分^{じぶん}が向^{こう}上^{じょう}しな^いい
- 10 自分^{じぶん}に冷^{つめ}たい
- 11 好^すきでも^{でも}ないのにつ^あき合^あわな^なければ^らない
- 12 その他^た

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	

Q6 あなたと、友達との関係について、次の中からあてはまるものを、いくつでも選び番号の欄に○をつけてください。

- 1 悲しいことがあったら話を聞いてもらう
- 2 相手にけっこう気をつけている
- 3 あまり深刻な相談はしない
- 4 つき合っているのは、何か得るものがあるからだ
- 5 お互いに張り合う気持ちがある
- 6 けんかをし合える
- 7 何を言わなくても、分かり合えている
- 8 お互いの性格は裏の裏まで知っている
- 9 自分のすべてをさらけ出すわけではない
- 10 お互い悪いところは悪いと言いつつあえる
- 11 一緒にいるときでも、別々のことをしている

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	

Q7 あなたは、どんな友達が大事だと思いますか。次の中から一番大事だと思う友達のタイプをひとつだけ選んで番号を記入してください。

- 1 いつもそばにいて相手になってくれる人
- 2 他の人にいけないことを聞いてくれる人
- 3 競争相手となって自分を伸ばしてくれる人
- 4 いろいろな情報を教えてくれる人
- 5 困ったときに助けてくれる人
- 6 興味や趣味が似ている人

Q8 あなたにとって、次の質問（ア～エ）にあてはまる人はどんな人ですか。あてはまる人を何人でも選び番号の欄に○をつけてください。

ア あなたが、気楽に話ができると思うのはどの人ですか。

- 1 父親
- 2 母親
- 3 兄弟姉妹
- 4 祖父母（おじいさん・おばあさん）
- 5 親戚の人
- 6 同性の友達・仲間
- 7 異性の友達・恋人
- 8 先輩
- 9 先生
- 10 近所の人
- 11 その他
- 12 誰もいない

ア

1		2		3	
4		5		6	
7		8		9	
10		11		12	

イ あなたが、悩みを打ち明けられると思うのはどの人ですか。

- 1 父親
- 2 母親
- 3 兄弟姉妹
- 4 祖父母（おじいさん・おばあさん）
- 5 親戚の人
- 6 同性の友達・仲間
- 7 異性の友達・恋人
- 8 先輩
- 9 先生
- 10 近所の人
- 11 その他
- 12 誰もいない

イ

1		2		3	
4		5		6	
7		8		9	
10		11		12	

ウ あなたが、「この人から注意されたら言うことを聞く」と思
うのはどの人ですか。

- 1 父親 2 母親 3 兄弟姉妹
4 祖父母（おじいさん・おばあさん）
5 親戚の人 6 同性の友達・仲間
7 異性の友達・恋人 8 先輩 9 先生
10 近所の人 11 その他 12 誰もいない

ウ

1		2		3	
4		5		6	
7		8		9	
10		11		12	

エ あなたが、「こんな人になりたい」と思うのはどんな人物ですか。

- 1 父親 2 母親 3 兄弟姉妹
4 祖父母（おじいさん・おばあさん）
5 親戚の人 6 同性の友達・仲間
7 異性の友達・恋人 8 先輩 9 先生
10 近所の人 11 その他 12 誰もいない

エ

1		2		3	
4		5		6	
7		8		9	
10		11		12	

Q9 あなたが中学生の時、次の（ア～キ）のことが、どれくらいあてはまりましたか。次の中からひ
とつだけ選んで番号を記入してください。

ア 学校に行くのがいやだった

- 1 とてもあてはまる 2 ややあてはまる
3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない

ア

イ 授業中じっとすわっているのがつらかった

- 1 とてもあてはまる 2 ややあてはまる
3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない

イ

ウ 話のわかる先生がたくさんいた

- 1 とてもあてはまる 2 ややあてはまる
3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない

ウ

エ 学校の先生を尊敬していた

- 1 とてもあてはまる 2 ややあてはまる
3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない

エ

オ 先生にペコペコする生徒を見ると腹が立った

- 1 とてもあてはまる 2 ややあてはまる
3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない

オ

次のページに続く

カ ^{がっこうぎょうじ} 学校行事をみんなでやるのがうっとうしかった

- 1 とてもあてはまる 2 ややあてはまる
3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない

カ

キ ^{やす} ^{じかん} 休み時間はみんなと過ごすよりもひとりでいることが多かった

- 1 とてもあてはまる 2 ややあてはまる
3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない

キ

Q10 ^す ^{ちいき} ^{まち} あなたの住んでいる地域や町について、次（ア～オ）のことが、どれくらいあてはまりますか。
^{つぎ} ^{なか} ^{えら} ^{ばんごう} ^{きにゅう} 次の中からひとつだけ選んで番号を記入してください。

ア ^{きんじょ} ^{おとな} ^{ひと} ^{みち} ^あ 近所の大人の人は、道で会ったら、気軽に私に声をかけてくれる

- 1 あてはまる 2 だいたいあてはまる 3 あてはまらない

ア

イ ^{ちいき} ^{なか} 地域の中で、アダルトビデオやエッチな雑誌を買ったり、借りるのは簡単だ

- 1 あてはまる 2 だいたいあてはまる 3 あてはまらない

イ

ウ ^{ちいき} ^{なか} ^{さけ} 地域の中で、酒やタバコを買うのは簡単だ

- 1 あてはまる 2 だいたいあてはまる 3 あてはまらない

ウ

エ ^こ ^あ 子どもがなぐり合いのけんかをしていたら、まわりの人は注意してやめさせるだろう

- 1 あてはまる 2 だいたいあてはまる 3 あてはまらない

エ

オ ^こ ^あ 子どもがなぐり合いのけんかをしていたら、まわりの人は学校や警察に連絡するだろう

- 1 あてはまる 2 だいたいあてはまる 3 あてはまらない

オ

Q11 ^{ひと} ^く ^{かた} 人の暮らし方について、いろいろな考え方がありますが、次（ア～オ）の考え方の中で、あなたはどれを選びますか。一番よいと思うものをひとつだけ選んで番号を記入してください。

- 1 ^{はたら} ^{けんやく} ^{かねも} いっしょうけんめい働き、節約して金持ちになる
2 ^{べんきよう} ^な まじめに勉強して名をあげる
3 ^{かね} ^{めいよ} ^{かんが} ^{じぶん} ^{しゅみ} ^あ ^く ^{かた} 金や名誉を考えずに、自分の趣味に合った暮らし方をする
4 ^ひ ^ひ ^ひ その日その日をのんきに、くよくよしないで暮らす
5 ^よ ^{なか} ^{ただ} ^お ^{きよ} ^{ただ} ^く 世の中の正しくないことを押しのけて、どこまでも清く正しく暮らす。

Q12 あなたは今の社会について、どのくらい満足していますか。次の中からひとつだけ選んで番号を記入してください。

- 1 満足 2 やや満足 3 どちらとも言えない 4 やや不満 5 不満

* 4 または 5 の答えの人は、次の Q13 の質問に答えてください。

1, 2, 3 の答えの人は、Q14 へ進んでください。

→ Q13 「やや不満」、「不満」とのことですが、それはどういう理由からですか。

次の理由の中で、あてはまるものを、いくつでも選び番号の欄に○をつけてください。

- 1 社会のしくみがきまりきっている
- 2 若者の意見は反映されない
- 3 正しいと思うことが通らない
- 4 国民の意見がまとまっていない
- 5 金持ちと貧乏な人との差が大きすぎる
- 6 まじめな者がむくわれない
- 7 人々の考え方や行動が乱れている
- 8 その他

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

Q14 あなたは、次の意見（ア～エ）に賛成ですか。それとも反対ですか。次の中からひとつだけ選んで番号を記入してください。

ア 「ひとつのことに熱中するよりも、いろいろなことをやってみるべきだ」

- 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらとも言えない 4 やや反対 5 反対

ア

イ 「年上や目上の人には従うべきだ」

- 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらとも言えない 4 やや反対 5 反対

イ

ウ 「コツコツ努力するよりは、毎日の生活を楽しくやった方がよい」

- 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらとも言えない 4 やや反対 5 反対

ウ

エ 「自分の意見とちがっていても多数の意見には従うべきだ」

- 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらとも言えない 4 やや反対 5 反対

エ

オ 「自然を守ることも大切だが、生活を便利にする方がもっと大事だ」

- 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらとも言えない 4 やや反対 5 反対

オ

カ 「人のことにはあまり深入りしない方がよい」

- 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらとも言えない 4 やや反対 5 反対

カ

次のページに続く

キ 「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

キ

ク 「世の中は、なるようにしかならないものだ」

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

ク

ケ 「まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人の方が好きだ」

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

ケ

コ 「まわりから何か言われないように、目立たないようにする方がよい」

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

コ

サ 「悪い者をやっつけるためならば、場合によって腕力に訴えてもよい」

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

サ

シ 「世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい」

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

シ

ス 「自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破るのも仕方がないことだ」

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

ス

セ 「義理人情を大切にすべきだ」

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

セ

ソ 「努力するよりも、要領よくふるまう方がよい」

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

ソ

タ 「リーダーになって苦労するよりは、人に従っていた方が気楽でいい」

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

タ

チ 「将来のために現在の楽しみをがまんするのはばかげている」

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

チ

ツ 「自分の命をどうだめにしようと私の勝手だ」

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

ツ

テ 「ボランティア活動などを通じて、世の中のためになることが必要だ」

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

テ

Q15 あなたは、日ごろの生活で、次（ア～シ）のような感じになることがありますか。
次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

ア 世の中には自分しか信じるものがないという感じが

ア

1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

イ 世の中は結局金だけが頼りだという感じが

イ

1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

ウ 心のあたたまる思いが少ないという感じが

ウ

1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

エ 自分の性格がいやになるという感じが

エ

1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

オ 自分は何をやってもだめな人間だという感じが

オ

1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

カ 自分は世の中から取り残されているという感じが

カ

1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

キ 自分だけが悪く思われているという感じが

キ

1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

ク 自分は意志が弱いという感じが

ク

1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

ケ 自分がものごとに打ち込んでいるという感じが

ケ

1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

コ 自分は頼りにされているという感じが

コ

1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

サ 自分の努力がだんだん実ってきているという感じが

サ

1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

シ 世の中の人々は互いに助け合っているという感じが

シ

1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

Q16 あなたは、あなたと同じくらいの年の人について、どう思いますか。次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

ア 今、この場が楽しければそれでよいと思っている人は

- 1 多い 2 やや多い 3 どちらともいえない 4 やや少ない 5 少ない

ア

イ 気に入らないことがあると、カッしたり、落ち込んだりしやすい人は

- 1 多い 2 やや多い 3 どちらともいえない 4 やや少ない 5 少ない

イ

ウ いやなことがあっても、すぐ忘れようとする人は

- 1 多い 2 やや多い 3 どちらともいえない 4 やや少ない 5 少ない

ウ

エ ほかにの人にどう思われているか、気になる人は

- 1 多い 2 やや多い 3 どちらともいえない 4 やや少ない 5 少ない

エ

オ 大切なことであっても、まじめに考えずにごまかしてしまう人は

- 1 多い 2 やや多い 3 どちらともいえない 4 やや少ない 5 少ない

オ

カ 自分がよければ、少しくらい人に迷惑をかけてもかまわないと思っている人は

- 1 多い 2 やや多い 3 どちらともいえない 4 やや少ない 5 少ない

カ

キ いつもだれかと一緒にいたいと思っている人は

- 1 多い 2 やや多い 3 どちらともいえない 4 やや少ない 5 少ない

キ

ク 悪いことだと思っても、仲間と一緒にになるとやってしまう人は

- 1 多い 2 やや多い 3 どちらともいえない 4 やや少ない 5 少ない

ク

ケ 超能力や占いなどを信じる人は

- 1 多い 2 やや多い 3 どちらともいえない 4 やや少ない 5 少ない

ケ

Q17 非行あるいは非行少年について、お聞きします。次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

ア あなたは、少年が非行に走るのには、どこに主な原因があると思いますか。

- 1 少年自身 2 家族(親) 3 友達・仲間 4 その他

ア

イ あなたは、非行少年の扱いについて、次のどちらの意見に賛成ですか。

- 1 厳しく罰する 2 あたたく指導する

イ

Q18 もし、あなたが法律で禁じられているような「悪い」ことをしようと思ったとき、あなたを思いとどまらせる心のブレーキになるのは次のどれですか。次の中からひとつだけ選んで番号を記入してください。

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1 父母のこと | 2 兄弟を含めた家族全体のこと |
| 3 友達から仲間はずれになること | 4 学校や職場に対する迷惑のこと |
| 5 社会からしろい目で見られること | 6 警察につかまること |
| 7 自分で自分がいやになるから | 8 その他 |
| 9 特に心のブレーキになるものはない | |

Q19 これからの生活で、あなたにとって大切と思えるもの3つを選んで番号を記入してください。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 規則正しい生活を送る | 2 お金のむだ使いをしない |
| 3 健全な趣味や遊びをする | 4 学校や仕事を休まずに続ける |
| 5 資格や技術を身につける | 6 知識を身につけ心を豊かにする |
| 7 親の言うことをきく | 8 家族の人と仲良くやっていく |
| 9 悪い友達や先輩とはつき合わない | 10 被害者のために何かお詫びをする |
| 11 地元の人たちの役に立つことをする | 12 保護観察官、保護司とよく相談する |
| 13 もう少し要領よくふるまう | 14 その他 |

Q20 あなたは、今の自分の生き方に、どのくらい満足していますか。次の中からひとつだけ選んで番号を記入してください。

- | | | | | |
|------|--------|-------------|--------|------|
| 1 満足 | 2 やや満足 | 3 どちらとも言えない | 4 やや不満 | 5 不満 |
|------|--------|-------------|--------|------|

ごきょうりやく
御協力 ありがとうございます。

巻末資料Ⅱ 青少年の生活意識と価値観に関する調査票単純集計表

F1 あなたの性別は：

区	分	総 数		2 年 調 査		10 年 調 査		今 回 調 査	
総	数	7,288	(100.0)	2,117	(100.0)	2,274	(100.0)	2,897	(100.0)
男	子	6,252	(85.8)	1,689	(79.8)	2,011	(88.4)	2,552	(88.1)
女	子	1,036	(14.2)	428	(20.2)	263	(11.6)	345	(11.9)

F2 あなたのいまの年齢は：

区	分	総 数		2 年 調 査		10 年 調 査		今 回 調 査	
総	数	7,288	(100.0)	2,117	(100.0)	2,274	(100.0)	2,897	(100.0)
14	歳	553	(7.6)	149	(7.0)	129	(5.7)	275	(9.5)
15	歳	783	(10.7)	212	(10.0)	242	(10.6)	329	(11.4)
16	歳	1,441	(19.8)	369	(17.4)	479	(21.1)	593	(20.5)
17	歳	1,614	(22.1)	504	(23.8)	525	(23.1)	585	(20.2)
18	歳	1,514	(20.8)	463	(21.9)	452	(19.9)	599	(20.7)
19	歳	1,383	(19.0)	420	(19.8)	447	(19.7)	516	(17.8)

F3 あなたは、今までに少年鑑別所に何回はいましたか。(今回調査新設)

区				分	今 回 調 査	
総				数	2,897	(100.0)
は				て	2,065	(71.3)
2				回	572	(19.7)
3				回	168	(5.8)
4				回 以 上	92	(3.2)

F4 あなたは、今までに少年院に何回入りましたか。(今回調査新設)

区	分	今 回 調 査	
総	数	2,897	(100.0)
な	い	2,564	(88.5)
1	回	285	(9.8)
2	回	40	(1.4)
3	回 以 上	8	(0.3)

F5 あなたは、今回おもにどんな事件でここ（少年鑑別所）に来たのですか。

区 分	総 数	2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査
総 数	7,138 (100.0)	2,062 (100.0)	2,273 (100.0)	2,803 (100.0)
窃 盗	2,289 (32.1)	646 (31.3)	588 (25.9)	1,055 (37.6)
傷 害 ・ 暴 行	1,180 (16.5)	253 (12.3)	473 (20.8)	454 (16.2)
恐 喝	543 (7.6)	116 (5.6)	214 (9.4)	213 (7.6)
強 盗	306 (4.3)	44 (2.1)	145 (6.4)	117 (4.2)
殺 人	6 (0.1)	…	…	6 (0.2)
強姦・強制わいせつ	151 (2.1)	44 (2.1)	66 (2.9)	41 (1.5)
毒劇物（シンナー）	410 (5.7)	248 (12.0)	89 (3.9)	73 (2.6)
覚 せ い 剤	291 (4.1)	83 (4.0)	137 (6.0)	71 (2.5)
道 路 交 通 法	1,021 (14.3)	289 (14.0)	351 (15.4)	381 (13.6)
ぐ 犯	323 (4.5)	184 (8.9)	65 (2.9)	74 (2.6)
そ の 他	586 (8.2)	142 (6.9)	135 (5.9)	309 (11.0)
わ か ら な い	32 (0.4)	13 (0.6)	10 (0.4)	9 (0.3)

注 2年調査及び10年調査では、「殺人」は「その他」に含む。

Q1 あなたは、家庭生活に、どのくらい満足していますか。次の中から、ひとつだけ選んで下さい。

区 分	総 数	2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査
総 数	7,240 (100.0)	2,103 (100.0)	2,267 (100.0)	2,870 (100.0)
満 足	2,991 (41.3)	732 (34.8)	914 (40.3)	1,345 (46.9)
やや 満 足	1,918 (26.5)	530 (25.2)	617 (27.2)	771 (26.9)
どちらとも言えない	1,313 (18.1)	489 (23.3)	435 (19.2)	389 (13.6)
やや 不 満	704 (9.7)	229 (10.9)	223 (9.8)	252 (8.8)
不 満	314 (4.3)	123 (5.8)	78 (3.4)	113 (3.9)

Q2（Q1で「やや不満」及び「不満」と回答した者に対してのみの質問）

「やや不満」、「不満」とのことですが、それはどういう理由からですか。次の理由の中で、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。

区 分	総 数	2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査
該 当 者 総 数	1,018 (100.0)	352 (100.0)	301 (100.0)	365 (100.0)
家庭に収入が少ない	316 (31.0)	79 (22.4)	94 (31.2)	143 (39.2)
家庭内に争いごとがある	425 (41.7)	166 (47.2)	118 (39.2)	141 (38.6)
親の愛情が足りない	281 (27.6)	107 (30.4)	79 (26.2)	95 (26.0)
親が自分を理解してくれない	499 (49.0)	189 (53.7)	150 (49.8)	160 (43.8)
病人が いる	90 (8.8)	33 (9.4)	21 (7.0)	36 (9.9)
きょうだいと気が合わない	230 (22.6)	85 (24.1)	66 (21.9)	79 (21.6)
家の周囲の環境が悪い	164 (16.1)	64 (18.2)	45 (15.0)	55 (15.1)
家が狭すぎる	237 (23.3)	96 (27.3)	61 (20.3)	80 (21.9)
ただなんとなく	224 (22.0)	104 (29.5)	65 (21.6)	55 (15.1)
そ の 他	293 (28.8)	114 (32.4)	73 (24.3)	106 (29.0)

Q3 あなたは家の中で、次（ア～キ）のことを感じたり、思ったりしたことがありますか。
次の中から、ひとつだけ選んで下さい。

ア 家族と話をすることが（今回調査は「家族との話を楽しいと感じることが」）

区 分	総 数	2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査
総 数	7,230 (100.0)	2,108 (100.0)	2,260 (100.0)	2,862 (100.0)
よ く あ る	3,705 (51.2)	976 (46.3)	1,257 (55.6)	1,472 (51.4)
と き ど き あ る	2,374 (32.8)	687 (32.6)	639 (28.3)	1,048 (36.6)
あ ま り な い	963 (13.3)	361 (17.1)	325 (14.4)	277 (9.7)
ま っ た く な い	188 (2.6)	84 (4.0)	39 (1.7)	65 (2.3)

イ 家では自分の部屋にひとりであることが（今回調査は「家では自分の部屋にひとりきりでいたいと思うことが」）

区 分	総 数	2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査
総 数	7,224 (100.0)	2,106 (100.0)	2,257 (100.0)	2,861 (100.0)
よ く あ る	2,701 (37.4)	943 (44.8)	991 (43.9)	767 (26.8)
と き ど き あ る	2,187 (30.3)	510 (24.2)	604 (26.8)	1,073 (37.5)
あ ま り な い	1,732 (24.0)	438 (20.8)	480 (21.3)	814 (28.5)
ま っ た く な い	604 (8.4)	215 (10.2)	182 (8.1)	207 (7.2)

ウ 自分の将来について、親に話しかけることが（今回調査は「自分の将来について、親に話したいと思うことが」）

区 分	総 数	2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査
総 数	7,223 (100.0)	2,106 (100.0)	2,258 (100.0)	2,859 (100.0)
よ く あ る	1,517 (21.0)	340 (16.1)	371 (16.4)	806 (28.2)
と き ど き あ る	2,868 (39.7)	767 (36.4)	969 (42.9)	1,132 (39.6)
あ ま り な い	2,045 (28.3)	678 (32.2)	667 (29.5)	700 (24.5)
ま っ た く な い	793 (11.0)	321 (15.2)	251 (11.1)	221 (7.7)

エ 自分が何をしても、親があまり気にしないと感知ることが

区 分	総 数	2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査
総 数	7,214 (100.0)	2,100 (100.0)	2,257 (100.0)	2,857 (100.0)
よ く あ る	426 (5.9)	140 (6.7)	102 (4.5)	184 (6.4)
と き ど き あ る	1,648 (22.8)	546 (26.0)	551 (24.4)	551 (19.3)
あ ま り な い	3,376 (46.8)	941 (44.8)	1,099 (48.7)	1,336 (46.8)
ま っ た く な い	1,764 (24.5)	473 (22.5)	505 (22.4)	786 (27.5)

オ 親がきびしすぎると感知することが

区 分	総 数	2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査
総 数	7,240 (100.0)	2,106 (100.0)	2,259 (100.0)	2,875 (100.0)
よ く あ る	738 (10.2)	238 (11.3)	202 (8.9)	298 (10.4)
と き ど き あ る	2,434 (33.6)	698 (33.1)	753 (33.3)	983 (34.2)
あ ま り な い	3,175 (43.9)	904 (42.9)	1,018 (45.1)	1,253 (43.6)
ま っ た く な い	893 (12.3)	266 (12.6)	286 (12.7)	341 (11.9)

カ 親のいうことは、気まぐれであると感じることが

区	分	総	数	2 年	調 査	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	7,233	(100.0)	2,102	(100.0)	2,259	(100.0)	2,872	(100.0)
よ	く	あ	る	407	(5.6)	145	(6.9)	156	(5.4)
と	き	ど	き	あ	る	1,600	(22.1)	503	(23.9)
あ	ま	り	な	い		490	(21.7)	607	(21.1)
ま	っ	た	く	な	い	3,117	(43.1)	890	(42.3)
						1,035	(45.8)	1,192	(41.5)
						2,109	(29.2)	564	(26.8)
						628	(27.8)	917	(31.9)

キ 親が自分のいいなりになりすぎると感じる事が

区	分	総	数	2 年	調 査	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	7,232	(100.0)	2,101	(100.0)	2,256	(100.0)	2,875	(100.0)
よ	く	あ	る	98	(1.4)	46	(2.2)	28	(1.2)
と	き	ど	き	あ	る	28	(1.2)	24	(0.8)
あ	ま	り	な	い		727	(10.1)	253	(12.0)
ま	っ	た	く	な	い	213	(9.4)	261	(9.1)
						2,964	(41.0)	889	(42.3)
						988	(43.8)	1,087	(37.8)
						3,443	(47.6)	913	(43.5)
						1,027	(45.5)	1,503	(52.3)

Q4 あなたは友達づきあいに、どれくらい満足していますか。次の中から、ひとつだけ選んで下さい。

区	分	総	数	2 年	調 査	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	7,257	(100.0)	2,107	(100.0)	2,268	(100.0)	2,882	(100.0)
満	足	3,307	(45.6)	874	(41.5)	1,042	(45.9)	1,391	(48.3)
や	や	満	足	2,063	(28.4)	606	(28.8)	636	(28.0)
ど	ち	ら	と	も	言	え	な	い	
や	や	不	満	1,228	(16.9)	409	(19.4)	412	(18.2)
不	満	468	(6.4)	144	(6.8)	129	(5.7)	195	(6.8)
		191	(2.6)	74	(3.5)	49	(2.2)	68	(2.4)

Q5 (Q4で「やや不満」及び「不満」と回答した者に対してのみの質問)

「やや不満」、「不満」とのことですが、それは、どういう理由からですか。次の理由の中で、あてはまるものを、いくつでも選んで下さい。

区 分	総 数	2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査
該 当 者 総 数	659 (100.0)	218 (100.0)	178 (100.0)	263 (100.0)
気の合う友達がいらない	286 (43.4)	108 (49.5)	77 (43.3)	101 (38.4)
お互いに心を打ち明け合うことができない	353 (53.6)	109 (50.0)	106 (59.6)	138 (52.5)
自分よりもほかの人と仲良くする	168 (25.5)	52 (23.9)	47 (26.4)	69 (26.2)
仲間はずれにされる	129 (19.6)	38 (17.4)	42 (23.6)	49 (18.6)
自分のすることに口出ししてくる	158 (24.0)	56 (25.7)	40 (22.5)	62 (23.6)
グループの中のまとまりが悪い	237 (36.0)	84 (38.5)	70 (39.3)	83 (31.6)
自分のことを分かってくれない	202 (30.7)	61 (28.0)	61 (34.3)	80 (30.4)
自分のいうことが通らない	152 (23.1)	49 (22.5)	49 (27.5)	54 (20.5)
つき合っているのに張り合いがなく、自分が向上しない	269 (40.8)	95 (43.6)	82 (46.1)	92 (35.0)
自 分 に 冷 た い	104 (15.8)	31 (14.2)	33 (18.5)	40 (15.2)
好きでもないのにつき合わなければならない	269 (40.8)	80 (36.7)	77 (43.3)	112 (42.6)
そ の 他	227 (34.4)	80 (36.7)	51 (28.7)	96 (36.5)

Q6 あなたと、友達との関係について、次の中からあてはまるものを、いくつでも選んで下さい。

区 分	総 数	2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査
調 査 対 象 者 総 数	7,288 (100.0)	2,117 (100.0)	2,274 (100.0)	2,897 (100.0)
悲しいことがあったら話を聞いてもらう	5,368 (73.7)	1,475 (69.7)	1,725 (75.9)	2,168 (74.8)
相手にけっこう気をつけている	2,674 (36.7)	687 (32.5)	886 (39.0)	1,101 (38.0)
あまり深刻な相談はしない	1,975 (27.1)	562 (26.5)	604 (26.6)	809 (27.9)
つき合っているのは、何か得るものがあるからだ	1,927 (26.4)	406 (19.2)	543 (23.9)	978 (33.8)
お互いに張り合う気持ちがある	2,536 (34.8)	683 (32.3)	822 (36.1)	1,031 (35.6)
けんかをし合える	3,006 (41.2)	717 (33.9)	897 (39.4)	1,392 (48.0)
何も言わなくても、分かり合えている	3,233 (44.4)	856 (40.4)	959 (42.2)	1,418 (48.9)
お互いの性格は裏の裏まで知っている	3,359 (46.1)	987 (46.6)	976 (42.9)	1,396 (48.2)
自分のすべてをさらけ出すわけではない	1,936 (26.6)	463 (21.9)	665 (29.2)	808 (27.9)
お互いに悪いところは悪いと言いつける	4,722 (64.8)	1,217 (57.5)	1,509 (66.4)	1,996 (68.9)
一緒にいるときでも、別々のことをしている	1,579 (21.7)	359 (17.0)	496 (21.8)	724 (25.0)

Q7 あなたは、どんな友達が大事だと思いますか。次の中から一番大事だと思う友達のタイプをひとつだけ選んで下さい。

区 分	総 数	2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査
総 数	7,226 (100.0)	2,107 (100.0)	2,262 (100.0)	2,857 (100.0)
いつもそばにいて相手に なってくれる人	841 (11.6)	210 (10.0)	240 (10.6)	391 (13.7)
他の人にいえないことを 聞いてくれる人	1,712 (23.7)	591 (28.0)	534 (23.6)	587 (20.5)
競争相手となって自分を 伸ばしてくれる人	1,242 (17.2)	401 (19.0)	371 (16.4)	470 (16.5)
いろいろな情報を教えて くれる人	89 (1.2)	32 (1.5)	13 (0.6)	44 (1.5)
困ったときに助けてくれ る人	2,952 (40.9)	804 (38.2)	976 (43.1)	1,172 (41.0)
興味や趣味が似ている人	390 (5.4)	69 (3.3)	128 (5.7)	193 (6.8)

Q8 あなたにとって、次の質問（ア～エ）にあてはまる人はどんな人ですか。あてはまる人を何人でも選んで下さい。

ア あなたが、気楽に話ができると思うのはどの人ですか。

区 分	総 数	2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査
調 査 対 象 者 総 数	7,288 (100.0)	2,117 (100.0)	2,274 (100.0)	2,897 (100.0)
父 親	3,052 (41.9)	787 (37.2)	969 (42.6)	1,296 (44.7)
母 親	5,139 (70.5)	1,367 (64.6)	1,625 (71.5)	2,147 (74.1)
兄 弟 姉 妹	4,451 (61.1)	1,198 (56.6)	1,449 (63.7)	1,804 (62.3)
祖 父 母	1,992 (27.3)	454 (21.4)	624 (27.4)	914 (31.5)
親 戚 の 人	1,472 (20.2)	404 (19.1)	454 (20.0)	614 (21.2)
同 性 の 友 達 ・ 仲 間	6,347 (87.1)	1,826 (86.3)	2,018 (88.7)	2,503 (86.4)
異 性 の 友 達 ・ 恋 人	5,836 (80.1)	1,698 (80.2)	1,834 (80.7)	2,304 (79.5)
先 輩	2,892 (39.7)	885 (41.8)	965 (42.4)	1,042 (36.0)
先 生	1,442 (19.8)	298 (14.1)	455 (20.0)	689 (23.8)
近 所 の 人	574 (7.9)	144 (6.8)	198 (8.7)	232 (8.0)
そ の 他	572 (7.8)	206 (9.7)	150 (6.6)	216 (7.5)
誰 も い な い	59 (0.8)	27 (1.3)	10 (0.4)	22 (0.8)

イ あなたが、悩みを打ち明けられると思うのはどの人ですか。

区 分	総 数	2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査
調 査 対 象 者 総 数	7,288 (100.0)	2,117 (100.0)	2,274 (100.0)	2,897 (100.0)
父 親	1,649 (22.6)	414 (19.6)	461 (20.3)	774 (26.7)
母 親	3,158 (43.3)	789 (37.3)	911 (40.1)	1,458 (50.3)
兄 弟 姉 妹	2,246 (30.8)	581 (27.4)	652 (28.7)	1,013 (35.0)
祖 父 母	679 (9.3)	136 (6.4)	149 (6.6)	394 (13.6)
親 戚 の 人	494 (6.8)	147 (6.9)	121 (5.3)	226 (7.8)
同 性 の 友 達 ・ 仲 間	5,611 (77.0)	1,595 (75.3)	1,793 (78.8)	2,223 (76.7)
異 性 の 友 達 ・ 恋 人	4,942 (67.8)	1,406 (66.4)	1,535 (67.5)	2,001 (69.1)
先 輩	1,877 (25.8)	557 (26.3)	578 (25.4)	742 (25.6)
先 生	745 (10.2)	156 (7.4)	209 (9.2)	380 (13.1)
近 所 の 人	81 (1.1)	18 (0.9)	22 (1.0)	41 (1.4)
そ の 他	384 (5.3)	141 (6.7)	95 (4.2)	148 (5.1)
誰 も い な い	207 (2.8)	74 (3.5)	63 (2.8)	70 (2.4)

ウ あなたが、「この人から注意されたら言うことを聞く」と思うのは、どの人ですか。

区 分	総 数	2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査
調 査 対 象 者 総 数	7,288 (100.0)	2,117 (100.0)	2,274 (100.0)	2,897 (100.0)
父 親	3,588 (49.2)	920 (43.5)	1,135 (49.9)	1,533 (52.9)
母 親	3,764 (51.6)	948 (44.8)	1,147 (50.4)	1,669 (57.6)
兄 弟 姉 妹	2,005 (27.5)	530 (25.0)	632 (27.8)	843 (29.1)
祖 父 母	2,066 (28.3)	504 (23.8)	610 (26.8)	952 (32.9)
親 戚 の 人	1,585 (21.7)	445 (21.0)	476 (20.9)	664 (22.9)
同 性 の 友 達 ・ 仲 間	3,607 (49.5)	927 (43.8)	1,174 (51.6)	1,506 (52.0)
異 性 の 友 達 ・ 恋 人	4,805 (65.9)	1,395 (65.9)	1,472 (64.7)	1,938 (66.9)
先 輩	3,385 (46.4)	848 (40.1)	1,093 (48.1)	1,444 (49.8)
先 生	1,652 (22.7)	355 (16.8)	511 (22.5)	786 (27.1)
近 所 の 人	622 (8.5)	143 (6.8)	176 (7.7)	303 (10.5)
そ の 他	540 (7.4)	195 (9.2)	140 (6.2)	205 (7.1)
誰 も い な い	202 (2.8)	88 (4.2)	44 (1.9)	70 (2.4)

エ あなたが、「こんな人になりたい」と思うのはどんな人物ですか。

区 分	総 数	2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査
調 査 対 象 者 総 数	7,288 (100.0)	2,117 (100.0)	2,274 (100.0)	2,897 (100.0)
父 親	2,880 (39.5)	755 (35.7)	884 (38.9)	1,241 (42.8)
母 親	2,077 (28.5)	498 (23.5)	548 (24.1)	1,031 (35.6)
兄 弟 姉 妹	919 (12.6)	227 (10.7)	300 (13.2)	392 (13.5)
祖 父 母	759 (10.4)	178 (8.4)	185 (8.1)	396 (13.7)
親 戚 の 人	619 (8.5)	190 (9.0)	186 (8.2)	243 (8.4)
同 性 の 友 達 ・ 仲 間	1,379 (18.9)	375 (17.7)	424 (18.6)	580 (20.0)
異 性 の 友 達 ・ 恋 人	770 (10.6)	252 (11.9)	225 (9.9)	293 (10.1)
先 輩	1,857 (25.5)	502 (23.7)	589 (25.9)	766 (26.4)
先 生	754 (10.3)	218 (10.3)	207 (9.1)	329 (11.4)
近 所 の 人	145 (2.0)	50 (2.4)	37 (1.6)	58 (2.0)
そ の 他	1,065 (14.6)	369 (17.4)	309 (13.6)	387 (13.4)
誰 も い な い	1,060 (14.5)	354 (16.7)	347 (15.3)	359 (12.4)

Q9 あなたが中学生の時、次の（ア～キ）のことが、どれくらいあてはまりましたか。
次の中からひとつだけ選んで下さい。（今回調査新設）

ア 学校に行くのがいやだった

区	分	今	回	調	査
総	数	2,877		(100.0)	
とてもあてはまる		442		(15.4)	
ややあてはまる		909		(31.6)	
あまりあてはまらない		782		(27.2)	
まったくあてはまらない		744		(25.9)	

イ 授業中じっとすわっているのがつらかった

区	分	今	回	調	査
総	数	2,879		(100.0)	
とてもあてはまる		884		(30.7)	
ややあてはまる		1,073		(37.3)	
あまりあてはまらない		588		(20.4)	
まったくあてはまらない		334		(11.6)	

ウ 話のわかる先生がたくさんいた

区	分	今	回	調	査
総	数	2,878		(100.0)	
とてもあてはまる		436		(15.1)	
ややあてはまる		972		(33.8)	
あまりあてはまらない		1,007		(35.0)	
まったくあてはまらない		463		(16.1)	

エ 学校の先生を尊敬していた

区	分	今	回	調	査
総	数	2,877		(100.0)	
とてもあてはまる		224		(7.8)	
ややあてはまる		681		(23.7)	
あまりあてはまらない		955		(33.2)	
まったくあてはまらない		1,017		(35.3)	

オ 先生にペコペコする生徒をみると腹が立った

区	分	今	回	調	査
総	数	2,877		(100.0)	
とてもあてはまる		448		(15.6)	
ややあてはまる		580		(20.2)	
あまりあてはまらない		886		(30.8)	
まったくあてはまらない		963		(33.5)	

カ 学校行事をみんなでやるのがうっとうしかった

区	分	今 回	調 査
総	数	2,863	(100.0)
とてもあてはまる		238	(8.3)
ややあてはまる		446	(15.6)
あまりあてはまらない		861	(30.1)
まったくあてはまらない		1,318	(46.0)

キ 休み時間はみんなと過ごすよりもひとりでいることが多かった

区	分	今 回	調 査
総	数	2,861	(100.0)
とてもあてはまる		167	(5.8)
ややあてはまる		182	(6.4)
あまりあてはまらない		496	(17.3)
まったくあてはまらない		2,016	(70.5)

**Q10 あなたの住んでいる地域や町について、次（ア～オ）のことが、どれくらいあてはまりますか。
次の中からひとつだけ選んで下さい。（今回調査新設）**

ア 近所の大人の人は、道で会ったら、気軽に私に声をかけてくれる

区	分	今 回	調 査
総	数	2,864	(100.0)
あてはまる		1,028	(35.9)
だいたいあてはまる		1,049	(36.6)
あてはまらない		787	(27.5)

イ 地域の中で、アダルトビデオやエッチな雑誌を買ったり、借りるのは簡単だ

区	分	今 回	調 査
総	数	2,858	(100.0)
あてはまる		888	(31.1)
だいたいあてはまる		788	(27.6)
あてはまらない		1,182	(41.4)

ウ 地域の中で、酒やタバコを買うのは簡単だ

区	分	今 回	調 査
総	数	2,864	(100.0)
あてはまる		1,777	(62.0)
だいたいあてはまる		799	(27.9)
あてはまらない		288	(10.1)

エ 子どもがなぐり合いのけんかをしていたら、まわりの人は注意してやめさせるだろう

区	分	今 回 調 査	
総	数	2,860	(100.0)
あ て は ま る		1,339	(46.8)
だいたいあてはまる		1,038	(36.3)
あ て は ま ら な い		483	(16.9)

オ 子どもがなぐり合いのけんかをしていたら、まわりの人は学校や警察に連絡するだろう

区	分	今 回 調 査	
総	数	2,860	(100.0)
あ て は ま る		1,124	(39.3)
だいたいあてはまる		1,123	(39.3)
あ て は ま ら な い		613	(21.4)

Q11 人の暮らし方について、いろいろな考え方がありますが、次の考え方の中で、あなたはどれを選びますか。一番よいと思うものをひとつだけ選んで下さい。

区	分	総 数		2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査	
総	数	7,202	(100.0)	2,111	(100.0)	2,238	(100.0)
いっしょうけんめい働き、 節約して金持ちになる		2,639	(36.6)	754	(35.7)	691	(30.9)
まじめに勉強して名をあげる		136	(1.9)	25	(1.2)	39	(1.7)
金や名誉を考えずに、自 分の趣味に合った暮らし 方をする		3,164	(43.9)	921	(43.6)	1,098	(49.1)
その日その日をのんきに、 くよくよしないで暮らす		747	(10.4)	242	(11.5)	244	(10.9)
世の中の正しくないこと を押しつけて、どこまで も清く正しく暮らす		516	(7.2)	169	(8.0)	166	(7.4)

Q12 あなたは今の社会について、どのくらい満足していますか。次の中からひとつだけ選んで下さい。

区	分	総 数		2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査	
総	数	7,204	(100.0)	2,093	(100.0)	2,251	(100.0)
満	足	860	(11.9)	270	(12.9)	284	(12.6)
や や 満	足	1,599	(22.2)	479	(22.9)	456	(20.3)
どちらとも言えない		3,065	(42.5)	894	(42.7)	963	(42.8)
や や 不	満	1,079	(15.0)	268	(12.8)	354	(15.7)
不	満	601	(8.3)	182	(8.7)	194	(8.6)

Q13 (Q12で「やや不満」及び「不満」と回答した者に対してのみの質問)

「やや不満」、「不満」とのことですが、それはどういう理由からですか。次の理由の中で、あてはまるものを、いくつでも選んで下さい。

区 分	総 数	2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査
該 当 者 総 数	1,680 (100.0)	450 (100.0)	548 (100.0)	682 (100.0)
社会のしくみがきまり きっている	796 (47.4)	221 (49.1)	286 (52.2)	289 (42.4)
若者の意見は反映されな い	1,036 (61.7)	265 (58.9)	345 (63.0)	426 (62.5)
正しいと思うことが通ら ない	917 (54.6)	220 (48.9)	306 (55.8)	391 (57.3)
国民の意見がまとまって いない	601 (35.8)	134 (29.8)	183 (33.4)	284 (41.6)
金持ちと貧乏な人との差 が大きすぎる	1,136 (67.6)	303 (67.3)	332 (60.6)	501 (73.5)
まじめな者がむくわれな い	498 (29.6)	126 (28.0)	171 (31.2)	201 (29.5)
人々の考え方や行動が乱 れている	790 (47.0)	205 (45.6)	241 (44.0)	344 (50.4)
そ の 他	557 (33.2)	170 (37.8)	165 (30.1)	222 (32.6)

Q14 あなたは、次の意見（ア～テ）に賛成ですか。それとも反対ですか。次の中からひとつだけ選んで下さい。

ア 「ひとつのことに熱中するよりも、いろいろなことをやってみるべきだ」

区 分	総 数	2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査
総 数	7,250 (100.0)	2,113 (100.0)	2,267 (100.0)	2,870 (100.0)
賛 成	2,237 (30.9)	760 (36.0)	688 (30.3)	789 (27.5)
や や 賛 成	2,282 (31.5)	626 (29.6)	683 (30.1)	973 (33.9)
どちらともいえない	1,846 (25.5)	507 (24.0)	614 (27.1)	725 (25.3)
や や 反 対	563 (7.8)	128 (6.1)	186 (8.2)	249 (8.7)
反 対	322 (4.4)	92 (4.4)	96 (4.2)	134 (4.7)

イ 「年上や目上の人には従うべきだ」

区 分	総 数	2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査
総 数	7,248 (100.0)	2,114 (100.0)	2,267 (100.0)	2,867 (100.0)
賛 成	1,016 (14.0)	304 (14.4)	279 (12.3)	433 (15.1)
や や 賛 成	2,247 (31.0)	616 (29.1)	663 (29.2)	968 (33.8)
どちらともいえない	2,376 (32.8)	781 (36.9)	747 (33.0)	848 (29.6)
や や 反 対	963 (13.3)	241 (11.4)	328 (14.5)	394 (13.7)
反 対	646 (8.9)	172 (8.1)	250 (11.0)	224 (7.8)

ウ 「コツコツ努力するよりは、毎日の生活を楽しくやった方がよい」

区	分	総	数	2 年	調 査	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	7,247	(100.0)	2,114	(100.0)	2,265	(100.0)	2,868	(100.0)
賛	成	1,341	(18.5)	466	(22.0)	392	(17.3)	483	(16.8)
や や 賛	成	1,439	(19.9)	408	(19.3)	456	(20.1)	575	(20.0)
どちらともいえない		2,217	(30.6)	632	(29.9)	714	(31.5)	871	(30.4)
や や 反	対	1,516	(20.9)	397	(18.8)	475	(21.0)	644	(22.5)
反	対	734	(10.1)	211	(10.0)	228	(10.1)	295	(10.3)

エ 「自分の意見とちがっていても多数の意見には従うべきだ」

区	分	総	数	2 年	調 査	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	7,247	(100.0)	2,113	(100.0)	2,267	(100.0)	2,867	(100.0)
賛	成	587	(8.1)	187	(8.8)	143	(6.3)	257	(9.0)
や や 賛	成	1,453	(20.0)	400	(18.9)	375	(16.5)	678	(23.6)
どちらともいえない		2,430	(33.5)	724	(34.3)	802	(35.4)	904	(31.5)
や や 反	対	1,569	(21.7)	433	(20.5)	526	(23.2)	610	(21.3)
反	対	1,208	(16.7)	369	(17.5)	421	(18.6)	418	(14.6)

オ 「自然を守ることも大切だが、生活を便利にする方がもっと大事だ」

区	分	総	数	2 年	調 査	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	7,236	(100.0)	2,111	(100.0)	2,258	(100.0)	2,867	(100.0)
賛	成	671	(9.3)	241	(11.4)	176	(7.8)	254	(8.9)
や や 賛	成	1,118	(15.5)	340	(16.1)	320	(14.2)	458	(16.0)
どちらともいえない		2,729	(37.7)	832	(39.4)	859	(38.0)	1,038	(36.2)
や や 反	対	1,655	(22.9)	389	(18.4)	555	(24.6)	711	(24.8)
反	対	1,063	(14.7)	309	(14.6)	348	(15.4)	406	(14.2)

カ 「人のことにはあまり深入りしない方がよい」

区	分	総	数	2 年	調 査	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	7,237	(100.0)	2,114	(100.0)	2,257	(100.0)	2,866	(100.0)
賛	成	1,316	(18.2)	425	(20.1)	373	(16.5)	518	(18.1)
や や 賛	成	2,083	(28.8)	557	(26.3)	673	(29.8)	853	(29.8)
どちらともいえない		2,751	(38.0)	844	(39.9)	885	(39.2)	1,022	(35.7)
や や 反	対	818	(11.3)	215	(10.2)	256	(11.3)	347	(12.1)
反	対	269	(3.7)	73	(3.5)	70	(3.1)	126	(4.4)

キ 「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」

区	分	総	数	2 年	調 査	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	7,221	(100.0)	2,114	(100.0)	2,257	(100.0)	2,850	(100.0)
賛	成	2,578	(35.7)	944	(44.7)	705	(31.2)	929	(32.6)
や や 賛	成	1,612	(22.3)	470	(22.2)	484	(21.4)	658	(23.1)
どちらともいえない		1,787	(24.7)	456	(21.6)	640	(28.4)	691	(24.2)
や や 反	対	678	(9.4)	136	(6.4)	241	(10.7)	301	(10.6)
反	対	566	(7.8)	108	(5.1)	187	(8.3)	271	(9.5)

ク 「世の中は、なるようにしかならないものだ」

区	分	総	数	2 年	調 査	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	7,215	(100.0)	2,113	(100.0)	2,256	(100.0)	2,846	(100.0)
賛	成	1,138	(15.8)	367	(17.4)	308	(13.7)	463	(16.3)
や や 賛	成	1,299	(18.0)	364	(17.2)	342	(15.2)	593	(20.8)
どちらともいえない		2,563	(35.5)	781	(37.0)	834	(37.0)	948	(33.3)
や や 反 対		1,171	(16.2)	280	(13.3)	415	(18.4)	476	(16.7)
反 対		1,044	(14.5)	321	(15.2)	357	(15.8)	366	(12.9)

ケ 「まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人の方が好きだ」

区	分	総	数	2 年	調 査	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	7,219	(100.0)	2,114	(100.0)	2,258	(100.0)	2,847	(100.0)
賛	成	2,966	(41.1)	1,137	(53.8)	1,007	(44.6)	822	(28.9)
や や 賛	成	1,988	(27.5)	538	(25.4)	613	(27.1)	837	(29.4)
どちらともいえない		1,740	(24.1)	358	(16.9)	512	(22.7)	870	(30.6)
や や 反 対		306	(4.2)	42	(2.0)	71	(3.1)	193	(6.8)
反 対		219	(3.0)	39	(1.8)	55	(2.4)	125	(4.4)

コ 「まわりから何か言われないうに、目立たないようにする方がよい」

区	分	総	数	2 年	調 査	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	7,220	(100.0)	2,113	(100.0)	2,257	(100.0)	2,850	(100.0)
賛	成	484	(6.7)	162	(7.7)	140	(6.2)	182	(6.4)
や や 賛	成	882	(12.2)	241	(11.4)	246	(10.9)	395	(13.9)
どちらともいえない		2,545	(35.2)	856	(40.5)	763	(33.8)	926	(32.5)
や や 反 対		1,772	(24.5)	431	(20.4)	588	(26.1)	753	(26.4)
反 対		1,537	(21.3)	423	(20.0)	520	(23.0)	594	(20.8)

サ 「悪い者をやっつけるためならば、場合によって腕力に訴えてもよい」

区	分	総	数	2 年	調 査	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	7,214	(100.0)	2,113	(100.0)	2,257	(100.0)	2,844	(100.0)
賛	成	1,694	(23.5)	693	(32.8)	456	(20.2)	545	(19.2)
や や 賛	成	1,880	(26.1)	588	(27.8)	567	(25.1)	725	(25.5)
どちらともいえない		2,156	(29.9)	589	(27.9)	718	(31.8)	849	(29.9)
や や 反 対		825	(11.4)	140	(6.6)	279	(12.4)	406	(14.3)
反 対		659	(9.1)	103	(4.9)	237	(10.5)	319	(11.2)

シ 「世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい」

区	分	総	数	2 年	調 査	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	7,221	(100.0)	2,114	(100.0)	2,258	(100.0)	2,849	(100.0)
賛	成	953	(13.2)	280	(13.2)	317	(14.0)	356	(12.5)
や や 賛	成	1,523	(21.1)	365	(17.3)	509	(22.5)	649	(22.8)
どちらともいえない		2,323	(32.2)	740	(35.0)	718	(31.8)	865	(30.4)
や や 反 対		1,580	(21.9)	451	(21.3)	460	(20.4)	669	(23.5)
反 対		842	(11.7)	278	(13.2)	254	(11.2)	310	(10.9)

ス 「自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破るのも仕方がないことだ」

区	分	総	数	2 年	調 査	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	7,223	(100.0)	2,115	(100.0)	2,258	(100.0)	2,850	(100.0)
賛	成	419	(5.8)	153	(7.2)	133	(5.9)	133	(4.7)
や や 賛	成	703	(9.7)	187	(8.8)	237	(10.5)	279	(9.8)
どちらともいえない		1,792	(24.8)	541	(25.6)	556	(24.6)	695	(24.4)
や や 反 対		2,014	(27.9)	558	(26.4)	589	(26.1)	867	(30.4)
反	対	2,295	(31.8)	676	(32.0)	743	(32.9)	876	(30.7)

セ 「義理人情を大切にすべきだ」

区	分	総	数	2 年	調 査	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	7,195	(100.0)	2,113	(100.0)	2,252	(100.0)	2,830	(100.0)
賛	成	2,909	(40.4)	959	(45.4)	829	(36.8)	1,121	(39.6)
や や 賛	成	1,979	(27.5)	601	(28.4)	641	(28.5)	737	(26.0)
どちらともいえない		2,020	(28.1)	483	(22.9)	700	(31.1)	837	(29.6)
や や 反 対		184	(2.6)	48	(2.3)	51	(2.3)	85	(3.0)
反	対	103	(1.4)	22	(1.0)	31	(1.4)	50	(1.8)

ソ 「努力するよりも、要領よくふるまう方がよい」

区	分	総	数	2 年	調 査	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	7,217	(100.0)	2,115	(100.0)	2,258	(100.0)	2,844	(100.0)
賛	成	557	(7.7)	189	(8.9)	149	(6.6)	219	(7.7)
や や 賛	成	1,322	(18.3)	385	(18.2)	376	(16.7)	561	(19.7)
どちらともいえない		2,802	(38.8)	800	(37.8)	936	(41.5)	1,066	(37.5)
や や 反 対		1,616	(22.4)	430	(20.3)	524	(23.2)	662	(23.3)
反	対	920	(12.7)	311	(14.7)	273	(12.1)	336	(11.8)

タ 「リーダーになって苦労するよりは、人に従っていた方が気楽でいい」

区	分	総	数	2 年	調 査	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	7,216	(100.0)	2,113	(100.0)	2,258	(100.0)	2,845	(100.0)
賛	成	483	(6.7)	128	(6.1)	131	(5.8)	224	(7.9)
や や 賛	成	957	(13.3)	245	(11.6)	260	(11.5)	452	(15.9)
どちらともいえない		2,279	(31.6)	783	(37.1)	706	(31.3)	790	(27.8)
や や 反 対		1,760	(24.4)	461	(21.8)	597	(26.4)	702	(24.7)
反	対	1,737	(24.1)	496	(23.5)	564	(25.0)	677	(23.8)

チ 「将来のために現在の楽しみをがまんするのはばかげている」

区	分	総	数	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	5,103	(100.0)	2,257	(100.0)	2,846	(100.0)
賛	成	621	(12.2)	304	(13.5)	317	(11.1)
や や 賛	成	864	(16.9)	410	(18.2)	454	(16.0)
どちらともいえない		1,595	(31.3)	756	(33.5)	839	(29.5)
や や 反 対		1,187	(23.3)	477	(21.1)	710	(24.9)
反	対	836	(16.4)	310	(13.7)	526	(18.5)

ツ 「自分の命をどうだめにしようと私の勝手だ」

区	分	総	数	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	5,103	(100.0)	2,257	(100.0)	2,846	(100.0)
賛	成	432	(8.5)	190	(8.4)	242	(8.5)
や や 賛	成	392	(7.7)	184	(8.2)	208	(7.3)
どちらともいえない		731	(14.3)	379	(16.8)	352	(12.4)
や や 反	対	1,015	(19.9)	484	(21.4)	531	(18.7)
反	対	2,533	(49.6)	1,020	(45.2)	1,513	(53.2)

テ 「ボランティア活動などを通じて、世の中のためになることが必要だ」

区	分	総	数	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	5,103	(100.0)	2,258	(100.0)	2,845	(100.0)
賛	成	2,212	(43.3)	913	(40.4)	1,299	(45.7)
や や 賛	成	1,743	(34.2)	765	(33.9)	978	(34.4)
どちらともいえない		943	(18.5)	480	(21.3)	463	(16.3)
や や 反	対	115	(2.3)	59	(2.6)	56	(2.0)
反	対	90	(1.8)	41	(1.8)	49	(1.7)

Q15 あなたは、日ごろの生活で、次（ア～シ）のような感じになることがありますか。

次の中から、ひとつだけ選んで下さい。

ア 世の中には自分しか信じるものがないという感じが

区	分	総	数	2 年	調 査	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	7,247	(100.0)	2,115	(100.0)	2,260	(100.0)	2,872	(100.0)
よ く あ る		589	(8.1)	229	(10.8)	187	(8.3)	173	(6.0)
と き ど き あ る		2,182	(30.1)	701	(33.1)	727	(32.2)	754	(26.3)
あ ま り な い		2,784	(38.4)	800	(37.8)	845	(37.4)	1,139	(39.7)
ま っ た く な い		1,692	(23.3)	385	(18.2)	501	(22.2)	806	(28.1)

イ 世の中は結局金だけが頼りだという感じが

区	分	総	数	2 年	調 査	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	7,250	(100.0)	2,115	(100.0)	2,260	(100.0)	2,875	(100.0)
よ く あ る		1,595	(22.0)	595	(28.1)	442	(19.6)	558	(19.4)
と き ど き あ る		3,245	(44.8)	988	(46.7)	1,039	(46.0)	1,218	(42.4)
あ ま り な い		1,633	(22.5)	385	(18.2)	579	(25.6)	669	(23.3)
ま っ た く な い		777	(10.7)	147	(7.0)	200	(8.8)	430	(15.0)

ウ 心のあたたまる思いが少ないという感じが

区	分	総	数	2 年	調 査	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	7,244	(100.0)	2,113	(100.0)	2,261	(100.0)	2,870	(100.0)
よ く あ る		752	(10.4)	288	(13.6)	218	(9.6)	246	(8.6)
と き ど き あ る		2,573	(35.5)	881	(41.7)	801	(35.4)	891	(31.0)
あ ま り な い		3,093	(42.7)	817	(38.7)	1,018	(45.0)	1,258	(43.8)
ま っ た く な い		826	(11.4)	127	(6.0)	224	(9.9)	475	(16.6)

エ 自分の性格がいやになるという感じが

区 分	総 数	2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査
総 数	7,250 (100.0)	2,116 (100.0)	2,259 (100.0)	2,875 (100.0)
よ く あ る	1,755 (24.2)	550 (26.0)	498 (22.0)	707 (24.6)
と き ど き あ る	3,523 (48.6)	1,022 (48.3)	1,124 (49.8)	1,377 (47.9)
あ ま り な い	1,425 (19.7)	412 (19.5)	456 (20.2)	557 (19.4)
ま っ た く な い	547 (7.5)	132 (6.2)	181 (8.0)	234 (8.1)

オ 自分は何をやってもだめな人間だという感じが

区 分	総 数	2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査
総 数	7,249 (100.0)	2,115 (100.0)	2,260 (100.0)	2,874 (100.0)
よ く あ る	979 (13.5)	348 (16.5)	239 (10.6)	392 (13.6)
と き ど き あ る	2,951 (40.7)	875 (41.4)	934 (41.3)	1,142 (39.7)
あ ま り な い	2,385 (32.9)	678 (32.1)	767 (33.9)	940 (32.7)
ま っ た く な い	934 (12.9)	214 (10.1)	320 (14.2)	400 (13.9)

カ 自分は世の中から取り残されているという感じが

区 分	総 数	2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査
総 数	7,245 (100.0)	2,115 (100.0)	2,259 (100.0)	2,871 (100.0)
よ く あ る	698 (9.6)	248 (11.7)	184 (8.1)	266 (9.3)
と き ど き あ る	2,088 (28.8)	642 (30.4)	641 (28.4)	805 (28.0)
あ ま り な い	2,967 (41.0)	861 (40.7)	935 (41.4)	1,171 (40.8)
ま っ た く な い	1,492 (20.6)	364 (17.2)	499 (22.1)	629 (21.9)

キ 自分だけが悪く思われているという感じが

区 分	総 数	2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査
総 数	7,248 (100.0)	2,114 (100.0)	2,260 (100.0)	2,874 (100.0)
よ く あ る	1,468 (20.3)	547 (25.9)	436 (19.3)	485 (16.9)
と き ど き あ る	2,913 (40.2)	902 (42.7)	928 (41.1)	1,083 (37.7)
あ ま り な い	2,114 (29.2)	526 (24.9)	670 (29.6)	918 (31.9)
ま っ た く な い	753 (10.4)	139 (6.6)	226 (10.0)	388 (13.5)

ク 自分は意志が弱いという感じが

区 分	総 数	2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査
総 数	7,249 (100.0)	2,115 (100.0)	2,259 (100.0)	2,875 (100.0)
よ く あ る	2,557 (35.3)	832 (39.3)	791 (35.0)	934 (32.5)
と き ど き あ る	2,942 (40.6)	878 (41.5)	910 (40.3)	1,154 (40.1)
あ ま り な い	1,179 (16.3)	292 (13.8)	383 (17.0)	504 (17.5)
ま っ た く な い	571 (7.9)	113 (5.3)	175 (7.7)	283 (9.8)

ケ 自分がものごとに打ち込んでいるという感じが

区	分	総	数	2 年	調 査	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	7,244	(100.0)	2,115	(100.0)	2,258	(100.0)	2,871	(100.0)
よ	く	あ	る	1,470	(20.3)	313	(14.8)	442	(19.6)
と	き	ど	き	あ	る	3,309	(45.7)	955	(45.2)
あ	ま	り	な	い		2,167	(29.9)	757	(35.8)
ま	っ	た	く	な	い	298	(4.1)	90	(4.3)
						82	(3.6)	126	(4.4)

コ 自分は頼りにされているという感じが

区	分	総	数	2 年	調 査	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	7,245	(100.0)	2,112	(100.0)	2,260	(100.0)	2,873	(100.0)
よ	く	あ	る	904	(12.5)	286	(13.5)	259	(11.5)
と	き	ど	き	あ	る	3,606	(49.8)	1,017	(48.2)
あ	ま	り	な	い		2,260	(31.2)	673	(31.9)
ま	っ	た	く	な	い	475	(6.6)	136	(6.4)
						142	(6.3)	197	(6.9)

サ 自分の努力がだんだん実ってきているという感じが

区	分	総	数	2 年	調 査	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	7,243	(100.0)	2,112	(100.0)	2,260	(100.0)	2,871	(100.0)
よ	く	あ	る	1,001	(13.8)	212	(10.0)	306	(13.5)
と	き	ど	き	あ	る	3,225	(44.5)	913	(43.2)
あ	ま	り	な	い		2,456	(33.9)	820	(38.8)
ま	っ	た	く	な	い	561	(7.7)	167	(7.9)
						154	(6.8)	240	(8.4)

シ 世の中の人々は互いに助け合っているという感じが

区	分	総	数	2 年	調 査	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	7,239	(100.0)	2,109	(100.0)	2,258	(100.0)	2,872	(100.0)
よ	く	あ	る	1,675	(23.1)	391	(18.5)	501	(22.2)
と	き	ど	き	あ	る	2,854	(39.4)	833	(39.5)
あ	ま	り	な	い		2,184	(30.2)	732	(34.7)
ま	っ	た	く	な	い	526	(7.3)	153	(7.3)
						179	(7.9)	194	(6.8)

Q16 あなたは、あなたと同じくらいの年の人について、どう思いますか。次の中から、ひとつだけ選んで下さい。

ア 今、この場が楽しければそれでよいと思っている人は

区	分	総 数		10 年 調 査		今 回 調 査	
総	数	5,097	(100.0)	2,257	(100.0)	2,840	(100.0)
多	い	1,655	(32.5)	777	(34.4)	878	(30.9)
や や 多	い	2,202	(43.2)	923	(40.9)	1,279	(45.0)
どちらともいえない		772	(15.1)	373	(16.5)	399	(14.0)
や や 少 ない		299	(5.9)	118	(5.2)	181	(6.4)
少 ない		169	(3.3)	66	(2.9)	103	(3.6)

イ 気に入くないことがあると、カッとしたり、落ち込んだりしやすい人は

区	分	総	数	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	5,093	(100.0)	2,256	(100.0)	2,837	(100.0)
多	い	1,263	(24.8)	559	(24.8)	704	(24.8)
や や 多	い	2,246	(44.1)	933	(41.4)	1,313	(46.3)
どちらともいえない		835	(16.4)	422	(18.7)	413	(14.6)
や や 少 な	い	515	(10.1)	228	(10.1)	287	(10.1)
少	な	234	(4.6)	114	(5.1)	120	(4.2)

ウ いやなことがあっても、すぐ忘れようとする人は

区	分	総	数	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	5,075	(100.0)	2,237	(100.0)	2,838	(100.0)
多	い	872	(17.2)	407	(18.2)	465	(16.4)
や や 多	い	1,607	(31.7)	738	(33.0)	869	(30.6)
どちらともいえない		1,359	(26.8)	614	(27.4)	745	(26.3)
や や 少 な	い	994	(19.6)	395	(17.7)	599	(21.1)
少	な	243	(4.8)	83	(3.7)	160	(5.6)

エ ほかの人にどう思われているか、気になる人は

区	分	総	数	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	5,074	(100.0)	2,237	(100.0)	2,837	(100.0)
多	い	1,223	(24.1)	515	(23.0)	708	(25.0)
や や 多	い	1,756	(34.6)	788	(35.2)	968	(34.1)
どちらともいえない		1,090	(21.5)	512	(22.9)	578	(20.4)
や や 少 な	い	687	(13.5)	299	(13.4)	388	(13.7)
少	な	318	(6.3)	123	(5.5)	195	(6.9)

オ 大切なことであっても、まじめに考えずにごまかしてしまう人は

区	分	総	数	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	5,075	(100.0)	2,237	(100.0)	2,838	(100.0)
多	い	685	(13.5)	299	(13.4)	386	(13.6)
や や 多	い	1,743	(34.3)	768	(34.3)	975	(34.4)
どちらともいえない		1,223	(24.1)	562	(25.1)	661	(23.3)
や や 少 な	い	938	(18.5)	396	(17.7)	542	(19.1)
少	な	486	(9.6)	212	(9.5)	274	(9.7)

カ 自分がよければ、少しくらい人に迷惑をかけてもかまわないと思っている人は

区	分	総	数	10 年	調 査	今 回	調 査
総	数	5,074	(100.0)	2,237	(100.0)	2,837	(100.0)
多	い	1,093	(21.5)	454	(20.3)	639	(22.5)
や や 多	い	1,726	(34.0)	783	(35.0)	943	(33.2)
どちらともいえない		936	(18.4)	441	(19.7)	495	(17.4)
や や 少 な	い	755	(14.9)	315	(14.1)	440	(15.5)
少	な	564	(11.1)	244	(10.9)	320	(11.3)

キ いつもだれかと一緒にいたいと思っている人は

区 分	総 数	10 年 調 査	今 回 調 査
総 数	5,073 (100.0)	2,236 (100.0)	2,837 (100.0)
多 い	2,278 (44.9)	978 (43.7)	1,300 (45.8)
や や 多 い	1,819 (35.9)	783 (35.0)	1,036 (36.5)
どちらともいえない	729 (14.4)	349 (15.6)	380 (13.4)
や や 少 な い	181 (3.6)	97 (4.3)	84 (3.0)
少 な い	66 (1.3)	29 (1.3)	37 (1.3)

ク 悪い事だと思っても、仲間と一緒にになるとやってしまう人は

区 分	総 数	10 年 調 査	今 回 調 査
総 数	5,074 (100.0)	2,237 (100.0)	2,837 (100.0)
多 い	1,789 (35.3)	811 (36.3)	978 (34.5)
や や 多 い	1,815 (35.8)	825 (36.9)	990 (34.9)
どちらともいえない	734 (14.5)	312 (13.9)	422 (14.9)
や や 少 な い	418 (8.2)	173 (7.7)	245 (8.6)
少 な い	318 (6.3)	116 (5.2)	202 (7.1)

ケ 超能力や占いなどを信じる人は

区 分	総 数	10 年 調 査	今 回 調 査
総 数	5,072 (100.0)	2,236 (100.0)	2,836 (100.0)
多 い	441 (8.7)	169 (7.6)	272 (9.6)
や や 多 い	814 (16.0)	288 (12.9)	526 (18.5)
どちらともいえない	1,467 (28.9)	697 (31.2)	770 (27.2)
や や 少 な い	948 (18.7)	414 (18.5)	534 (18.8)
少 な い	1,402 (27.6)	668 (29.9)	734 (25.9)

Q17 非行あるいは非行少年について、お聞きします。次の中から、ひとつだけ選んで下さい。

ア あなたは、少年が非行に走るのは、どこに主な原因があると思いますか。

区 分	総 数	2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査
総 数	7,155 (100.0)	2,107 (100.0)	2,236 (100.0)	2,812 (100.0)
少 年 自 身	3,706 (51.8)	1,090 (51.7)	1,127 (50.4)	1,489 (53.0)
家 族 (親)	813 (11.4)	326 (15.5)	250 (11.2)	237 (8.4)
友 達 ・ 仲 間	2,266 (31.7)	583 (27.7)	763 (34.1)	920 (32.7)
そ の 他	370 (5.2)	108 (5.1)	96 (4.3)	166 (5.9)

イ あなたは、非行少年の扱いについて、次のどちらの意見に賛成ですか。

区 分	総 数	2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査
総 数	7,157 (100.0)	2,100 (100.0)	2,229 (100.0)	2,828 (100.0)
厳 し く 罰 す る	1,016 (14.2)	279 (13.3)	316 (14.2)	421 (14.9)
あ た た か く 指 導 す る	6,141 (85.8)	1,821 (86.7)	1,913 (85.8)	2,407 (85.1)

Q18 もし、あなたが法律で禁じられているような「悪い」ことをしようと思ったとき、あなたを思いとどまらせる心のブレーキになるのは次のどれですか。次の中からひとつだけ選んで下さい。

区 分	総 数	10 年 調 査	今 回 調 査
総 数	5,061 (100.0)	2,230 (100.0)	2,831 (100.0)
父 母 の こ と	1,103 (21.8)	475 (21.3)	628 (22.2)
兄弟を含めた家族全体のこと	2,034 (40.2)	856 (38.4)	1,178 (41.6)
友達から仲間はずれになること	212 (4.2)	108 (4.8)	104 (3.7)
学校や職場に対する迷惑のこと	170 (3.4)	76 (3.4)	94 (3.3)
社会からしろい目で見られること	82 (1.6)	39 (1.7)	43 (1.5)
警察につかまること	671 (13.3)	308 (13.8)	363 (12.8)
自分で自分がいやになるから	267 (5.3)	132 (5.9)	135 (4.8)
そ の 他	401 (7.9)	183 (8.2)	218 (7.7)
特に心のブレーキになるものはない	121 (2.4)	53 (2.4)	68 (2.4)

Q19 これからの生活で、あなたにとって大切と思えるものを3つ選んで下さい。

区 分	今 回 調 査
調 査 対 象 者 総 数	2,897 (100.0)
規則正しい生活を送る	1,539 (53.1)
お金のむだ使いをしない	424 (14.6)
健全な趣味や遊びをする	403 (13.9)
学校や仕事を休まずに続ける	1,605 (55.4)
資格や技術を身につける	532 (18.4)
知識を身につけ心を豊かにする	350 (12.1)
親の言うことをきく	608 (21.0)
家族の人と仲良くやっていく	773 (26.7)
悪い友達や先輩とはつき合わない	1,182 (40.8)
被害者のために何かお詫びをする	477 (16.5)
地元の人たちの役に立つことをする	86 (3.0)
保護観察官、保護司とよく相談する	402 (13.9)
もう少し要領よくふるまう	80 (2.8)
そ の 他	68 (2.3)

Q20 あなたは、今の自分の生き方に、どのくらい満足していますか。次の中からひとつだけ選んで下さい。

区 分	総 数	2 年 調 査	10 年 調 査	今 回 調 査
総 数	7,196 (100.0)	2,111 (100.0)	2,238 (100.0)	2,847 (100.0)
満 足	939 (13.0)	260 (12.3)	277 (12.4)	402 (14.1)
や や 満 足	1,741 (24.2)	538 (25.5)	503 (22.5)	700 (24.6)
どちらとも言えない	2,050 (28.5)	658 (31.2)	611 (27.3)	781 (27.4)
や や 不 満	1,493 (20.7)	354 (16.8)	572 (25.6)	567 (19.9)
不 満	973 (13.5)	301 (14.3)	275 (12.3)	397 (13.9)

巻末資料Ⅲ

保護者の意識に関する調査票

ほうむ そうごうけんきゅうじょ
法務総合研究所

このアンケートは、^{いま}今までの^こ子育てや、^{ひこ}お子さんの^ほ非行について、^{かた}保護者の方がどのように^{かんが}考えていらっしゃるかをおたずねするものです。

^{こじん}個人の^{ひみつ}秘密が^も漏れたり、^{しせつ}施設での^{せいせき}成績に^{かんけい}関係することは^{まった}全くありません。^{なまえ}名前を^{きにゆう}記入する^{ひつよう}必要もありませんので、^{こた}ありのままに^{くだ}答えてください。

^{こた}答えは、^{みぎがわ}右側の^{かいとうらん}回答欄に^{きにゆう}記入して^{くだ}下さい。

F1 あなたの^{ねんれい}年齢はおいくつですか。次の中からひとつだけ選んで番号を記入してください。

- 1 39歳以下 2 40～49歳 3 50～59歳 4 60歳以上

F2 あなたとお子さんとの^{かんけい}関係についてお聞きます。あなたはお子さんにとって何にあたりますか。次の中からひとつだけ選んで番号を記入して下さい。

- 1 父親 2 母親 3 義(養)父 4 義(養)母
5 祖父 6 祖母 7 おじ 8 おば
9 その他：男性 10 その他：女性

F3 お子さんの^{ねんれい}年齢はおいくつですか。次の中からひとつだけ選んで番号を記入してください。

- 1 14歳 2 15歳 3 16歳 4 17歳
5 18歳 6 19歳 7 20歳以上

F4 お子さんは^{だんし}男子ですか、^{じょし}女子ですか。次の中からひとつだけ選んで番号を記入して下さい。

- 1 男子 2 女子

Q1 お子さんが^{ちい}小さな^{しょうがっこう}ころ(小学校くらいまで)、あなたが^こお子さんを^{きょういく}教育する上で^{うえ}次のことをどのくらい^{たいせつ}大切に^{かんが}考えていましたか。次の中からひとつだけ選んで番号を記入してください。

ア 自由^{じゆう}にのびのび^{そだ}育つこと

- 1 とても大切に考えた 2 やや大切に考えた ア
3 あまり大切に考えなかった 4 まったく大切に考えなかった

イ 親^{おや}の言うことを^い聞くこと

- 1 とても大切に考えた 2 やや大切に考えた イ
3 あまり大切に考えなかった 4 まったく大切に考えなかった

ウ 勉強^{べんきょう}ができること

- 1 とても大切に考えた 2 やや大切に考えた ウ
3 あまり大切に考えなかった 4 まったく大切に考えなかった

次ページに続く

エ 社会しゃかいのルールを身みにつけること

1 とても大切たいせつに考えた

3 あまり大切たいせつに考えなかった

オ だれとでも仲良なかよくできること

1 とても大切たいせつに考えた

3 あまり大切たいせつに考えなかった

カ 忍耐力にんたいりよくを身みにつけること

1 とても大切たいせつに考えた

3 あまり大切たいせつに考えなかった

キ 個性こせいを伸ばすこと

1 とても大切たいせつに考えた

3 あまり大切たいせつに考えなかった

ク 親おやが子こどもの手本てほんとなること

1 とても大切たいせつに考えた

3 あまり大切たいせつに考えなかった

2 やや大切たいせつに考えた

4 まったく大切たいせつに考えなかった

2 やや大切たいせつに考えた

4 まったく大切たいせつに考えなかった

2 やや大切たいせつに考えた

4 まったく大切たいせつに考えなかった

2 やや大切たいせつに考えた

4 まったく大切たいせつに考えなかった

2 やや大切たいせつに考えた

4 まったく大切たいせつに考えなかった

エ

オ

カ

キ

ク

Q2 あなたの子育こそだてについて、次つぎのようなことがどのくらいあてはまると思いますか。次つぎの中から、ひとつだけ選えらんで番号ばんごうを記入きいりして下さい。

ア 子こどもの行こう動どうに無関心むかんしんだった

1 とてもそう思う

3 あまりそう思おもわない

イ 夫婦ふうふの子育こそだての方針ほうしんが一いっ致ちしていなかった

1 とてもそう思う

3 あまりそう思おもわない

ウ 子こどもとの会かい話わが少すくなかった

1 とてもそう思う

3 あまりそう思おもわない

エ 子こどもに口くちうるさかった

1 とてもそう思う

3 あまりそう思おもわない

オ 子こどもの問もん題だい行こう動どうに対たいして「別べつに悪わるいことではない」と思おもっていた

1 とてもそう思う

3 あまりそう思おもわない

カ 子こどもに感かん情じょう的てきに手てをあげていた

1 とてもそう思う

3 あまりそう思おもわない

キ 子こどもの好すきなようにさせていた

1 とてもそう思う

3 あまりそう思おもわない

2 ややそう思おもう

4 まったくそう思おもわない

2 ややそう思おもう

4 まったくそう思おもわない

2 ややそう思おもう

4 まったくそう思おもわない

2 ややそう思おもう

4 まったくそう思おもわない

2 ややそう思おもう

4 まったくそう思おもわない

2 ややそう思おもう

4 まったくそう思おもわない

2 ややそう思おもう

4 まったくそう思おもわない

ア

イ

ウ

エ

オ

カ

キ

次ページに続く

ク 子どもに十分な愛情をかけてあげなかった

- 1 とてもそう思う 2 ややそう思う
3 あまりそう思わない 4 まったくそう思わない

ク

Q3 あなたのお子さんが非行に走った原因について、次のようなことがどのくらいあてはまると思われますか。次の中からひとつだけ選んで番号を記入してください。

ア 家庭の問題

- 1 とてもあてはまる 2 ややあてはまる
3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない

ア

イ 友人の問題

- 1 とてもあてはまる 2 ややあてはまる
3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない

イ

ウ 学校の問題

- 1 とてもあてはまる 2 ややあてはまる
3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない

ウ

エ お子さん本人の問題

- 1 とてもあてはまる 2 ややあてはまる
3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない

エ

Q4 あなたのお子さんの非行について、次のことがあなたの現在のお考えにどのくらいあてはまると思われますか。次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入して下さい。

ア 親が変われば子どもも変わってくる

- 1 とてもあてはまる 2 ややあてはまる
3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない

ア

イ 親子の関係が良い方向に向かっている

- 1 とてもあてはまる 2 ややあてはまる
3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない

イ

ウ うちの子どもは付き合う相手を間違えやすい

- 1 とてもあてはまる 2 ややあてはまる
3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない

ウ

エ 子どもの非行によって親が気づかされたことがある

- 1 とてもあてはまる 2 ややあてはまる
3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない

エ

オ 親が思っている以上に子どもは真剣に考えている

- 1 とてもあてはまる 2 ややあてはまる
3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない

オ

カ いろいろと手をつくしたが、うまくいかないことが多い

- 1 とてもあてはまる 2 ややあてはまる
3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない

カ

次ページに続く

キ これまでの親の生き方を変えていくことが必要と感じている

1 とてもあてはまる

2 ややあてはまる

キ

3 あまりあてはまらない

4 まったくあてはまらない

ク 子どもの立ち直りの意欲を感じる

1 とてもあてはまる

2 ややあてはまる

ク

3 あまりあてはまらない

4 まったくあてはまらない

ケ 子どものことで苦勞することが多い

1 とてもあてはまる

2 ややあてはまる

ケ

3 あまりあてはまらない

4 まったくあてはまらない

Q5 あなたは、お子さんに対する少年院の教育に何を期待していますか。次の中で、あてはまるものをいくつか選び、番号の欄に○をつけてください。

1 今回の事件を反省できるようになること

2 規則正しい生活ができるようになること

3 資格や技術を身につけること

4 自分の将来を真剣に考えることができるようになること

5 二度と悪いことをしないようになること

6 人への思いやりの気持ちを持てるようになること

7 自分の意見をはっきり言えるようになること

8 体が健康で丈夫になること

9 被害者への謝罪の気持ちを持つようになること

10 勉強ができるようになること

11 親の言うことを聞くようになること

12 忍耐力を身につけること

13 その他

14 何も期待していない

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	

Q6 あなたご自身は、少年院にどのようなことをしてほしいですか。次の中であてはまるものをいくつか選び、番号の欄に○をつけてください。

1 どのような教育をしているのか、教育活動を見せてほしい。

2 できれば教育プログラムや行事などに子どもと一緒に参加させてほしい。

3 職員から子どもの生活の様子について教えてもらいたい。

4 被害者の方へどう謝罪すればよいのか相談に乗ってもらいたい。

5 子どもとの接し方について助言してもらいたい。

6 家族のことについて相談に乗ってもらいたい。

7 保護観察のことについて教えてもらいたい。

8 職員にいろいろと話を聞いてもらいたい。

9 その他

10 特になし

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	

次ページに続く

Q7 あなたは、お子さんの今後についてどのようなことを心配していますか。次の中で、あてはまるものをいくつか選び、番号の欄に○をつけてください。

- 1 地元の人が子どもをどう見るか
- 2 学校に通えるか
- 3 仕事が見つかるか
- 4 家族とうまく生活していけるか
- 5 以前の悪い仲間が誘いに来ないか
- 6 遊び中心の生活に戻ってしまわないか
- 7 被害者の家族にどのように謝罪すればよいか
- 8 保護観察官や保護司に子どもを分かってもらえるか
- 9 少年院に入ったことで悪く言われないか
- 10 警察に捕まるようなことをしてしまうのではないか
- 11 まじめな友だちと付き合ってくれるか
- 12 その他

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	

以上です。御協力ありがとうございました。

巻末資料Ⅳ 保護者の意識に関する調査票単純集計表

F1 あなたの年齢はおいくつですか。次の中からひとつだけ選んで下さい。

区	分	総	数
総	数	486	(100.0)
39	歳以下	86	(17.7)
40	～49歳	300	(61.7)
50	～59歳	91	(18.7)
60	歳以上	9	(1.9)

F2 あなたとお子さんとの関係についてお聞きます。あなたはお子さんにとって何にあたりますか。次の中からひとつだけ選んで下さい。

区	分	総	数
総	数	486	(100.0)
父	親	163	(33.5)
母	親	317	(65.2)
義(養)	父	2	(0.4)
義(養)	母	4	(0.8)

F3 お子さんの年齢はおいくつですか。次の中からひとつだけ選んで下さい。

区	分	総	数
総	数	486	(100.0)
14	歳	28	(5.8)
15	歳	56	(11.5)
16	歳	66	(13.6)
17	歳	100	(20.6)
18	歳	115	(23.7)
19	歳	104	(21.4)
20	歳以上	17	(3.5)

F4 お子さんは男子ですか、女子ですか。次の中からひとつだけ選んで下さい。

区	分	総	数
総	数	486	(100.0)
男	子	415	(85.4)
女	子	71	(14.6)

Q1 お子さんが小さなころ（小学校くらいまで）、あなたがお子さんを教育する上で次のことをどのくらい大切に考えていましたか。次の中からひとつだけ選んで下さい。

ア 自由にのびのび育つこと

区	分	総	数
総	数	484	(100.0)
とても大切に考えた		339	(70.0)
やや大切に考えた		121	(25.0)
あまり大切に考えなかった		22	(4.5)
まったく大切に考えなかった		2	(0.4)

イ 親の言うことを聞くこと

区	分	総	数
総	数	481	(100.0)
とても大切に考えた		263	(54.7)
やや大切に考えた		195	(40.5)
あまり大切に考えなかった		22	(4.6)
まったく大切に考えなかった		1	(0.2)

ウ 勉強ができること

区	分	総	数
総	数	481	(100.0)
とても大切に考えた		76	(15.8)
やや大切に考えた		266	(55.3)
あまり大切に考えなかった		130	(27.0)
まったく大切に考えなかった		9	(1.9)

エ 社会のルールを身につけること

区	分	総	数
総	数	480	(100.0)
とても大切に考えた		375	(78.1)
やや大切に考えた		88	(18.3)
あまり大切に考えなかった		14	(2.9)
まったく大切に考えなかった		3	(0.6)

オ だれとでも仲良くなれること

区	分	総	数
総	数	479	(100.0)
とても大切に考えた		348	(72.7)
やや大切に考えた		120	(25.1)
あまり大切に考えなかった		11	(2.3)
まったく大切に考えなかった		—	

カ 忍耐力を身につけること

区	分	総	数
総	数	480	(100.0)
とても大切に考えた		276	(57.5)
やや大切に考えた		171	(35.6)
あまり大切に考えなかった		29	(6.0)
まったく大切に考えなかった		4	(0.8)

キ 個性を伸ばすこと

区	分	総	数
総	数	480	(100.0)
とても大切に考えた		259	(54.0)
やや大切に考えた		179	(37.3)
あまり大切に考えなかった		40	(8.3)
まったく大切に考えなかった		2	(0.4)

ク 親が子どもの手本となること

区	分	総	数
総	数	480	(100.0)
とても大切に考えた		171	(35.6)
やや大切に考えた		193	(40.2)
あまり大切に考えなかった		105	(21.9)
まったく大切に考えなかった		11	(2.3)

Q2 あなたの子育てについて、次のようなことがどのくらいあてはまると思いますか。
次の中からひとつだけ選んで下さい。

ア 子どもの行動に無関心だった

区	分	総	数
総	数	479	(100.0)
とてもそう思う		32	(6.7)
ややそう思う		146	(30.5)
あまりそう思わない		167	(34.9)
まったくそう思わない		134	(28.0)

イ 夫婦の子育ての方針が一致していなかった

区	分	総	数
総	数	453	(100.0)
とてもそう思う		84	(18.5)
ややそう思う		194	(42.8)
あまりそう思わない		115	(25.4)
まったくそう思わない		60	(13.2)

ウ 子どもとの会話が少なかった

区	分	総	数
総	数	479	(100.0)
とてもしよう	う	69	(14.4)
ややしよう	う	158	(33.0)
あまりそう	思わない	148	(30.9)
まったくそう	思わない	104	(21.7)

エ 子どもに口うるさかった

区	分	総	数
総	数	480	(100.0)
とてもしよう	う	118	(24.6)
ややしよう	う	195	(40.6)
あまりそう	思わない	142	(29.6)
まったくそう	思わない	25	(5.2)

オ 子どもの問題行動に対して「別に悪いことではない」と思っていた

区	分	総	数
総	数	478	(100.0)
とてもしよう	う	71	(14.9)
ややしよう	う	52	(10.9)
あまりそう	思わない	61	(12.8)
まったくそう	思わない	294	(61.5)

カ 子どもに感情的に手をあげていた

区	分	総	数
総	数	474	(100.0)
とてもしよう	う	46	(9.7)
ややしよう	う	150	(31.6)
あまりそう	思わない	141	(29.7)
まったくそう	思わない	137	(28.9)

キ 子どもの好きなようにさせていた

区	分	総	数
総	数	478	(100.0)
とてもしよう	う	64	(13.4)
ややしよう	う	211	(44.1)
あまりそう	思わない	176	(36.8)
まったくそう	思わない	27	(5.6)

ク 子どもに十分な愛情をかけてあげなかった

区	分	総	数
総	数	478	(100.0)
と	ても	40	(8.4)
や	や	170	(35.6)
あ	まり	131	(27.4)
ま	ったく	137	(28.7)
	そう		
	思		
	わ		
	な		
	い		

Q3 あなたのお子さんが非行に走った原因について、次のようなことがどのくらいあてはまると思いますか。次の中からひとつだけ選んで下さい。

ア 家庭の問題

区	分	総	数
総	数	480	(100.0)
と	ても	122	(25.4)
や	や	199	(41.5)
あ	まり	124	(25.8)
ま	ったく	35	(7.3)
	あ		
	て		
	は		
	ま		
	る		

イ 友人の問題

区	分	総	数
総	数	479	(100.0)
と	ても	278	(58.0)
や	や	154	(32.2)
あ	まり	30	(6.3)
ま	ったく	17	(3.5)
	あ		
	て		
	は		
	ま		
	る		

ウ 学校の問題

区	分	総	数
総	数	479	(100.0)
と	ても	91	(19.0)
や	や	202	(42.2)
あ	まり	128	(26.7)
ま	ったく	58	(12.1)
	あ		
	て		
	は		
	ま		
	る		

エ お子さん本人の問題

区	分	総	数
総	数	479	(100.0)
と	ても	225	(47.0)
や	や	235	(49.1)
あ	まり	15	(3.1)
ま	ったく	4	(0.8)
	あ		
	て		
	は		
	ま		
	る		

Q4 あなたのお子さんの非行について、次のことがあなたの現在のお考えにどのくらいあてはまると思われますか。次の中からひとつだけ選んで下さい。

ア 親が変われば子どもも変わってくる

区	分	総	数
総	数	479	(100.0)
とてもあてはまる		174	(36.3)
ややあてはまる		185	(38.6)
あまりあてはまらない		96	(20.0)
まったくあてはまらない		24	(5.0)

イ 親子の関係が良い方向に向かっている

区	分	総	数
総	数	475	(100.0)
とてもあてはまる		222	(46.7)
ややあてはまる		210	(44.2)
あまりあてはまらない		35	(7.4)
まったくあてはまらない		8	(1.7)

ウ うちの子どもは付き合う相手を間違えやすい

区	分	総	数
総	数	478	(100.0)
とてもあてはまる		195	(40.8)
ややあてはまる		207	(43.3)
あまりあてはまらない		58	(12.1)
まったくあてはまらない		18	(3.8)

エ 子どもの非行によって親が気づかされたことがある

区	分	総	数
総	数	479	(100.0)
とてもあてはまる		218	(45.5)
ややあてはまる		221	(46.1)
あまりあてはまらない		36	(7.5)
まったくあてはまらない		4	(0.8)

オ 親が思っている以上に子どもは真剣に考えている

区	分	総	数
総	数	474	(100.0)
とてもあてはまる		161	(34.0)
ややあてはまる		210	(44.3)
あまりあてはまらない		89	(18.8)
まったくあてはまらない		14	(3.0)

カ いろいろと手をつくしたが、うまくいかないことが多い

区	分	総	数
総	数	477	(100.0)
と	てもあてはまる	155	(32.5)
や	やあてはまる	247	(51.8)
あまり	あてはまらない	57	(11.9)
まったく	あてはまらない	18	(3.8)

キ これまでの親の生き方を変えていくことが必要と感じている

区	分	総	数
総	数	479	(100.0)
と	てもあてはまる	138	(28.8)
や	やあてはまる	190	(39.7)
あまり	あてはまらない	113	(23.6)
まったく	あてはまらない	38	(7.9)

ク 子どもの立ち直りの意欲を感じる

区	分	総	数
総	数	477	(100.0)
と	てもあてはまる	293	(61.4)
や	やあてはまる	157	(32.9)
あまり	あてはまらない	23	(4.8)
まったく	あてはまらない	4	(0.8)

ケ 子どものことで苦勞することが多い

区	分	総	数
総	数	478	(100.0)
と	てもあてはまる	189	(39.5)
や	やあてはまる	223	(46.7)
あまり	あてはまらない	53	(11.1)
まったく	あてはまらない	13	(2.7)

Q5 あなたは、お子さんに対する少年院の教育に何を期待していますか。次の中で、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。

区 分	総 数
調 査 対 象 者 総 数	468 (100.0)
今回の事件を反省できるようになること	435 (92.9)
規則正しい生活ができるようになること	422 (90.2)
資格や技術を身につけること	329 (70.3)
自分の将来を真剣に考えることができるようになること	450 (96.2)
二度と悪いことをしないようになること	424 (90.6)
人への思いやりの気持ちを持てるようになること	407 (87.0)
自分の意見をはっきり言えるようになること	341 (72.9)
体が健康で丈夫になること	202 (43.2)
被害者への謝罪の気持ちを持つようになること	349 (74.6)
勉強ができるようになること	148 (31.6)
親の言うことを聞くようになること	223 (47.6)
忍耐力を身につけること	441 (94.2)
そ の 他	28 (6.0)
何 も 期 待 し て い な い	8 (1.7)

Q6 あなたご自身は、少年院にどのようなことをしてほしいですか。次の中で、あてはまるものをいくつでも選んで下さい。

区 分	総 数
調 査 対 象 者 総 数	468 (100.0)
どのような教育をしているのか、教育活動を見せてほしい	305 (65.2)
できれば教育プログラムや行事などに子どもと一緒に参加させてほしい	218 (46.6)
職員から子どもの生活の様子について教えてもらいたい	380 (81.2)
被害者の方にどう謝罪すればよいのか相談に乗ってもらいたい	81 (17.3)
子どもとの接し方について助言してもらいたい	150 (32.1)
家族のことについて相談に乗ってもらいたい	48 (10.3)
保護観察のことについて教えてもらいたい	106 (22.6)
職員にいろいろと話を聞いてもらいたい	86 (18.4)
そ の 他	17 (3.6)
特 に な し	26 (5.6)

Q7 あなたは、お子さんの今後についてどのようなことを心配していますか。次の中で、あてはまるものをいくつか選んで下さい。

区 分	総 数
調 査 対 象 者 総 数	468 (100.0)
地 元 の 人 が 子 ど も を ど う 見 る か	103 (22.0)
学 校 に 通 え る か	78 (16.7)
仕 事 が 見 つ か る か	223 (47.6)
家 族 と う ま く 生 活 し て い け る か	107 (22.9)
以 前 の 悪 い 仲 間 が 誘 い に 来 な い か	318 (67.9)
遊 び 中 心 の 生 活 に 戻 っ て し ま わ な い か	240 (51.3)
被 害 者 の 家 族 に ど の よ う に 謝 罪 す れ ば よ い か	66 (14.1)
保 護 観 察 官 や 保 護 司 に 子 ど も を 分 か っ て も ら え る か	108 (23.1)
少 年 院 に 入 っ た こ と で 悪 く 言 わ れ な い か	131 (28.0)
警 察 に 捕 ま る よ う な こ と を し て し ま う の で は な い か	159 (34.0)
ま じ め な 友 だ ち と 付 き 合 っ て く れ る か	205 (43.8)
そ の 他	17 (3.6)

法務総合研究所

調査の結果は、法務総合研究所における研究目的以外に使用されることはなく、個人の秘密が漏れることもありません。名前を記入する必要もありませんので、どうぞ御協力をお願いします。

- 1 忍耐力がなく、我慢ができない。
- 2 自分の感情をうまくコントロールできない。
- 3 楽しいことだけを追い求める。
- 4 人に対する思いやりや人の痛みに対する理解力・想像力に欠ける。
- 5 自分の気持ちをうまく言葉で説明できない。
- 6 人の話を聞こうとしない。
- 7 自分を否定的に見すぎる、あるいは劣等感が強い。
- 8 甘えの気持ちが強い。
- 9 自分がどんな人間か、よく分かっていない。
- 10 心を開かない。
- 11 話しかけても反応が鈍い、あるいは話の中身が伝わっているという感じがしない。
- 12 全体的にとらえどころがない。
- 13 自分の問題に向き合おうとしない。
- 14 何事も悩まない、あるいは悩めない。
- 15 その他（

16 特にない。

Q5 あなたの勤務経験上、最近の非行少年の処遇において、以前より大きくなっていると感じる「少年の規範意識面の問題」には、どのようなものがありますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1 物事の善悪を見極めることができない。
- 2 被害者に対する謝罪の気持ちがない。
- 3 これまでの非行の問題点の理解が深まらない。
- 4 決まりの大切さを理解できない。
- 5 損得勘定で物事を割り切ろうとする。
- 6 多少のことは許してもらえると軽く考えている。
- 7 その場の好き嫌いなど、感覚・感情で物事を判断する。
- 8 その他 ()
- 9 特にない。

Q6 あなたの勤務経験上、最近の非行少年の処遇において、以前より大きくなっていると感じる「少年の交友関係面の問題」には、どのようなものがありますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1 まわりの評価を気にし過ぎる。
- 2 まわりの誘いを断れない。
- 3 集団場面で見えや虚勢を張る。
- 4 対人関係を円滑に結ぶスキルが身に付いていない。
- 5 不良交友を断ち切れない。
- 6 まわりの人と協調しようとしない。
- 7 心から信頼し合える関係を持てない。
- 8 自分の言動が周囲に与える影響を分かっていない。
- 9 集団場面で気分が高揚して調子に乗る。
- 10 不良集団への所属意識が強い。
- 11 不良交友の問題が理解できない。
- 12 その他 ()
- 13 特にない。

Q7 あなたの勤務経験上、最近の非行少年の処遇において、以前より大きくなっていると感じる「学校・職場・地域社会との関係の問題」には、どのようなものがありますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1 勉強や資格取得への意欲が乏しい。
- 2 将来、何をしたいか分らない。
- 3 社会から落ちこぼれている、白い目で見られているというひがみが強い。
- 4 大人や社会一般に対する反抗心、反発が強い。
- 5 将来について夢のようなことばかり考えている。

- 6 将来を投げやりに見ている。
- 7 社会の中に少年の居場所がない。
- 8 その他 ()
- 9 特にない。

Q8 あなたの勤務経験上、最近の非行少年の処遇において、以前より大きくなっていると感じる「親の指導力の問題」には、どのようなものがありますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1 子どもの言いなりになっている。
- 2 子どもに言うことがその場その場で変わる。
- 3 子どもの悩みを抱え込んで、周りに相談しようとしない。
- 4 子どもの行動に無関心である。
- 5 子どもに親の考えを一方的に押し付ける。
- 6 子どもに対して過干渉的である。
- 7 子どもに期待過剰である。
- 8 虐待がある。
- 9 父母の指導が一致していない。
- 10 子どもの問題を他のせいにする。
- 11 子どもの行動に対する責任感がない。
- 12 その他 ()
- 13 特にない。

Q9 あなたの勤務経験上、最近の非行少年の処遇において、以前より大きくなっていると感じる「少年の家族関係の問題」には、どのようなものがありますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1 家族に対する感情を整理できない。
- 2 自分の非行が家族に与えた影響を理解できない。
- 3 家庭内で「いい子」でいようとしすぎる。
- 4 家庭内に引きこもろうとする。
- 5 家庭内で粗暴な振る舞いをする。
- 6 家族へのうらみ、あるいは反発が強い。
- 7 家族から疎外されている、あるいは見捨てられている。
- 8 家族との情緒的交流がない。
- 9 家庭内が不和である。
- 10 家族への依存が強い。
- 11 その他 ()
- 12 特にない。

Q10 以上の問題のうち、最近の非行少年の処遇において、最も難しくなってきたと感じる問題はどれですか。当てはまる番号に一つだけ○をつけてください。

巻末資料Ⅵ 最近の非行少年に関する職員の意識調査票単純集計表

Q1 あなたの性別を教えてください。

区 分	総 数	6 年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上30年未満	30 年 以 上
総 数	546 (100.0)	103 (100.0)	233 (100.0)	139 (100.0)	71 (100.0)
男 性	424 (77.7)	74 (71.8)	176 (75.5)	115 (82.7)	59 (83.1)
女 性	122 (22.3)	29 (28.2)	57 (24.5)	24 (17.3)	12 (16.9)

Q2 あなたの勤務年数を教えてください。

区 分	総 数
総 数	546 (100.0)
6 年 以 上 10 年 未 満	103 (18.9)
10 年 以 上 15 年 未 満	124 (22.7)
15 年 以 上 20 年 未 満	109 (20.0)
20 年 以 上 25 年 未 満	84 (15.4)
25 年 以 上 30 年 未 満	55 (10.1)
30 年 以 上	71 (13.0)

Q3 現在の勤務施設について教えてください。

区 分	総 数
総 数	546 (100.0)
女 子 少 年 院	122 (22.3)
男 子 少 年 院	382 (70.0)
医 療 少 年 院	42 (7.7)

Q4 あなたの勤務経験上、最近の非行少年の処遇において、以前より大きくなっていると感じる「少年の資質面の問題」には、どのようなものがありますか。当てはまるものすべてを選んで下さい。

区 分	総 数
調 査 対 象 者 総 数	546 (100.0)
忍 耐 心 が な く、我 慢 が で き な い	301 (55.1)
自 分 の 感 情 を う ま く コ ン ト ロ ー ル で き な い	301 (55.1)
楽 し い こ と だ け を 追 い 求 め る	166 (30.4)
人 対 する 思 い や り や 人 の 痛 み 対 する 理 解 力 ・ 想 像 力 に 欠 け る	345 (63.2)
自 分 の 気 持 ち を う ま く 言 葉 で 表 現 で き な い	204 (37.4)
人 の 話 を 聞 こ う と し な い	120 (22.0)
自 分 を 否 定 的 に 見 す ぎ る、あ る い は 劣 等 感 が 強 い	101 (18.5)
甘 え の 気 持 ち が 強 い	273 (50.0)
自 分 が ど ん な 人 間 か、よ く 分 か っ て い な い	135 (24.7)
心 を 開 か な い	56 (10.3)
話 し か け て も 反 応 が 鈍 い、あ る い は 話 の 中 身 が 伝 わ っ て い る と い う 感 じ が し な い	127 (23.3)
全 体 的 に と ら え ど こ ろ が な い	77 (14.1)
自 分 の 問 題 に 向 き 合 お う と し な い	150 (27.5)
何 事 も 悩 ま な い、あ る い は 悩 め な い	67 (12.3)
そ の 他	48 (8.8)
特 に な い	8 (1.5)

注 「その他」の自由記述欄において回答数が多かったものは、「幼い・しつけ不足」(10人)、「自己中心的」(9人)、「義理を感じない・情が通じにくい」(7人)、「体力の低下・精神面のもろさ」(7人)であった。

Q5 あなたの勤務経験上、最近の非行少年の処遇において、以前より大きくなっていると感じる「少年の規範意識面の問題」には、どのようなものがありますか。当てはまるものすべてを選んで下さい。

区 分	総 数
調 査 対 象 者 総 数	546 (100.0)
物 事 の 善 悪 を 見 極 め る こ と が で き な い	125 (22.9)
被 害 者 対 する 謝 罪 の 気 持 ち が な い	179 (32.8)
こ れ ま で の 非 行 の 問 題 点 の 理 解 が 深 ま ら な い	168 (30.8)
決 ま り の 大 切 さ を 理 解 で き な い	139 (25.5)
損 得 勘 定 で 物 事 を 割 り 切 ろ う と す る	154 (28.2)
多 少 の こ と は 許 し て も ら え る と 軽 く 考 え て い る	295 (54.0)
そ の 場 の 好 き 嫌 い な ど、感 覚 ・ 感 情 で 物 事 を 判 断 す る	331 (60.6)
そ の 他	31 (5.7)
特 に な い	28 (5.1)

注 「その他」の自由記述欄において回答数が多かったものは、「身勝手なルールで行動する」(5人)、「他への影響を考えられない」(4人)、「自分が悪いことをしたと認めない」(3人)、「価値判断基準がない」(3人)、「罪の意識が乏しい」(3人)であった。

Q6 あなたの勤務経験上、最近の非行少年の処遇において、以前より大きくなっていると感じる「少年の交友関係面の問題」には、どのようなものがありますか。当てはまるものすべてを選んで下さい。

区 分	総 数
調査対象者総数	546 (100.0)
まわりの評価を気にし過ぎる	119 (21.8)
まわりの誘いを断れない	221 (40.5)
集団場面で見えや虚勢を張る	167 (30.6)
対人関係を円滑に結ぶスキルが身に付いていない	314 (57.5)
不良交友を断ち切れない	154 (28.2)
まわりの人と協調しようとししない	122 (22.3)
心から信頼し合える関係を持ってない	220 (40.3)
自分の言動が周囲に与える影響を分かっていない	203 (37.2)
集団場面で気分が高揚して調子に乗る	144 (26.4)
不良集団への所属意識が強い	66 (12.1)
不良交友の問題が理解できない	133 (24.4)
その他	23 (4.2)
特にない	18 (3.3)

注 「その他」の自由記述欄において回答数が多かったものは、「交友関係が表面的・希薄」(6人)、「集団への帰属意識又は所属意識が低い」(3人)であった。

Q7 あなたの勤務経験上、最近の非行少年の処遇において、以前より大きくなっていると感じる「学校・職場・地域社会との関係の問題」には、どのようなものがありますか。当てはまるものすべてを選んで下さい。

区 分	総 数
調査対象者総数	546 (100.0)
勉強や資格への意欲が乏しい	63 (11.5)
将来、何をしたいか分からない	354 (64.8)
社会から落ちこぼれている、白い目で見られているというひがみが強い	53 (9.7)
大人や社会一般に対する反抗心、反発が強い	189 (34.6)
将来について夢のようなことばかり考えている	186 (34.1)
将来を投げやりに見ている	89 (16.3)
社会の中に少年の居場所がない	202 (37.0)
その他	41 (7.5)
特にない	26 (4.8)

注 「その他」の自由記述欄において回答数が多かったものは、「社会との繋がりが希薄」(6人)、「現実を認識していない」(4人)、「モデル欠如」(3人)であった。

Q8 あなたの勤務経験上、最近の非行少年の処遇において、以前より大きくなっていると感じる「親の指導力の問題」には、どのようなものがありますか。当てはまるものすべてを選んで下さい。

区 分	総 数
調 査 対 象 者 総 数	546 (100.0)
子どもの言いなりになっている	274 (50.2)
子どもに言うことがその場その場で変わる	68 (12.5)
子どもの悩みを抱え込んで、周りに相談しようとししない	55 (10.1)
子どもの行動に無関心である	268 (49.1)
子どもに親の考えを一方的に押し付ける	98 (17.9)
子どもに対して過干渉的である	129 (23.6)
子どもに期待過剰である	60 (11.0)
虐待がある	197 (36.1)
父母の指導が一致していない	106 (19.4)
子どもの問題を他のせいにする	236 (43.2)
子どもの行動に対する責任感がない	341 (62.5)
その他の	49 (9.0)
特にない	15 (2.7)

注 「その他」の自由記述欄において回答数が多かったものは、「親の指導力不足」(8人)、「子供よりも自分の都合を優先する」(6人)、「友達親子」(6人)であった。

Q9 あなたの勤務経験上、最近の非行少年の処遇において、以前より大きくなっていると感じる「少年の家族関係の問題」には、どのようなものがありますか。当てはまるものすべてを選んで下さい。

区 分	総 数
調 査 対 象 者 総 数	546 (100.0)
家族に対する感情を整理できない	142 (26.0)
自分の非行が家族に与えた影響を理解できない	207 (37.9)
家庭内で「いい子」でいようとすすぎる	49 (9.0)
家庭内に引きこもろうとする	42 (7.7)
家庭内で粗暴な振る舞いをする	104 (19.0)
家族へのうらみ、あるいは反発が強い	146 (26.7)
家族から疎外されている、あるいは見捨てられている	151 (27.7)
家族との情緒的交流がない	351 (64.3)
家庭内が不和である	195 (35.7)
家族への依存が強い	79 (14.5)
その他の	30 (5.5)
特にない	25 (4.6)

注 「その他」の自由記述欄において回答数が多かったものは、「家族関係が表面的」(7人)、「家族関係が希薄」(5人)、「離婚家庭が増加」(4人)であった。

Q10 以上の問題のうち、最近の非行少年の処遇において、最も難しくなっていると感じる問題はどれですか。当てはまるものをひとつだけ選んで下さい。

区	分	総	数
総	数	492	(100.0)
少年の資質面の問題		191	(38.8)
少年の規範意識面の問題		39	(7.9)
少年の交友関係の問題		16	(3.3)
学校・職場・地域社会との関係の問題		31	(6.3)
親の指導力の問題		120	(24.4)
少年の家族関係の問題		70	(14.2)
その他		15	(3.0)
特にない		10	(2.0)

Q11 最近の非行少年について、「以前と比べて、抱えている問題の中身が変化した。」という意見がありますが、あなたは、どのように思いますか。次のうち、当てはまるものをひとつだけ選んで下さい。

区	分	総	数
総	数	542	(100.0)
かなり変化したと思う		98	(18.1)
やや変化したと思う		246	(45.4)
どちらともいえないと思う		135	(24.9)
あまり変化していないと思う		59	(10.9)
まったく変化していないと思う		4	(0.7)

Q12 最近の非行少年について、「以前と比べて、接し方や処遇の難しい非行少年の割合が増えた。」という意見がありますが、あなたは、どのように思いますか。次のうち、当てはまるものをひとつだけ選んで下さい。

区	分	総	数
総	数	542	(100.0)
かなり増えたと思う		153	(28.2)
やや増えたと思う		241	(44.5)
あまり変わらないと思う		139	(25.6)
やや減ったと思う		7	(1.3)
かなり減ったと思う		2	(0.4)

Q13 最近の非行少年の保護者について、「以前と比べて、子どもに対する指導力に問題のある保護者の割合が増えた。」という意見がありますが、あなたは、どのように思いますか。次のうち、当てはまるものをひとつだけ選んで下さい。

区	分	総	数
総	数	542	(100.0)
かなり増えたと思う		223	(41.1)
やや増えたと思う		225	(41.5)
あまり変わらないと思う		92	(17.0)
やや減ったと思う		1	(0.2)
かなり減ったと思う		1	(0.2)

平成 18 年 3 月 印刷

平成 18 年 3 月 発行

東京都千代田区霞が関 1-1-1

編集兼
発行人 法務総合研究所

印刷所 ヨシダ印刷両国工場
